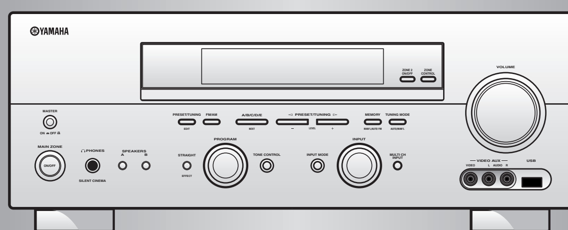
YAMAHA

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-N600



取扱説明書

ヤマハ DSP AV アンプ DSP-N600 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

もくじ

はじめに

接続する

再生前の基本設定

基本的な再生のしかた

いろいろな再生のしかた

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）

リモコンを使いこなす

便利な機能

オリジナルのリスニング環境をつくる

その他の情報

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告**　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意**　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

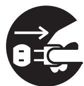
 警告

電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



本機のMASTER ON/OFFスイッチをオフ（切）にする、またはMAIN ZONE ON/OFFスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。



必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。



本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池


禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止


分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置


水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。


禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意


禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。


必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。


禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ


必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード


プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。


禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池


必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

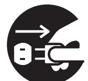

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意


必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

本機の特長

高音質ハイパワー 6 チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、歪率0.09%)
フロントL／Rチャンネル： 95W + 95W
センターチャンネル： 95W
サラウンドL／Rチャンネル： 95W + 95W
サラウンドバックチャンネル： 95W

最新の音響技術に対応

◆ ドルビープロロジックデコーダー
ドルビープロロジックIIデコーダー
ドルビープロロジックIIxデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
DTS／DTS-ESマトリクス6.1デコーダー
ディスクリート6.1デコーダー
DTS Neo:6デコーダー
DTS 96／24デコーダー
◆ AACデコーダー

高機能FM／AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

高音質設計

◆ 192kHz､24ビットのD／Aコンバーターを採用

iPod® 対応のヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続機能

◆ iPod（クリックホイール、nano、mini）の再生が楽しめるヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備

ネットワークオーディオ再生機能

◆ パソコンに保存されている音楽ファイルの再生や、vTuner社のデータベースサービスを利用してのインターネットラジオ放送が楽しめる、ホームネットワーク接続用LAN端子を装備

USBデバイス再生機能

◆ USBデバイスを接続して、音楽ファイルの再生が楽しめるUSB端子を装備

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ シネマDSP：ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS（デジタルシアターシステムズ）、AAC（アドバンストオーディオコーディング）の融合
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる「サイレントシネマ」
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能

AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 操作内容を本機につないだテレビに表示するオンスクリーン表示機能
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ DVDオーディオやスーパーオーディオCDにも対応できるマルチチャンネル入力（MULTI CH IN）端子
◆ Sビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ（D4ビデオ）入出力端子
◆ 光デジタル（OPTICAL)、同軸デジタル（COAXIAL)入出力端子
◆ ビデオコンバージョン機能：
コンポジットビデオ、Sビデオから、コンポーネントビデオへのアップコンバージョンおよびSビデオからコンポジットビデオへのダウンコンバージョン
◆ スリープタイマー
◆ ナイトリスニングモード（映画用／音楽用）
◆ 外部機器や、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など)にセットしたiPodを操作できるリモコンコード設定機能付きリモコン
◆ 圧縮オーディオフォーマットをよりダイナミックに再生するコンプレストミュージックエンハンサーモード
◆ 本機を設置している部屋とは別の部屋で、異なるソースを楽しめるマルチゾーン機能

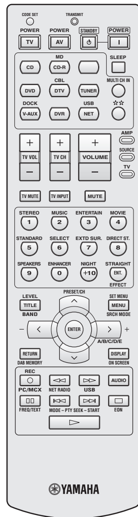


音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

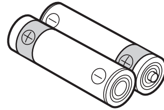
付属品を確認する

付属品を確認してください。

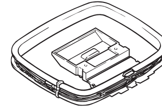
リモコン



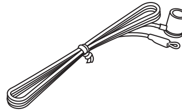
単３乾電池（2 本）



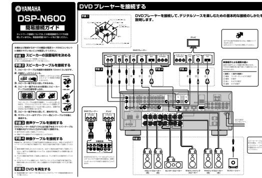
AM ループアンテナ



FM 簡易アンテナ



簡易接続ガイド





ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS、DTS-ES Extended Surround、NEO:6およびDTS 96／24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。



「サイレントシネマ　SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。



iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標または登録商標です。



Fraunhofer Institut
Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術は Fraunhofer IIS および Thomson によってライセンス供与されています。



AAC ロゴマーク AAC はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729



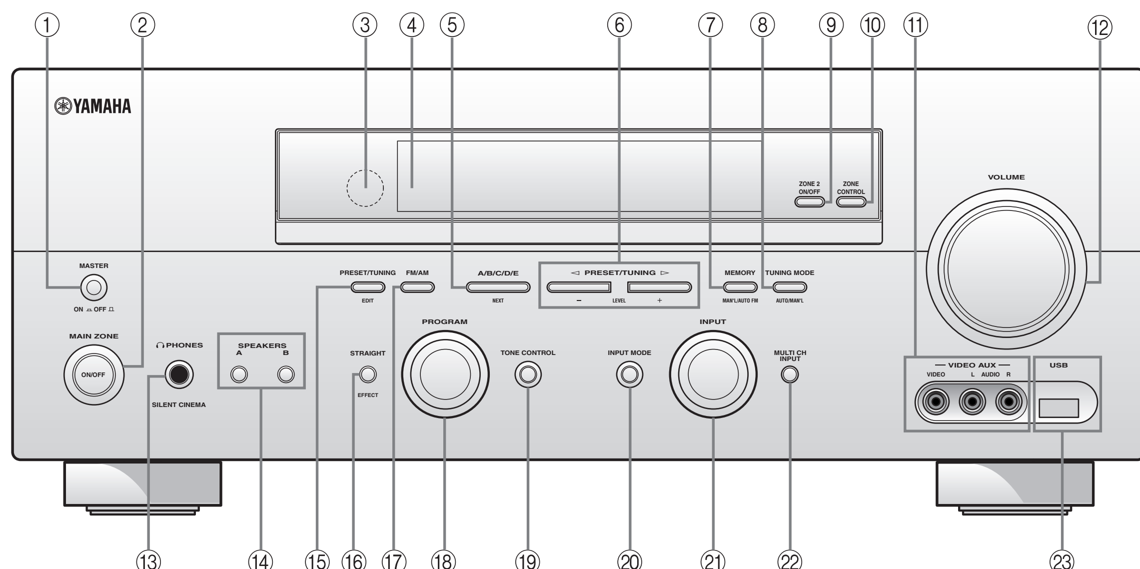
本機はネットワーク接続に対応しています。

Windows XP、Windows Media Audio、Windows Media Connectは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

本製品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）



① MASTER ON ／ OFF スイッチ

本機の電源をオン／オフします。
オンにするとメインゾーンの電源も連動してオンになります。オンになっているときにはフロントパネルスイッチまたはリモコンキーで本機を操作することができます（☞35 ページ）。
電源を入れてから数秒間は音が出ません。

ご注意

オフになっている間も、少量の電力を消費しています。

② MAIN ZONE ON/OFF スイッチ

MASTER ON ／ OFF スイッチがオンのとき、メインゾーンの電源のオン／スタンバイ（待機状態）を切り替えます（☞35 ページ）。

ご注意

スタンバイになっている間も、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

③ リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します。

④ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定などを表示します（☞13 ページ）。

⑤ A/B/C/D/E キー

FM ／ AM ラジオ放送を聴くときに、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞65 ～ 67 ページ）。

NEXT キー

入力が TUNER 以外のとき、音量を調節するスピーカーを選びます（☞102 ページ）。

⑥ PRESET/TUNING ⊲ ／ ⊳ キー

聴く放送局を選びます。1 ～ 8 の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（☞65 ～ 67 ページ）。

LEVEL －／＋キー

入力が TUNER 以外のとき、NEXT キー（⑤）で選んだスピーカーの音量を調節します（☞102 ページ）。

⑦ MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キー

受信した放送局を登録（プリセット）します。3 秒以上押すと、オートプリセット機能になります（☞64、65 ページ）。

⑧ TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キー

自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します（☞45 ページ）。

⑨ ZONE 2 ON/OFFキー

MASTER ON／OFFスイッチがオンのとき、ゾーン２の電源のオン／スタンバイ（待機）を切り替えます（☞115 ページ）。

⑩ ZONE CONTROLキー

操作するゾーン（メインゾーン／ゾーン2）を切り替えます（☞115 ページ）。

⑪ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラなどの外部機器を接続する予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで、「V-AUX」を選んでください。

ご注意

iPodをセットしたヤマハ製ドック（別売YDS-10など）をDOCK端子に接続しているときは、DOCK端子からの入力信号が優先されます。

⑫ VOLUMEコントロール

本機の音量を調節します（☞48 ページ）。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑬ 🎧 PHONES（SILENT CINEMA）端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーやサブウーファーから音が出ません。深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホン接続時は、サイレントシネマモードで音声を楽しめます（☞52 ページ）。

⑭ SPEAKERS A／Bスイッチ

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞43 ページ）。

⑮ PRESET/TUNING（EDIT）キー

FM／AM放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数から選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（☞45、64、67 ページ）。

⑯ STRAIGHT／EFFECTキー

音場効果をかけない音声と、音場効果をかけた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞63 ページ）。

⑰ FM/AMキー

ラジオ放送局のFM、AMを切り替えます（☞46 ページ）。

⑱ PROGRAMセレクター

音場プログラムを選びます。また、TONE CONTROLキーを押したあとにスピーカーから出力される低音（BASS）／高音（TREBLE）の調節をするときに回します（☞44、47、48 ページ）。

⑲ TONE CONTROLキー

フロントL／Rスピーカーから出力される音声の音色を調節するときに押します（☞48 ページ）。

⑳ INPUT MODEキー

１つの外部機器を本機の２つ以上の入力端子に接続している場合に、入力信号（AUTO、DTS、AAC、ANALOG）の優先順位を設定します（☞101 ページ）。

㉑ INPUTセレクター

再生する入力ソースを選びます（☞43、45、48 ページ）。

㉒ MULTI CH INPUTキー

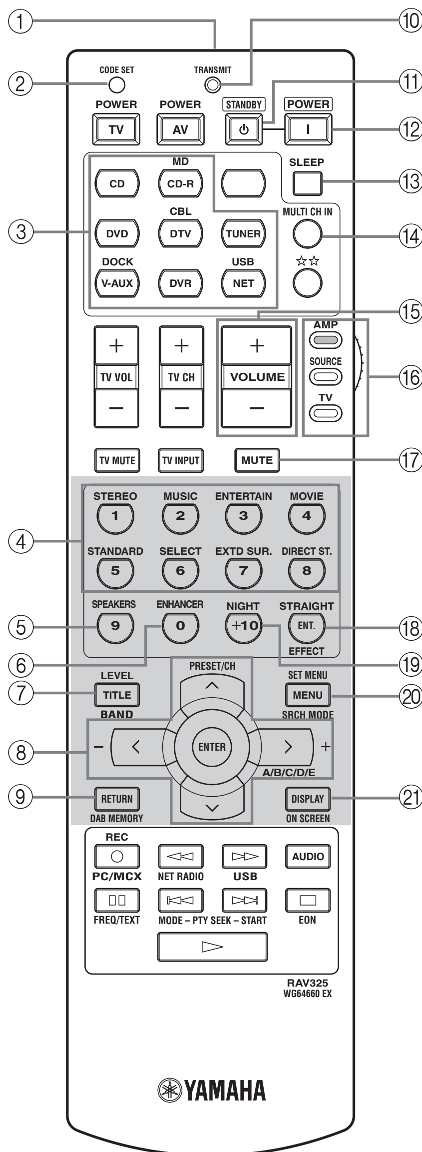
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりもMULTI CH INPUT信号が優先されます（☞52 ページ）。

㉓ USB端子

USBデバイスを接続します（☞31 ページ）。

リモコン

下図の灰色部分にあるキーは、操作機器選択スイッチの位置によって操作内容が変わります。本機のアンプ機能は、操作機器選択スイッチ（⑯）でAMPを選択しているときに操作することができます（アンプモード）。また、操作機器選択スイッチでSOURCEを選択し、入力選択キーのTUNERを押せば、チューナー機能を操作することができます（チューナーモード）。
このリモコンを使って、他の機器も操作することができます。他の機器の操作について詳しくは、「本機のリモコンで他の機器を操作する」（☞93 ページ）、「iPodを操作する」（☞106 ページ）、「ネットワークオーディオ/USBデバイスを操作する」（☞109 ページ）をご覧ください。



■ アンプ機能の操作

① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します（☞15 ページ）。送信部を操作したい機器に向けてください。

② CODE SET ボタン

リモコンコードを設定するときに押します（☞93、99、100 ページ）。

③ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます（☞43、45、48 ページ）。選んだ入力ソースに応じて、リモコンの機能も切り替わります。また、リモコンキーを押すたびに入力選択キーが約5秒間点灯し、どの入力が選ばれているかお知らせします。

④ 音場プログラムキー

音場プログラムを選びます（☞44、47 ページ）。

SELECTキー

2チャンネルソースをマルチチャンネル再生するためのデコーダーを選択します（☞51 ページ）。

EXTD SUR. キー

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトを6.1チャンネルで再生します（☞50 ページ）。

DIRECT ST.キー

2チャンネルソースを高品位で再生します（☞60 ページ）。

⑤ SPEAKERS キー

FRONT A／B SPEAKERS端子に接続されたフロントL／Rスピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞43、45 ページ）。押すたびに「A→B→ABオフ」と切り替わります。

⑥ ENHANCER キー

コンプレストミュージックエンハンサーモードのオン/オフを切り替えます（☞62 ページ）。

⑦ LEVEL キー

各スピーカー（フロントL／R、センター、サラウンドL／R、サラウンドバック、サブウーファー）の音量調節モードに切り替えます（☞102 ページ）。

⑧ カーソル（∧／∨／＜／＞）キー、ENTER キー

カーソルキーでセットメニューや音場プログラムパラメーターを選び、ENTER キーで決定します。

⑨ RETURN キー

セットメニューを設定しているときに、1 つ前のメニュー表示に戻ります（☞38、71 ページ）。

⑩ TRANSMIT インジケーター

リモコン操作の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

⑪ STANDBY キー

本機の電源をスタンバイ（待機状態）にします（☞35 ページ）。

⑫ POWER キー

本機の電源をオンにします（☞35 ページ）。

⑬ SLEEP キー

スリープタイマーを設定します（☞103 ページ）。

⑭ MULTI CH IN キー

本機背面の MULTI CH INPUT 端子に入力されている信号を選びます。この入力が選ばれているときは、INPUT セレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも MULTI CH INPUT 信号が優先されます（☞52 ページ）。

⑮ VOLUME ＋／－キー

本機の音量を調節します（☞48 ページ）。
録音用の OUT（REC）端子の音量には影響しません。

⑯ 操作機器選択スイッチ

灰色部分のキーの操作内容を切り替えます（☞93 ページ）。

- AMP：本機のアンプ機能を操作するときに選びます。
- SOURCE：本機のチューナー機能を操作したり、入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- TV：TV を操作するときに選びます。

⑰ MUTE キー

一時的に音量を下げます（☞48 ページ）。

⑱ STRAIGHT ／ EFFECT キー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2 チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞63 ページ）。

⑲ NIGHT キー

ナイトリスニングモードを切り替えます。ナイトリスニングモードを使うと、夜間など、小音量で音声を楽しむことができます（☞61 ページ）。

⑳ SET MENU キー

セットメニューの設定に入るときに押します（☞71 ページ）。

㉑ ON SCREEN キー

テレビ画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります（☞37 ページ）。

■ チューナー機能の操作

④ プリセット番号キー（1 ～ 8）

1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞66 ページ）。

⑦ BAND キー

FM ／ AM 局で最後に受信した局に切り替えます。

⑧ カーソル（∧／∨／＜／＞）キー

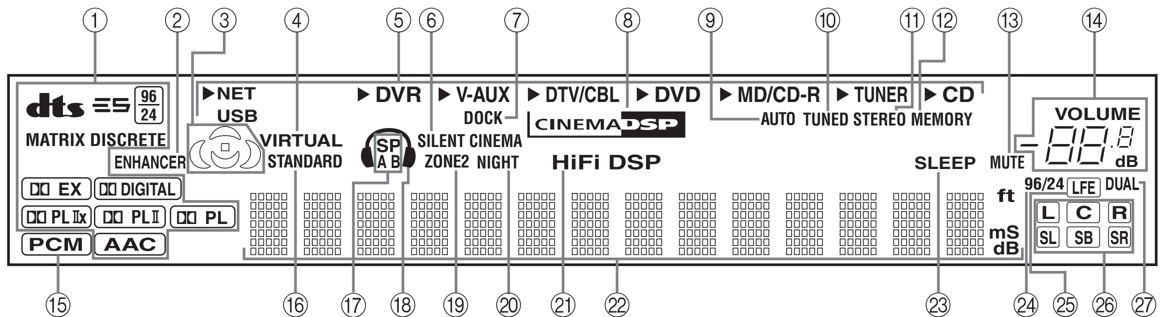
A/B/C/D/E ＜／＞キー

プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞65、66 ページ）。

PRESET/ CH ∧／∨キー

1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞66 ページ）。

ディスプレイ



① デコーダーインジケーター

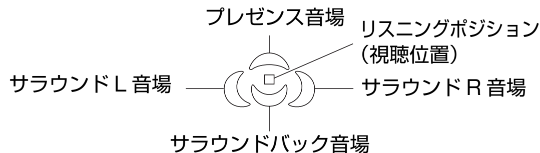
本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。

② ENHANCERインジケーター

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生しているときに点灯します（☞62 ページ）。

③ 音場インジケーター

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどの音場を使って再生しているかを表示します。



④ VIRTUALインジケーター

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（☞53 ページ）。

⑤ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソースの名前の左側に、赤色の「▶」が点灯します。

⑥ SILENT CINEMAインジケーター

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します（☞52 ページ）。

⑦ DOCKインジケーター

ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodからの信号を本機が認識しているときに点灯します。

⑧ CINEMA DSPインジケーター

CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（☞56 ページ）。

⑨ AUTOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選ぶときに点灯します（☞45 ページ）。

⑩ TUNEDインジケーター

FM ／ AM 放送局を受信したときに点灯します（☞45 ページ）。

⑪ STEREOインジケーター

自動（オート）でFM／AM放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⑫ MEMORYインジケーター

放送局を登録（プリセット）するときに点滅します（☞64、65 ページ）。

⑬ MUTEインジケーター

MUTEキーを押して、一時的に音量を下げているあいだに点滅します（☞48 ページ）。

⑭ VOLUMEインジケーター

現在の音量を表示します。

⑮ PCMインジケーター

PCM信号を再生しているときに点灯します。
（PCM＝Pulse Code Modulation）

⑯ STANDARD（スタンダード）インジケーター

SUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDが選択されているときに点灯します（☞51 ページ）。

⑰ SP（スピーカー） A／Bインジケーター

選んでいるフロントL／Rスピーカー（A、B）を表示します（☞43、45 ページ）。

⑱ ヘッドホンインジケーター

フロントパネルのPHONES（SILENT CINEMA）端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⑲ ZONE2（ゾーン）インジケーター

ゾーン２の電源がオンのときに点灯します(☞115 ページ)。

⑳ NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（☞61 ページ）。

㉑ HiFi（ハイファイ） DSPインジケーター

HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（☞55 ページ）。

㉒ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラムの名前や設定値、放送局の周波数やプリセット番号などを表示します。

㉓ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します(☞103 ページ)。

㉔ 96／24インジケーター

DTS 96／24信号が入力されているときに点灯します。

㉕ LFEインジケーター

入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

㉖ 入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します。

スピーカーインジケーター

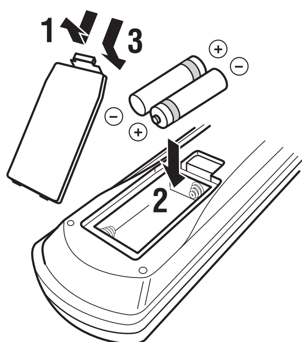
BASIC SETUPを設定しているときに、接続されているスピーカーを表示します（☞38 ページ）。

㉗ DUAL（デュアル）インジケーター

ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONO（音声二重モノラル）（☞78 ページ）のデジタル信号が入力されているときに点灯します。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる



1 リモコンの電池カバーのタブを押しながら、カバーをリモコンから取りはずす。

2 付属の単３乾電池（２本）を、リモコンの電池ケースに入れる。

電池のプラス（＋）、マイナス（－）極性の向きを正しく入れてください。

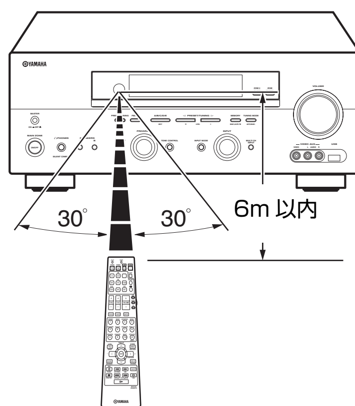
3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

- リモコンで操作しにくくなった場合や、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない、または光が弱い場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



ヒント

リモコンでうまく操作できないときは、以下のことを確認してください。

－本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
⇒布などを取り除いてください。

－本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていませんか？
⇒照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。

－乾電池が消耗していませんか？
⇒すべての電池を新しいものに変えてください。

■ リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶、そのほかの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 下記のような場所には置かないようご注意ください。
  - 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  - 暖房器具、ストーブの近くなど、温度が高いところ
  - 極端に寒いところ
  - ほこりの多いところ

スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

本機はフロントL／Rスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンドL／Rスピーカー（2本）、サラウンドバックスピーカー（1本）の6スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
また、サブウーファーを使うと、より豊かな音場効果を再現できます。

■ スピーカーを選ぶポイント

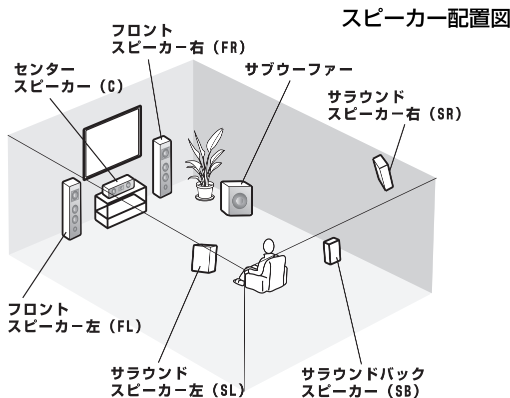
- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーを使うことをおすすめします。
- 各スピーカーは同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのものを揃えることをおすすめします。

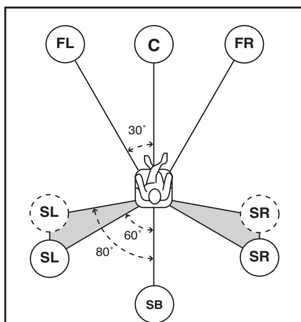
■ 各スピーカーの役割と設置

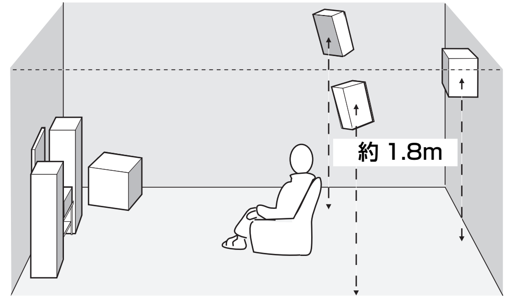
下の図は、本機の性能を最大限に発揮できるスピーカー配置を示したもので、ITU-R基準配置（*）に対応しています。シネマDSPの音場効果から、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルオーディオ再生までお楽しみいただけます。

* ITU-R 基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

スピーカー配置図







フロントL／Rスピーカー（FL／FR）
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1／4位の高さが適当です。

センタースピーカー（C）
会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL／Rスピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

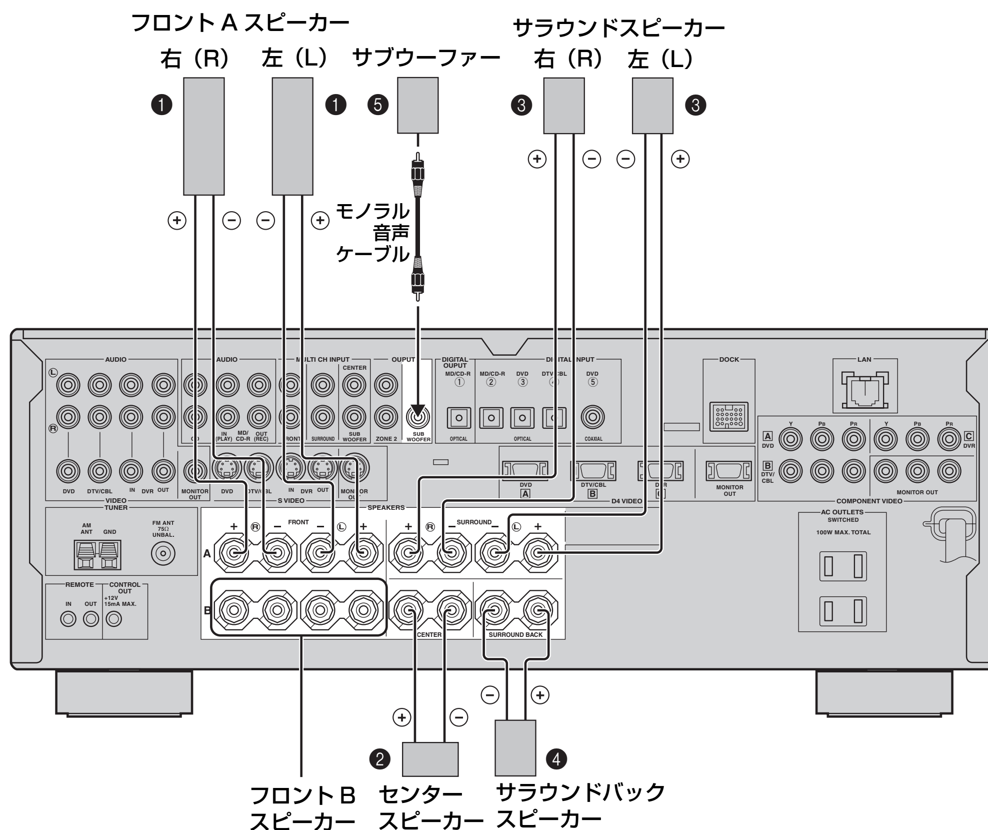
サラウンドL／Rスピーカー（SL／SR）
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

サラウンドバックスピーカー（SB）
後方の効果音を出力します。
後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

サブウーファー
ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE（低域効果音）信号や、低音を出力します。
前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。

スピーカーを接続する

下図のようにスピーカーを接続します。
各スピーカーの配置については、16 ページをご覧ください。



FRONT 端子

フロントL／Rスピーカー（❶）用の出力端子です。フロントスピーカーを１組のみ設置する場合は、A、Bどちらかの端子へ接続してください。

ヒント

フロントL／Rスピーカーを２組設置したい場合や、もう１組のフロントL／Rスピーカーを別の部屋に設置して音声を楽しむ場合は、FRONT A／B端子の両方に接続します。

CENTER 端子

センタースピーカー（❷）用の出力端子です。

SURROUND 端子

サラウンドL／Rスピーカー（❸）用の出力端子です。

SURROUND BACK 端子

サラウンドバックスピーカー（❹）用の出力端子です。

SUBWOOFER 端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファー（❺）をお使いになる場合に使用します。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。フロント L ／ R スピーカーを A、B 両方の端子に接続してお使いになる場合は、1 台につき 12Ω 以上のものをお使いください。
- スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーをお使いになりますと、テレビの画像が乱れることがあります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーをお使いください。
  防磁型スピーカーをお使いの場合でも画像が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。

■ スピーカーケーブルを接続する

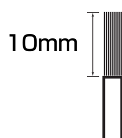
右チャンネル（R）、左チャンネル（L）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなります。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源コードが AC アウトレットに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+（プラス）側と−（マイナス）側が接触すると、保護回路が作動して電源がスタンバイになることがあります。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。
異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。

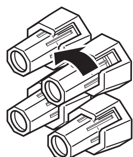
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mm ぐらいはがす。



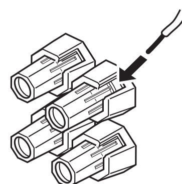
2 芯線をしっかりとよじる。



3 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

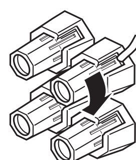


4 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。



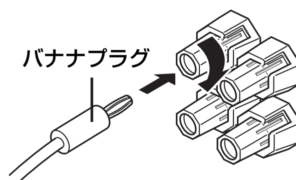
赤：+（プラス）
黒：−（マイナス）

5 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。



市販のバナナプラグを使う場合

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



外部機器と接続する

接続の前に

ご注意

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ 接続に使うケーブルの種類

お使いの機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音声

1 同軸ケーブル
同軸デジタル端子（COAXIAL）
（オレンジ）

2 光ファイバーケーブル
光デジタル端子（OPTICAL）



3 ステレオピンケーブル
アナログ端子（ANALOG）
（白）
（赤）

4 モノラルピンケーブル
（黒）

映像

1 D端子ケーブル
D端子（D4 VIDEO）



2 コンポーネントビデオケーブル
コンポーネントビデオ端子
（COMPONENT VIDEO）
（緑）
（青）
（赤）

3 Sビデオピンケーブル
Sビデオ端子（S VIDEO）



4 ビデオ用ピンケーブル
ビデオ端子（VIDEO）
（黄）

LAN

ストレートLANケーブル（CAT5以上）
LAN端子（LAN）

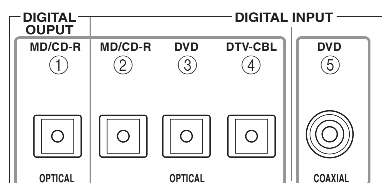


■ アナログ音声端子について

オーディオ機器を本機のアナログ端子に接続すると、アナログ音声をお楽しみいただけます。
接続には、ステレオピンケーブルまたはモノラルピンケーブルを使用します。ステレオピンケーブルを使用する場合は、赤いプラグを「R」端子へ、白いプラグを「L」端子へ接続してください。

■ デジタル音声端子について

本機はデジタル信号を直接伝送できる同軸デジタル（COAXIAL）端子と光デジタル（OPTICAL）端子を装備しています。
接続には、同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。



光デジタル端子（OPTICAL）　同軸デジタル端子（COAXIAL）

- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。
  32kHz：　BSアナログ放送（Aモード）
  44.1kHz：CD、MD
  48kHz：　DVD（48kHzモード）、
  　　　　　BSアナログ放送（Bモード）、
  　　　　　BS／地上波デジタル放送
  96kHz：　DVD（96kHzモード）

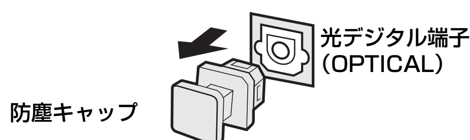
ヒント
セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で、端子の割り当てを変更できます（☞79ページ）。

ご注意

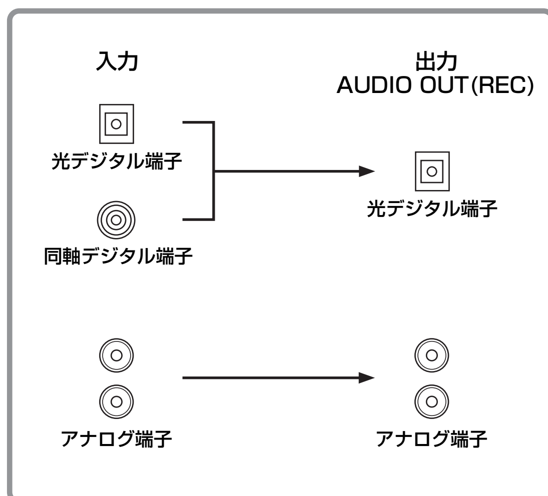
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。アナログ端子から入力されたアナログ信号はアナログ出力端子（AUDIO OUT (REC)）へのみ出力されます。また、デジタル入力端子（DIGITAL INPUT）から入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子（DIGITAL OUTPUT）からのみ出力されます。
- 本機の光デジタル端子は、JEITA（旧 EIAJ）規格に基づいて設計されています。JEITA 規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に作動しないことがあります。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。抜いたキャップは大切に保管し、端子を使わないときには、ほこりの侵入を防ぐため、必ずキャップを差し込んでください。



音声出力端子への音声信号の流れ



■ 映像端子について

本機は４種類の映像端子を装備しています。最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。

❶ ビデオ端子



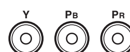
コンポジットビデオ信号を伝送します。

❷ Sビデオ端子



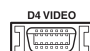
Sビデオ信号（色信号：C、輝度信号：Y）を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器をSビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）よりも高画質な映像を再生できます。

❸ コンポーネントビデオ端子



コンポーネントビデオ信号（輝度信号：Y、青色差信号：P_B、赤色差信号：P_R）を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器をコンポーネントビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）またはSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

❹ D4ビデオ端子



コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を伝送します。
D端子がある機器をD4ビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）やSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

ヒント

- コンポーネントビデオ出力（MONITOR OUT）端子とD4 ビデオ出力（MONITOR OUT）端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4 ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。
- セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で、コンポーネントビデオ入力端子およびD4ビデオ入力端子の割り当てを変更できます（☞79 ページ）。

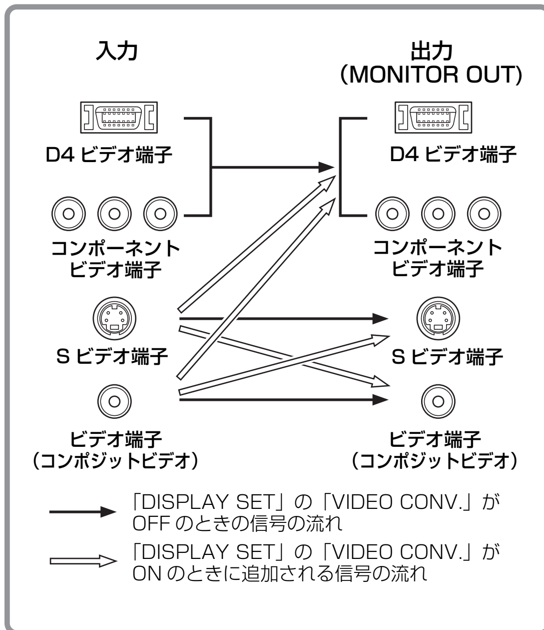
ご注意

- 本機の S ビデオ端子は、S1 ／ S2 規格には対応していません。
- D4 ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビの D 端子をご確認のうえ、D 端子の規格（D1 ～ D4）を合わせてください。
- コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いの再生機器をご確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

■ ビデオ信号の変換について

本機では、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」にすることにより、入力したビデオ信号を別の方式に変換して出力することができます（ビデオコンバージョン機能）(☞86 ページ)。「OFF」にすると、入力信号は入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力されます。

- Sビデオ入力信号をコンポーネントビデオ信号に変換して、コンポーネントビデオ端子および D4 ビデオ端子から出力します。また、コンポジットビデオ信号に変換し、ビデオ端子からも出力します。
- コンポジットビデオ信号をSビデオ信号に変換して、S ビデオ端子から出力します。また、コンポーネントビデオ信号に変換し、コンポーネントビデオ端子およびD4ビデオ端子からも出力します。



ヒント

同時に複数の種類のビデオ接続を行っているときに、ビデオコンバージョン機能をオンにしている場合は、コンポーネント／D4→S→ビデオ信号の優先順位で出力されます。

ご注意

ビデオコンバージョン機能は画質を向上させるものではありません。

■ LAN端子について

本機はLAN端子を装備しています。LAN端子を使ってホームネットワークに接続すれば、ホームネットワークに接続したパソコンに保存されている音楽ファイルや、インターネットラジオの再生をお楽しみいただけます。

外部機器と接続する

DVD プレーヤーや CD プレーヤーなど、お手持ちの外部機器を本機に接続することができます。
左チャンネル（L)、右チャンネル（R)、入力（IN)、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。
すべての端子を使って接続する必要はありません。お使いになる機器の端子をご確認のうえ、音声で 1 つ、映像で 1 つを接続してください。

ヒント

最良の画質でお楽しみいただくために、映像端子はなるべく画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。画質については、「映像端子について」(☞20 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機の入力／出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。
- ビデオコンバージョン機能がオフのときは（☞86 ページ)、お手持ちの映像機器と本機、テレビと本機を同じ種類の映像端子を使って接続してください。例えば、映像機器と本機を S ビデオ端子を使って接続している場合は、テレビと本機も S ビデオ接続してください。
- MD ／ CD レコーダー、DVD プレーヤー、衛星放送／ケーブルテレビチューナー以外の機器をデジタル音声接続する場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」の「OPTICAL IN」または「COAXIAL IN」の設定を、接続する機器に合わせて変更したあとに、割り当てを変更した端子に該当機器を接続してください（☞79 ページ)。

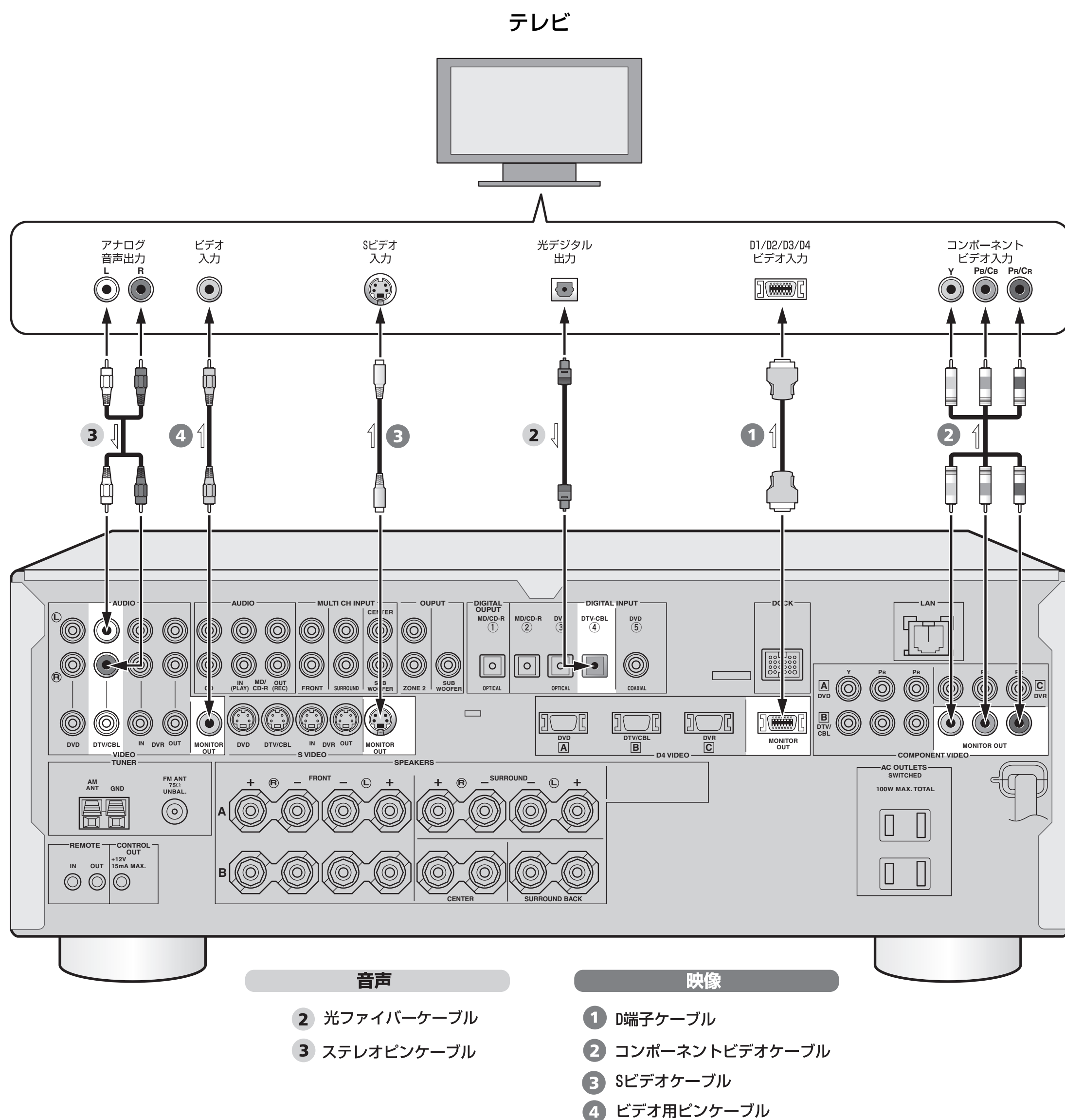
■ テレビを接続する

音声ケーブルの接続

テレビのアナログ音声出力端子を、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。またはテレビの光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

映像ケーブルの接続

テレビの映像入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。お使いになるテレビにあわせて、1つの種類を選んで接続してください。



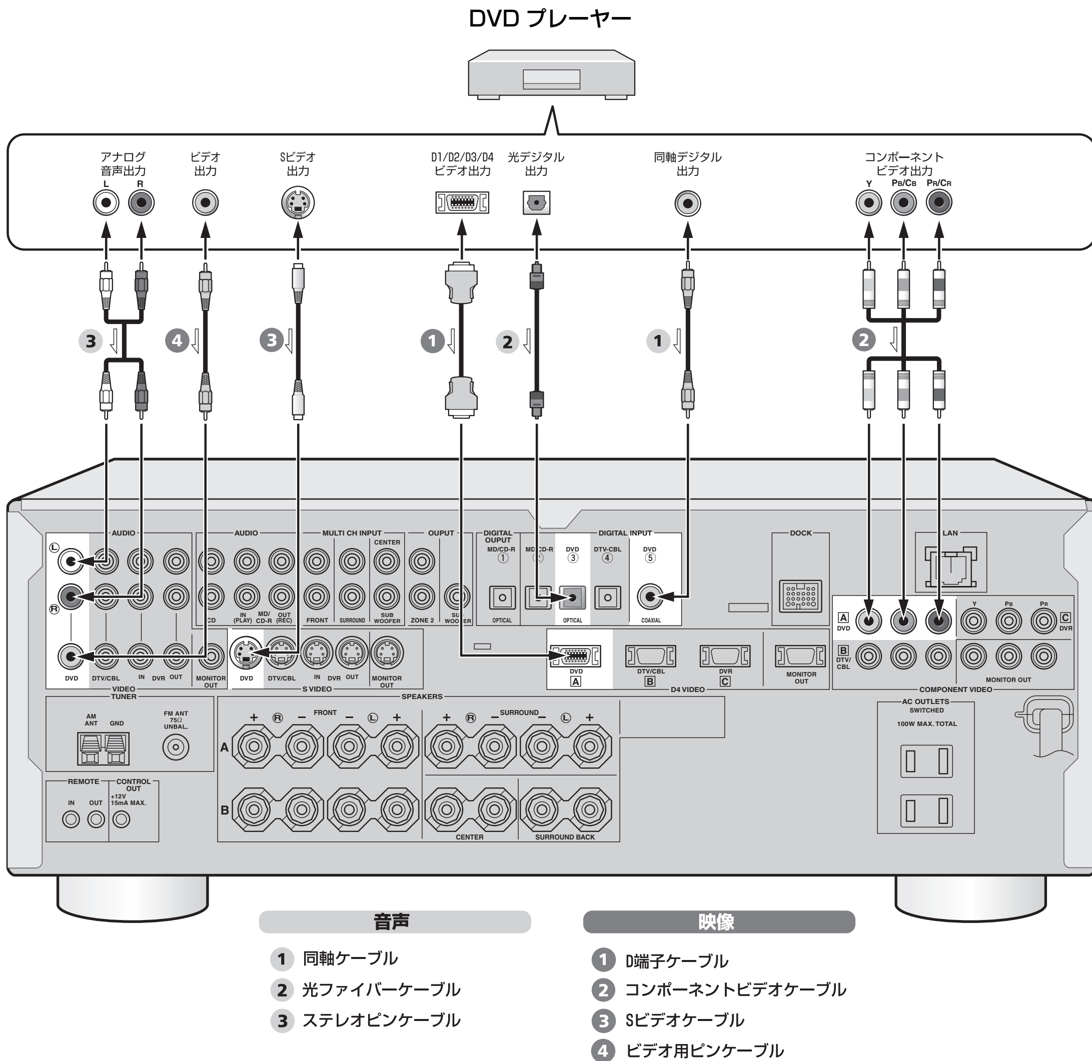
■ DVD プレーヤーを接続する

音声ケーブルの接続

DVD プレーヤーの光／同軸デジタル出力端子を、本機の同じ種類のデジタル入力（DVD）端子に接続します。またはDVD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力（DVD）端子に接続します。

映像ケーブルの接続

DVD プレーヤーのコンポーネント／D4 ／S ／ビデオ出力端子のいずれか 1 つを、本機の同じ種類の映像入力(DVD) 端子に接続します。



音声	映像
1 同軸ケーブル	1 D端子ケーブル
2 光ファイバーケーブル	2 コンポーネントビデオケーブル
3 ステレオピンケーブル	3 Sビデオケーブル
	4 ビデオ用ピンケーブル

■ 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続する

音声ケーブルの接続

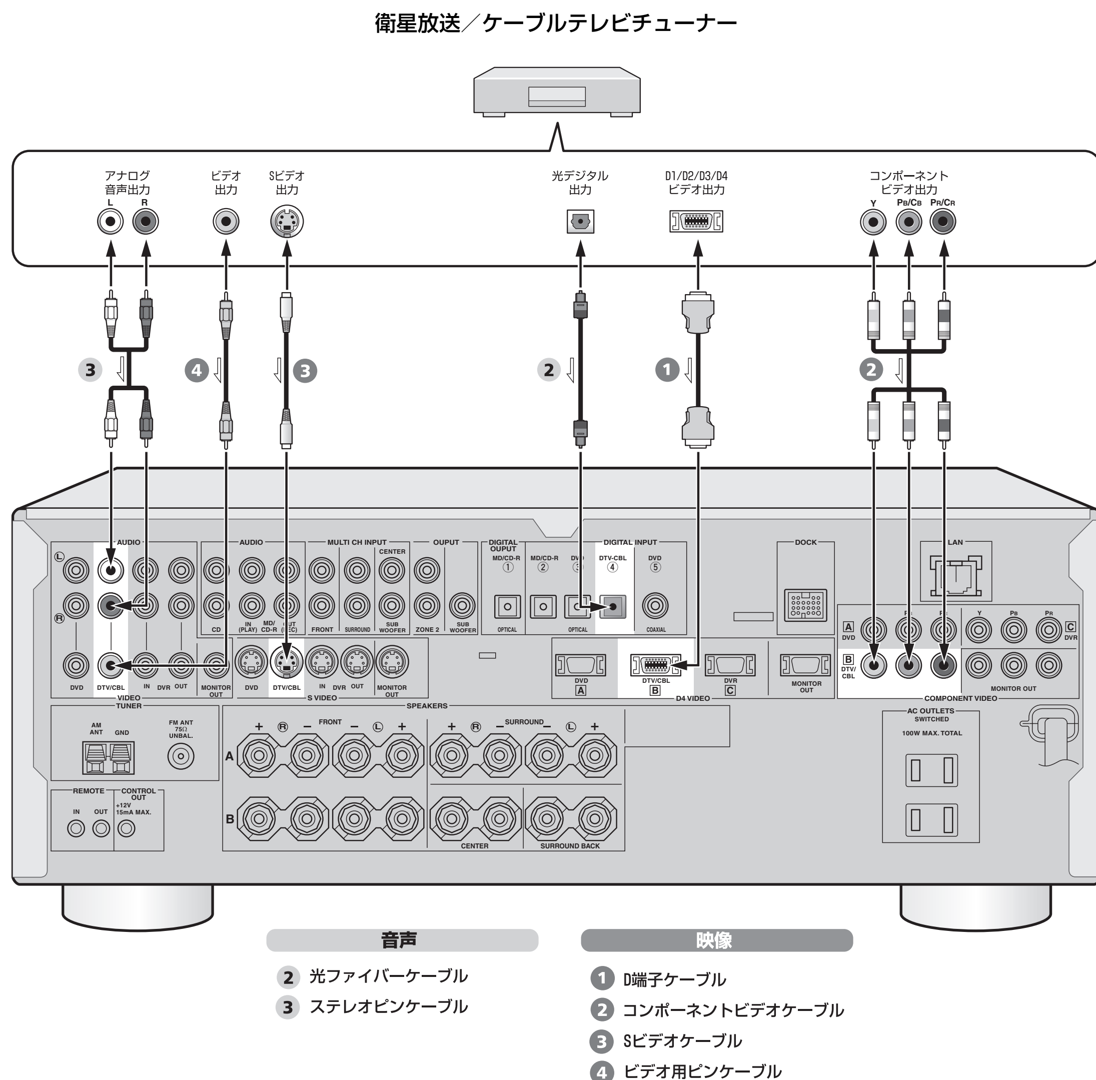
衛星放送／ケーブルテレビチューナーの光デジタル出力端子を、本機の光デジタル入力（DTV/CBL）端子に接続します。または衛星放送／ケーブルテレビチューナーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力（DTV/CBL）端子に接続します。

ヒント

衛星放送／ケーブルテレビチューナーに同軸デジタル音声出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子に接続します。その際は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞79 ページ）。

映像ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーのコンポーネント／ D4 ／ S ／ビデオ出力端子のいずれか 1 つを、本機の同じ種類の映像入力 (DTV/CBL) 端子に接続します。



■ DVD レコーダー／ビデオデッキを接続する

音声ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (DVR) 端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力（DVR）端子に接続します。

映像ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキのコンポーネント／ D4 ／ S ／ビデオ出力端子を、本機の同じ種類の映像入力（DVR）端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキの S ビデオ／ビデオ入力端子を、本機の S ビデオ／ビデオ出力（DVR）端子に接続します。

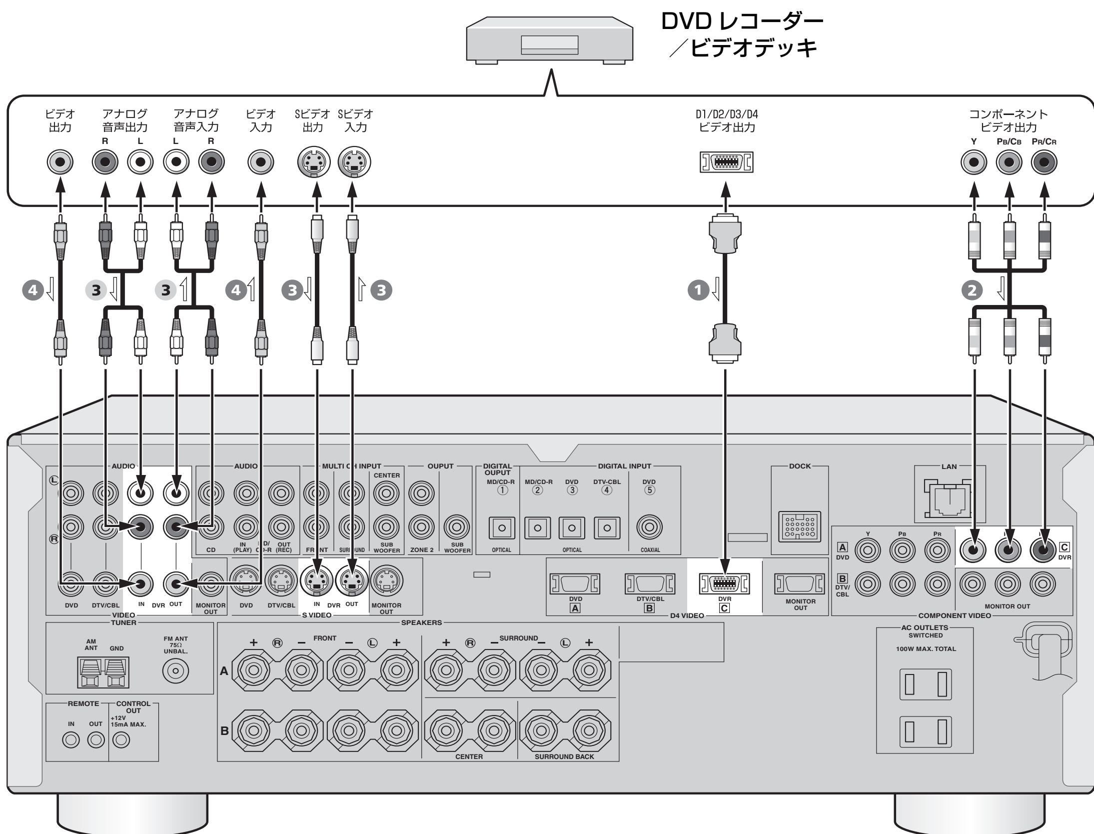
ヒント

DVD レコーダー／ビデオデッキにデジタル音声出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子、または空いている光デジタル入力端子に接続します。同軸デジタル接続と光デジタル接続を同時に行った場合は、同軸デジタル信号が優先されます。また、光デジタル入力端子がある場合は、本機の光デジタル出力端子に接続します。

以上の場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞79 ページ）。

ご注意

録画する場合は、プレーヤーと同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。（例：S VIDEO と S VIDEO など）



音声

3 ステレオピンケーブル

映像

1 D端子ケーブル
2 コンポーネントビデオケーブル
3 Sビデオケーブル
4 ビデオ用ピンケーブル

■ LD プレーヤーを接続する

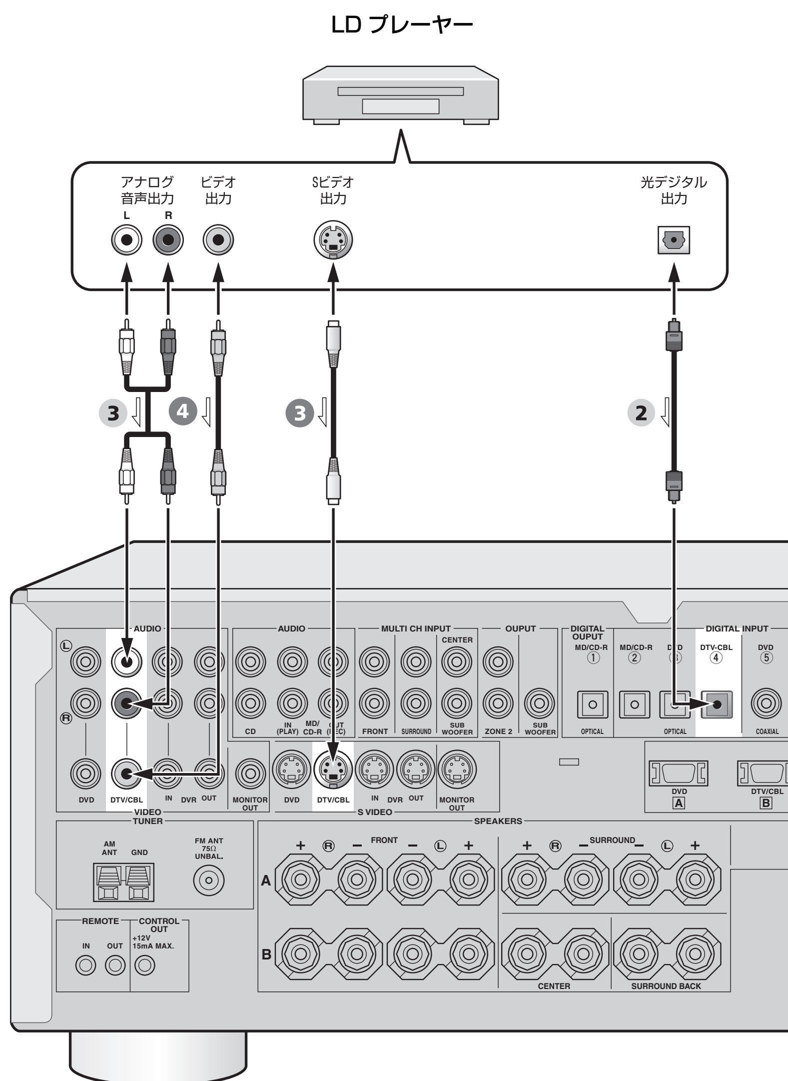
LD プレーヤーの接続例です。下図では、DTV/CBL 端子へ接続しています。

音声ケーブルの接続

- LD プレーヤーの光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。LD プレーヤーにアナログ音声出力端子がある場合は、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。
- LD プレーヤーにドルビーデジタル RF 出力端子がある場合は、市販の RF デモジュレーターに接続してから、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

映像ケーブルの接続

LD プレーヤーのＳビデオまたはビデオ出力端子を、本機の空いているＳビデオまたはビデオ入力端子に接続します。



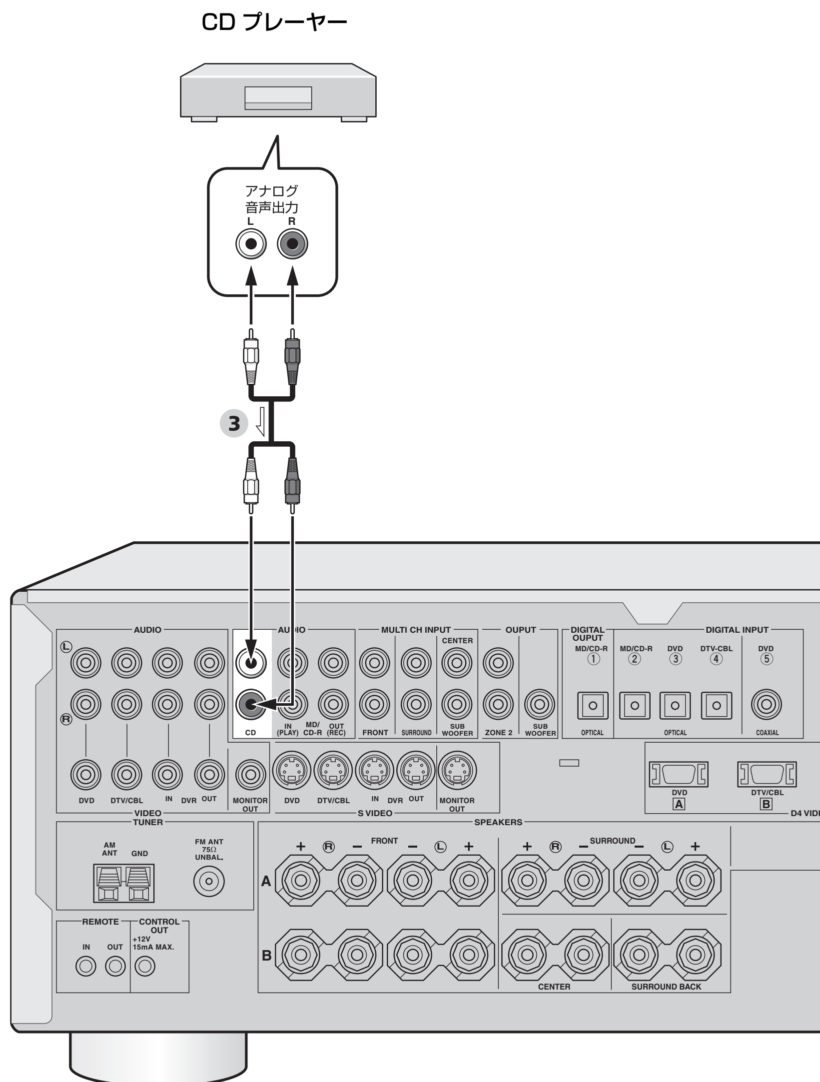
音声	映像
2 光ファイバーケーブル	3 Sビデオケーブル
3 ステレオピンケーブル	4 ビデオ用ピンケーブル

■ CD プレーヤーを接続する

CD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機のアナログ音声入力端子（CD）に接続します。

ヒント

CD プレーヤーにデジタル音声出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力端子、または空いている光デジタル入力端子に接続します。その際は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします(☞79 ページ)。



音声

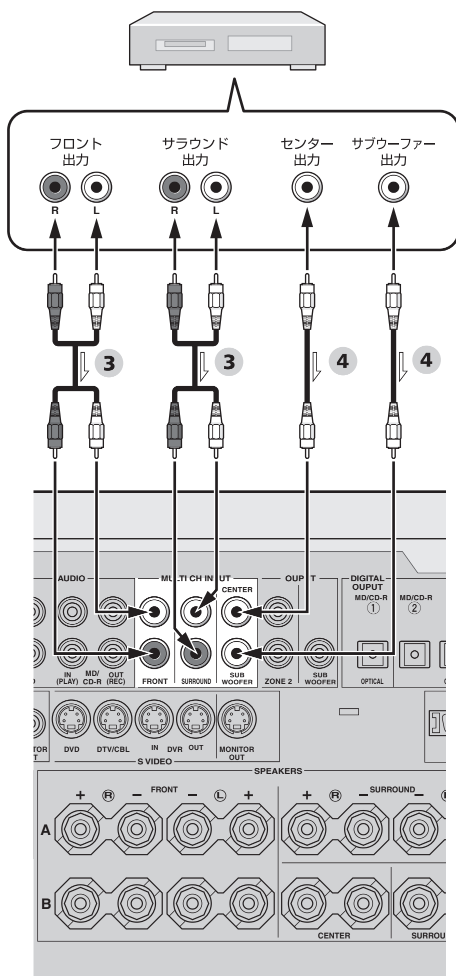
3 ステレオピンケーブル

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機には、マルチチャンネル入力端子（FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER）が装備されています。

DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すると、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。

MULTI CH OUTPUT 端子のある機器



音声

3 ステレオピンケーブル

4 モノラルピンケーブル

ヒント

ヘッドホン使用時には、フロント L ／ R チャンネルの音声のみヘッドホンから出力されます。

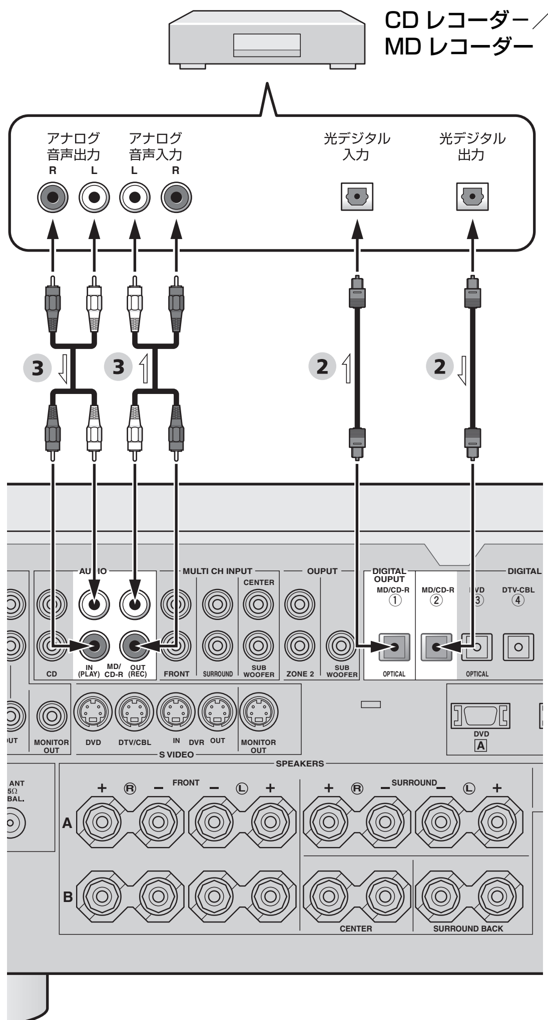
ご注意

MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。

■ MDレコーダー／CDレコーダーを接続する

再生する場合は、MDレコーダー／CDレコーダーの光デジタル／アナログ音声出力端子を、本機の同じ種類の音声入力(MD/CD-R)端子に接続します。
録音する場合は、MDレコーダー／CDレコーダーの光デジタル／アナログ音声入力端子を、本機の同じ種類の音声出力(MD/CD-R)端子に接続します。

ヒント
カセットデッキを接続する場合は、本機のアナログ音声入出力(MD/CD-R)端子に接続します。



音声

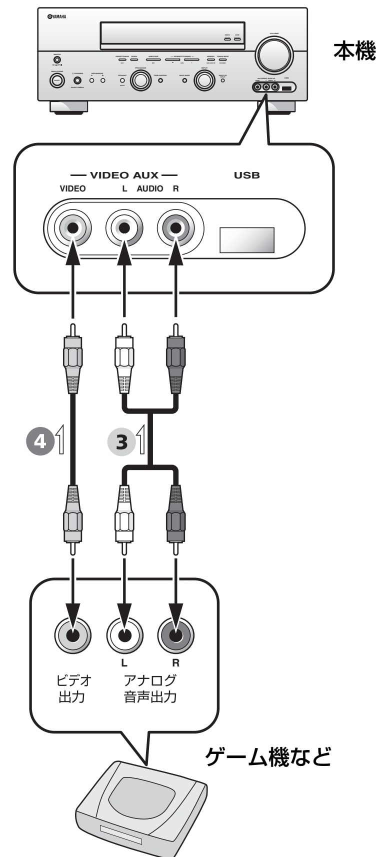
2 光ファイバーケーブル

3 ステレオピンケーブル

■ ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

フロントパネルのVIDEO AUX端子に接続します。
必ず音量を十分に下げてから接続してください。

ヒント
本機リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットし、本機がiPodを認識しているときには、iPodの音声をVIDEO AUX端子に接続した機器の音声よりも優先的に出力します。



音声

3 ステレオピンケーブル

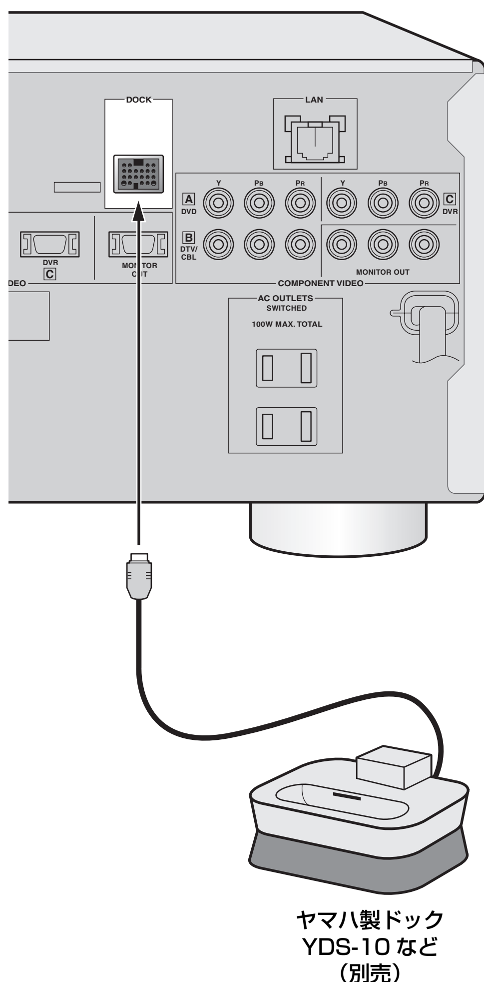
映像

4 ビデオ用ピンケーブル

接続する

■ ヤマハ製ドックを接続する

本機は、iPodの再生を楽しむことができるヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備しています。本機にヤマハ製ドックを接続し、iPodをセットすれば、本機でiPodの再生を楽しんだり、付属のリモコンでiPodを操作することができます。詳しくは「iPodの再生を楽しむ」（☞106ページ）をご覧ください。



ヤマハ製ドック
YDS-10など
（別売）

ご注意

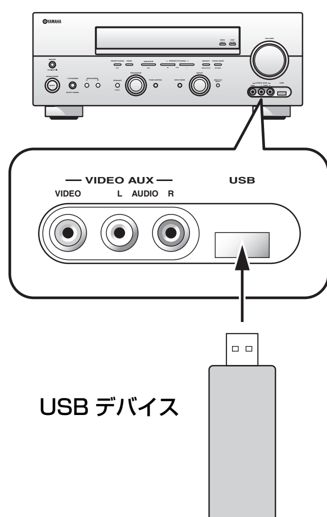
- ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットする、または取り外す際は、必ず音量を下げてください。
- iPodがヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にしっかりとセットされていない場合、映像がiPodの画面に映し出されていても音声が出力されない場合があります。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットしているときは、iPod 用のアクセサリー（ヘッドホンやリモコン、FM トランスミッターなど）をiPodに接続しないでください。

ヒント

- iPodの再生を楽しむには、別売のヤマハ製ドック（YDS-10など）が必要です。
- iPodの種類は、クリックホイール、nano、miniに対応しています。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットすると、本機と iPod との通信が始まります。
- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCKインジケーターが点灯します。
- 本機と iPod との通信に問題が生じると、フロントパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。iPod接続時に表示されるメッセージについては、「iPod接続時のメッセージについて」（☞107ページ）をご覧ください。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）に iPod をセットし、本機が iPod を認識しているときには、iPodの信号をVIDEO AUX端子に接続した機器の信号よりも優先的に出力します。
- DOCK端子には、iPodのアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号はAUDIO OUT (REC) 端子からのみ出力されます。
- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPod をセットし、本機の電源をオンにすると、自動的にiPodの充電が始まります。電源をオフにすると、充電は停止されます。
- iPodの種類により、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にアダプターを装着してお使いください。

■ USBデバイスを接続する

本機のUSB端子に、USBデバイス（USBメモリーやポータブルオーディオプレーヤーなど）を接続して、保存されている音楽ファイルの再生を楽しむことができます。USBデバイスの再生について詳しくは、「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」（☞110 ページ）をご覧ください。



ご注意

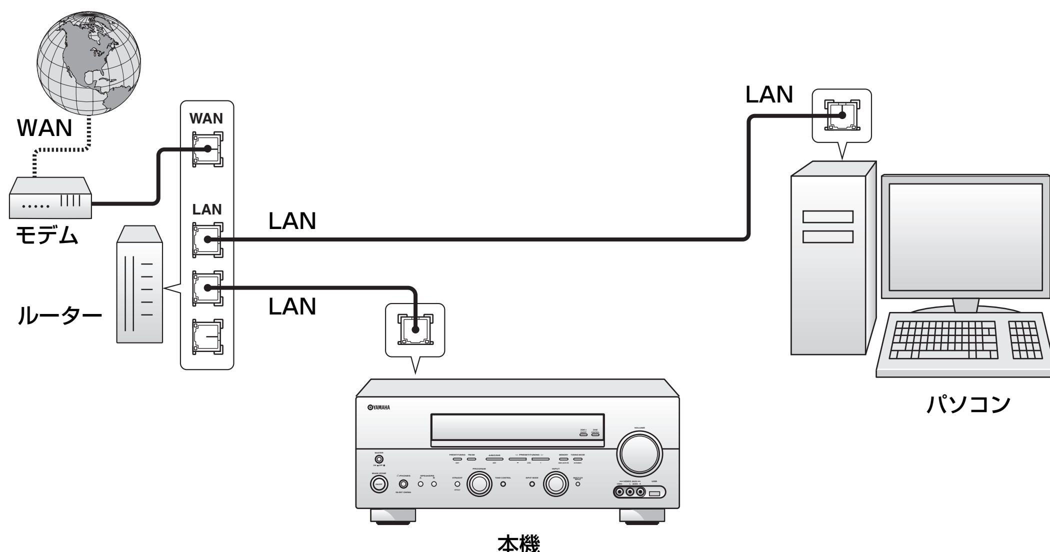
- USB デバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

ヒント

USBデバイスが500mAを超える電流を必要とする場合は、USBデバイスに付属しているACアダプターなどで電源を供給してください。

ホームネットワーク（LAN）に接続する

本機をホームネットワークに接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声をお楽しみいただけます。
下図はホームネットワーク環境の一例をあらわしています。



ネットワークについて詳しくは、ネットワーク機器の取扱説明書をお読みになるか、接続業者にお問い合わせください。

ご注意

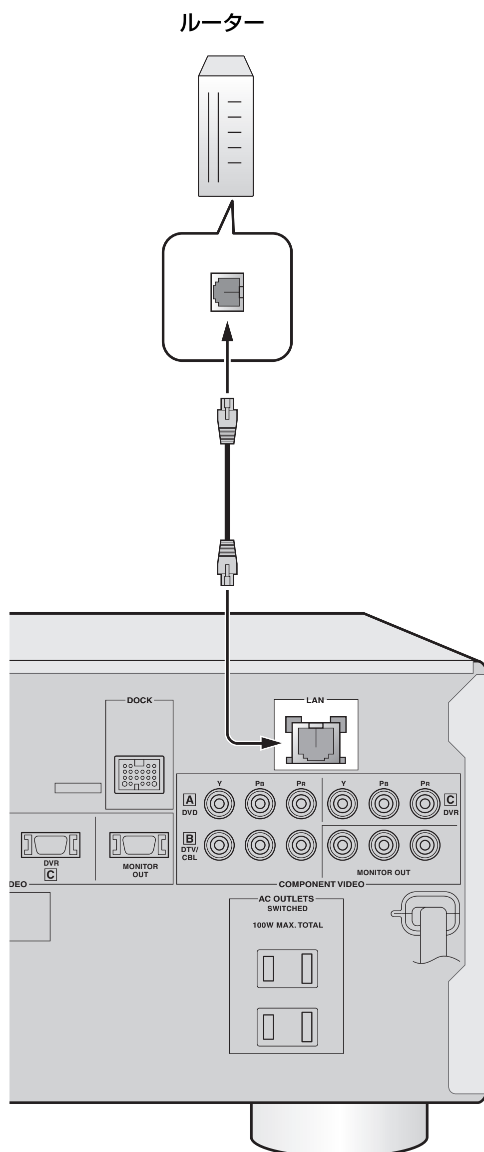
- Macintosh OS では、本機のネットワークオーディオ機能は使えません。
- 映像ファイルは再生できません。

ヒント

インターネットに接続するには、インターネットサービスを提供するプロバイダーとの契約が必要です。

■ ホームネットワークに接続する

ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。
本機のLAN端子を、CAT5以上のストレートLANケーブルで、ルーターの空いているLAN端子に接続します。



LAN

ストレートLANケーブル

ご注意

ルーターにDHCPサーバー機能がない場合は、セットメニュー「NETWORK」（☞83ページ）で、ネットワークを手動設定してください。

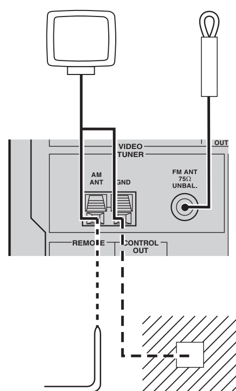
ヒント

ストレートLANケーブルは、ツイストペアケーブルの使用をおすすめします。

アンテナを接続する

本機には、AMループアンテナおよびFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、屋外アンテナを接続してください。

AM ループアンテナ（付属）　　FM 簡易アンテナ（付属）

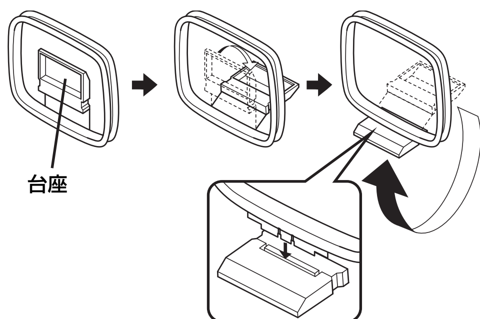


AM 屋外アンテナ
市販の５～10mのビニール被覆線を屋外に張ってください。（AMループアンテナも同時に使用してください。）

アース（GND 端子）
GND 端子は安全アースではありません。
雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

■ AMループアンテナを接続する

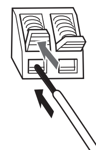
1 **アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。**



台座のミゾに突起部をはめ込んで固定する

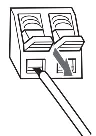
2 **AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT 端子とGND 端子に差し込む。**

コードに極性はありません。



3 **レバーを放して、コードを固定する。**

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。
もう片方のコードも同様に接続してください。



ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回して、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続するときは
市販のF型コネクターを使って、アンテナの同軸ケーブルをFM ANT 端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

電源コードを接続する

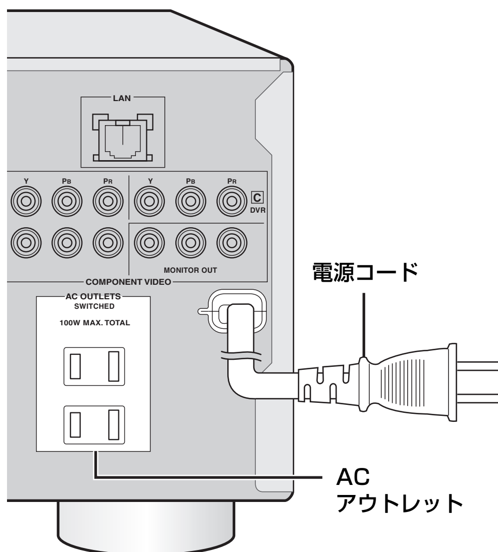
■ ACアウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のMASTER ON／OFFスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ 電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50／60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

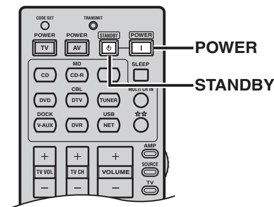
本機後面



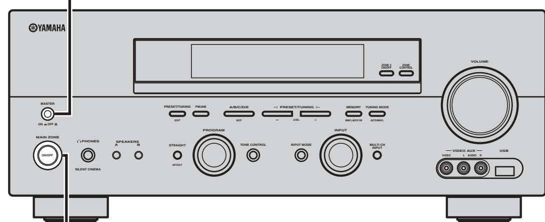
■ メモリーバックアップ機能について

本機は電源がスタンバイ時にも、設定などを保存できます。電源コードをACコンセントから抜いたりして、電源供給が1週間以上遮断されると、保存された設定などは失われますのでご注意ください。

電源をオン／オフする



MASTER ON/OFF



MAIN ZONE ON/OFF

■ 電源の入れかた

すべての接続が終わったら、本機の電源を入れます。

本体のMASTER ON／OFFスイッチを押して、ONにする。



本機の電源がオンになります。本体スイッチやリモコンキーで本機を操作することができます。

■ 電源の切りかた

本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチまたはリモコンのSTANDBYキーを押す。



本機がスタンバイになります。本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチをもう1度押す、またはリモコンのPOWERキーを押せば、本機の電源をオンにすることができます。

本体のMASTER ON／OFFスイッチを押す。



本機の電源がオフになります。本体スイッチやリモコンキーの操作は受け付けません。

ヒント

ゾーン2の操作については115ページをご覧ください。

操作内容をテレビに表示する（オンスクリーン表示 <OSD>）

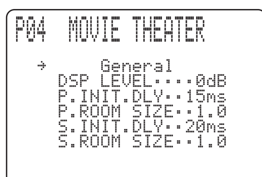
本機にテレビを接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させることができます。
本体のディスプレイ表示に比べて、項目や設定値などが見やすく表示されるので、セットメニューや音場プログラムパラメーターを設定する際に便利です。

表示の種類

オンスクリーン表示には次の３種類があります。表示種類の切り替えかたについては、「表示の切り替え」（☞37 ページ）をご覧ください。

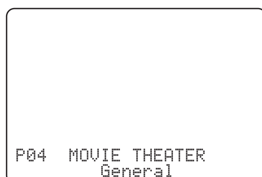
フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容がテレビ画面の下側に数秒間表示されます。



ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容（操作状態）が、テレビ画面の下に数秒間表示されたあと、消えます。



表示 OFF

テレビ画面の下に「DISPLAY OFF」が表示されたあと、消えます。ON SCREEN キーまたは SET MENU キー以外のキーを操作しても何も表示されません。

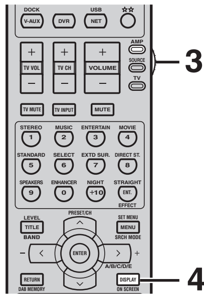
ヒント

- 本機とテレビをコンポジットビデオまたはＳビデオ接続している場合、オンスクリーン画面は再生している映像に重ねて表示されます。
- セットメニューを設定しているときは、表示の種類にかかわらず、常に内容が表示されます。
- オンスクリーン表示は DVR OUT 端子に出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。
- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を「AUTO」に設定すると、映像信号が入力されていない場合も、グレーの背景をオンスクリーン画面に表示します（☞86 ページ）。

ご注意

- セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「OFF」に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません（☞86 ページ）。
- コンポーネントビデオ信号が入力されている場合、ショート表示に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません。
- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を「OFF」に設定すると、入力された映像信号によってはオンスクリーン画面が表示されないことがあります（☞86 ページ）。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がぶれることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え



1 本機とテレビの電源を入れる。

本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞35 ページ）をご覧ください。

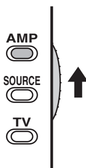
2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

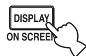
ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。



4 ON SCREEN キーを押す。

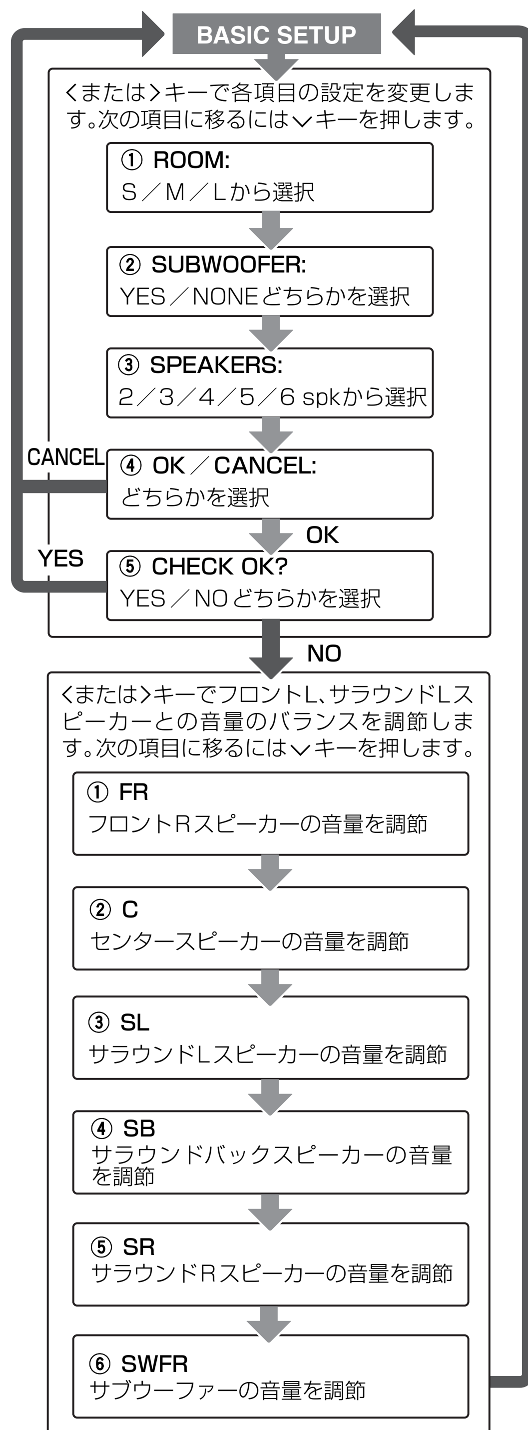


押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

視聴空間を簡単に設定する（BASIC SETUP）

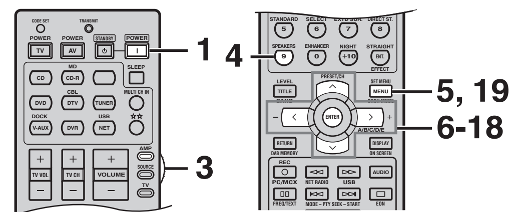
BASIC SETUPにより、お部屋のサイズや接続したスピーカーの数にあわせて、ヤマハが推奨する再生に適した視聴空間を簡単に設定します。お好みに応じた視聴空間をより細かく設定する場合は、「SOUND MENU」（☞72～78 ページ）で設定してください。

BASIC SETUP　操作の流れ



BASIC SETUPの操作手順

リモコンで操作します。
ヘッドホンを接続している場合は、ヘッドホンを外してください。



ヒント
BASIC SETUP操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのRETURNキーを押します。

1 本機とテレビの電源を入れる。

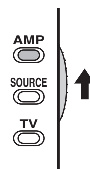
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞35 ページ）をご覧ください。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合は、ビデオ入力2を選びます。

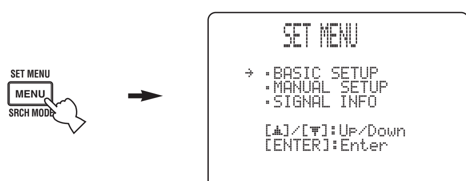
3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。



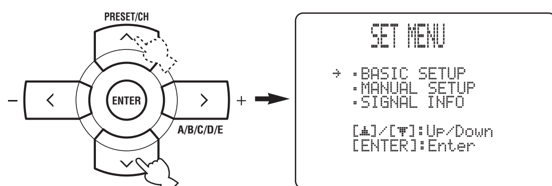
4 リモコンのSPEAKERSキーを繰り返し押して、音を出すフロントL／Rスピーカー（AまたはB）を選ぶ。



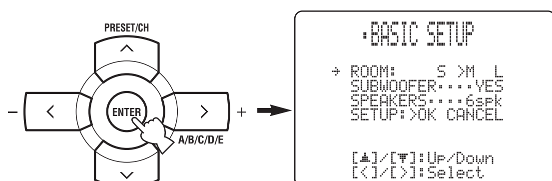
5 SET MENUキーを押す。



6 ∧または∨キーを押して、BASIC SETUPを選ぶ。

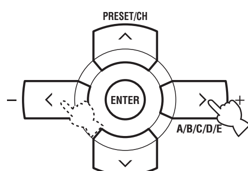


7 ENTERキーを押して、BASIC SETUPの設定に入る。



ROOM（部屋の大きさ）の設定項目がOSDに表示されます。

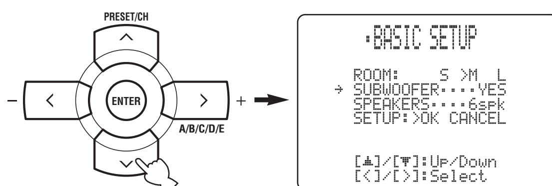
8 <または>キーを押して、設定を選ぶ。



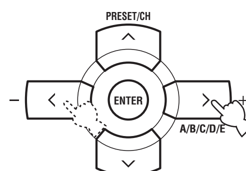
本機をお使いになる部屋の大きさに合わせて、サイズを選びます。

選択項目：S（6畳程度）、M（12畳程度）、L（18畳程度）
初期設定：M

9 ∨キーを押して、SUBWOOFERを選ぶ。



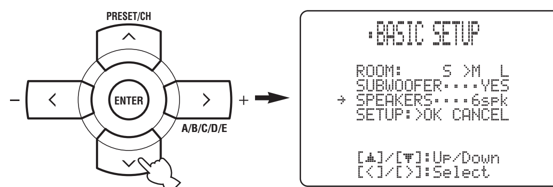
10 <または>キーを押して、設定を選ぶ。



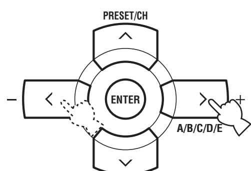
サブウーファーをお使いになるときはYESを、お使いにならないときはNONEを選びます。

選択項目：YES、NONE
初期設定：YES

11 ∨キーを押して、SPEAKERSを選ぶ。



12 <または >キーを押して、設定を選ぶ。



お使いになるスピーカーの本数を選びます。下の表を参考に、適切な本数を選んでください。

選択項目：2、3、4、5、6（spk）

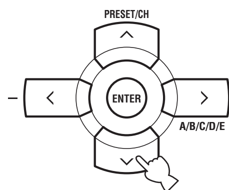
初期設定：6spk

選択項目	入力信号インジケーターの表示	使用するスピーカー
2spk	L R	フロント L、フロント R
3spk	L C R	フロント L、センター、フロント R
4spk	L R SL SR	フロント L、フロント R、サラウンド L、サラウンド R
5spk	L C R SL SR	フロント L、センター、フロント R、サラウンド L、サラウンド R
6spk	L C R SL SB SR	フロント L、センター、フロント R、サラウンド L、サラウンドバック、サラウンドR

ご注意

スピーカーの本数は、サブウーファーを除く合計使用本数を選んでください。

13 ∨キーを押して、SETUP を選ぶ。

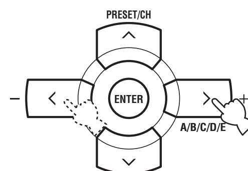



```
·BASIC SETUP

ROOM:     S >M  L
SUBWOOFER····YES
SPEAKERS····6spk
→ SETUP:>OK CANCEL

[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Select
```

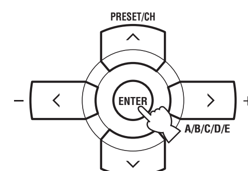
14 <または>キーを押して、OK または CANCEL を選ぶ。



初期設定：OK

手順８～12 で選んだ内容で設定する場合は、「OK」を選びます。
手順８～12 で選んだ内容をキャンセルする場合は、「CANCEL」を選びます。

15 ENTER キーを押して決定する。



「OK」を選んだ場合は、スピーカーの音量を確認するためのテストトーンが出力されます。
テストトーンの出力が始まると、「CHECK OK? ・・・・YES」と表示されます。
テストトーンは２度巡回します。リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じであるか確認してください。

```
·BASIC SETUP

ROOM:     S >M  L
SUBWOOFER····YES
SPEAKERS····6spk
SETUP:>OK CANCEL
→ CHECK OK?····YES

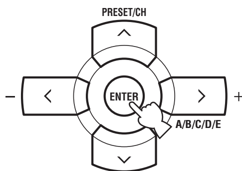
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Select
```

16 <または>キーを押して、YES または NO を選ぶ。

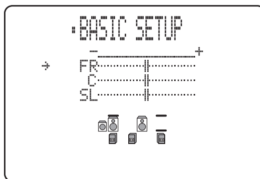
初期設定：YES

各スピーカーの音量が同じ場合は、「YES」を選びます。
各スピーカーの音量の調節が必要な場合は、「NO」を選びます。

17 ENTERキーを押して決定する。



手順16で「YES」を選んだ場合は、BASIC SETUPを終了します。
「NO」を選んだ場合は、下図の表示に切り替わり、下記のスピーカーの音量調節に入ります。



■ スピーカーの音量を調節する

手順16で「NO」を選択した場合は、下記の手順を行ってください。
選択されたスピーカーと、音量を比較するスピーカー（フロントLまたはサラウンドL）からテストトーンが出力されます。

18 ∧または∨キーを押して調節するスピーカーを選び、<または>キーを押して音量を調節する。

以下の6つのスピーカーから出力されるテストトーンを聴きながら調節します。比較する2つのスピーカーの音量が同じになるように調節してください。

■ FR

フロントRスピーカーの音量をフロントLスピーカーと比較して調節します。

■ C

センタースピーカーの音量をフロントLスピーカーと比較して調節します。

■ SL

サラウンドLスピーカーの音量をフロントLスピーカーと比較して調節します。

■ SB

サラウンドバックスピーカーの音量をサラウンドLスピーカーと比較して調節します。

■ SR

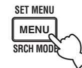
サラウンドRスピーカーの音量をサラウンドLスピーカーと比較して調節します。

■ SWFR

サブウーファーの音量をフロントLスピーカーと比較して調節します。

19 調節が終わったら、SET MENUキーを押す。

BASIC SETUPを終了します。



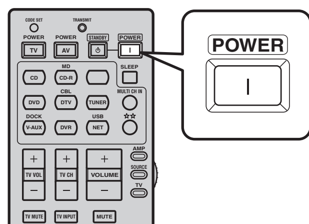
基本的な再生のしかた

BASIC SETUPの設定が終わったら、再生をはじめましょう。ここではDVDの再生のしかたを簡単に説明します。DVD以外を再生する場合は、手順6で、再生したい入力を選んでください。

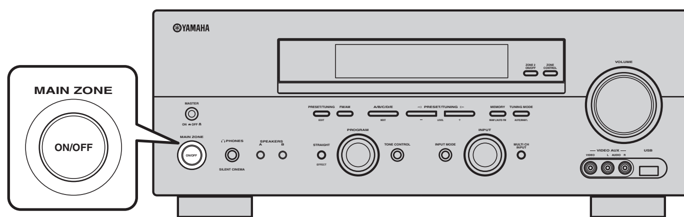
1 本機の電源を入れる。

リモコンの**POWERキー**、または本体の**MAIN ZONE ON/OFFスイッチ**を押して電源をオンにします。
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞35 ページ）をご覧ください。

リモコンの操作



本体の操作



2 本機に接続されたテレビの電源を入れる。

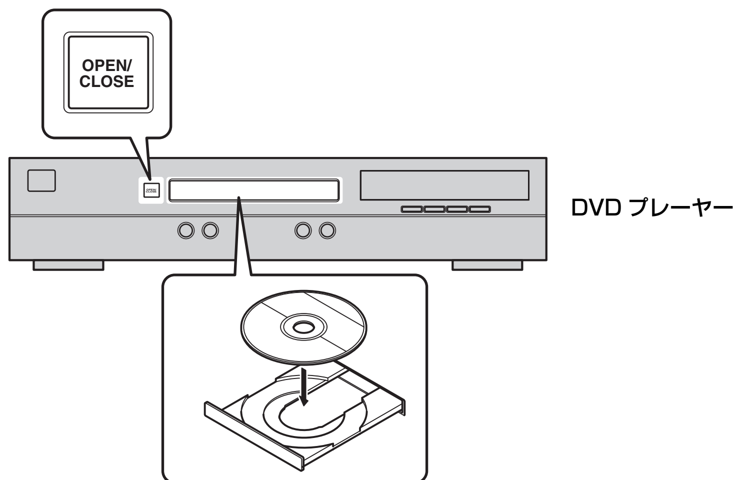
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 本機に接続されたDVD プレーヤーの電源を入れる。

詳しくはDVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 DVDディスクをセットする。

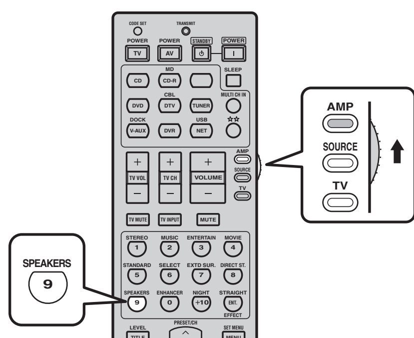
お手持ちのDVD プレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷）がある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVD プレーヤーのディスクトレイの開閉について、詳しくはDVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。



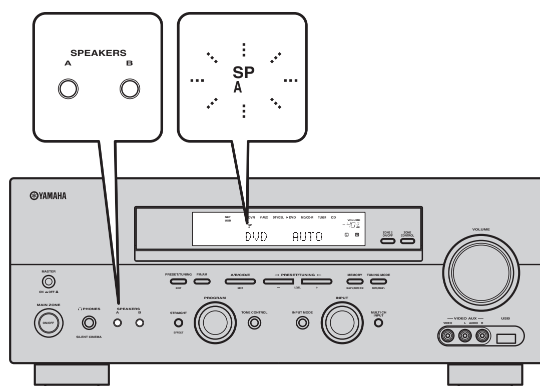
5 スピーカーを選ぶ。

リモコンの**操作機器選択スイッチ**をスライドさせてアンプモードにしたあとに**SPEAKERSキー**を繰り返し押す、または本体の**SPEAKERS A／Bスイッチ**を押して、音を出すフロントL／Rスピーカーを選びます。リモコンのSPEAKERSキーは、押すごとに「A→B→ABオフ→A・・」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイのSP A／Bインジケーターで表示されます。

リモコンの操作



本体の操作



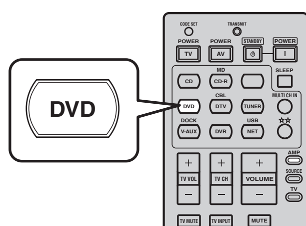
6 本機の入力を切り替える。

リモコンの**DVDキー**を押すか、本体の**INPUTセレクター**を回してDVDを選びます。入力を切り替えると、選んだ入力の名前と入力モードがフロントパネルディスプレイに数秒間表示されます。

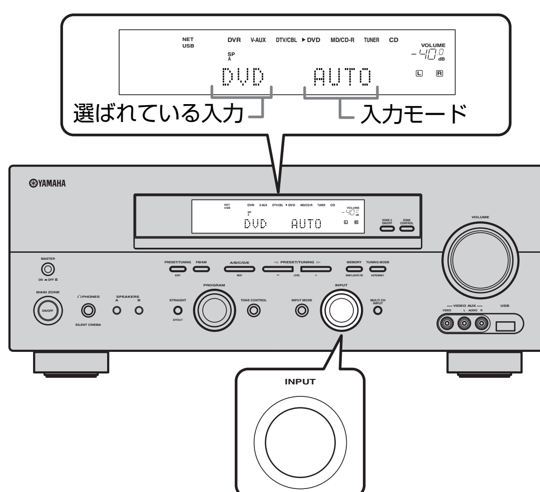
ヒント

DVDプレーヤーをデジタル接続している場合は、入力モードを「AUTO」に設定してください。詳しくは101ページをご覧ください。

リモコンの操作



本体の操作



7 テレビの入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合は、ビデオ入力2を選びます。

基本的な再生のしかた

8 再生をはじめる。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

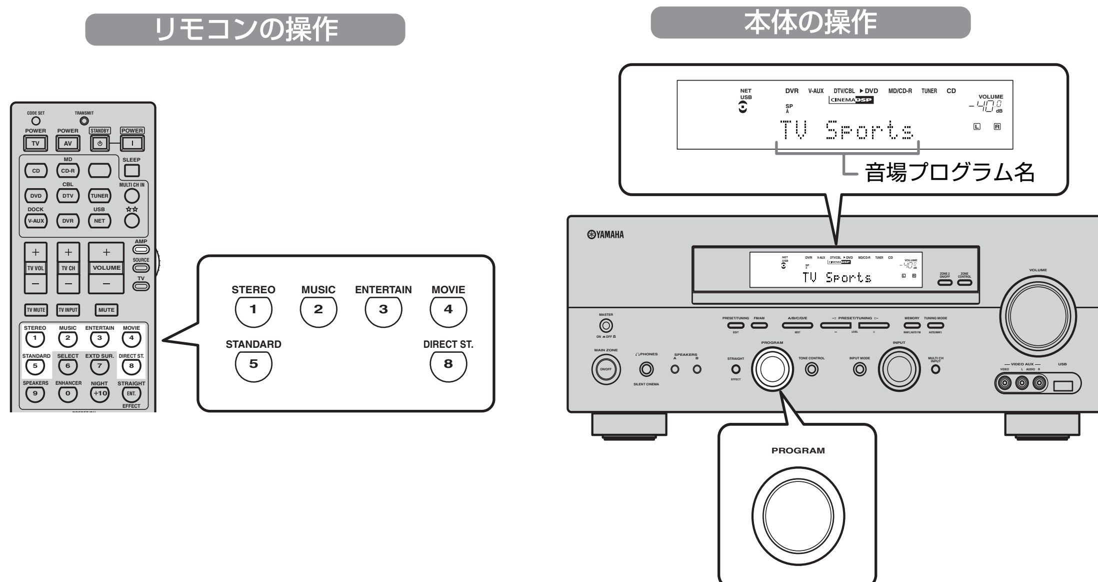
- 音の大きさを調節するには（☞48 ページ）
- 本機の使用を終了するには（☞48 ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、お使いのDVDプレーヤーを操作することができます（☞93 ページ）。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、DIRECT ST. キーを押すと、原音に忠実な高音質で再生するダイレクトステレオモードで楽しむことができます（☞60 ページ）。

9 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**音場プログラムキー**を押す、または本体の**PROGRAMセレクター**を回して、音場プログラムを選びます。
選んだ音場プログラムがフロントパネルディスプレイに表示されます。

ヒント

音場プログラムの下層にあるサブプログラムを選ぶときは、リモコンの音場プログラムキーを繰り返し押します。



おすすめの音場プログラム

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については、「音場プログラムについて」（☞55 ページ～）をご覧ください。

音楽を聴くときには…

STEREO (1)
- STEREO
  - 2ch Stereo
  - 6ch Stereo

MUSIC (2)
- MUSIC
  - Hall in Vienna
  - The Bttm Line
  - The Roxy Thtr

ENTERTAIN (3)
- ENTERTAINMENT
  - Disco

DIRECT ST. (8)
- DIRECT STEREO

映画を見るときには…

MUSIC (2)
- MUSIC
  - Pop/Rock

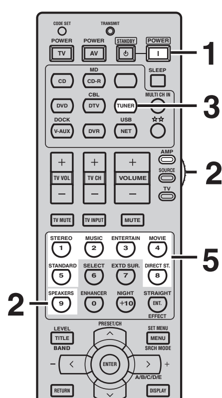
ENTERTAIN (3)
- ENTERTAINMENT
  - Mono Movie
  - Game
  - TV Sports

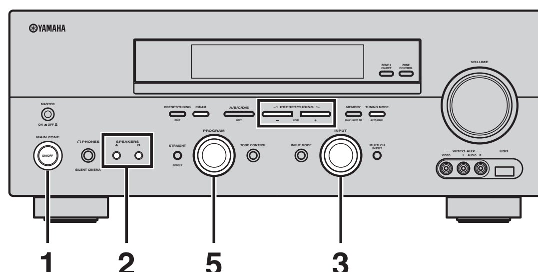
MOVIE (4)
- MOVIE THEATER
  - Spectacle
  - Sci-Fi
  - Adventure
  - General

FM／AM 放送を聴く

本機はチューナーを内蔵していますので、FM／AM 放送をお楽しみいただけます。

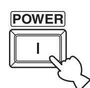
リモコンの操作　　本体の操作



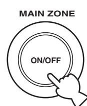


1 **本機の電源を入れる。**

リモコンの**POWERキー**、または本体の**MAIN ZONE ON/OFFスイッチ**を押して電源をオンにします。本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」(☞35 ページ)をご覧ください。



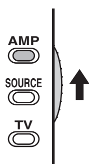
リモコン



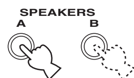
本体

2 **スピーカーを選ぶ。**

リモコンの**操作機器選択スイッチ**をスライドさせてアンプモードにしたあとに**SPEAKERSキー**を繰り返し押す、または本体の**SPEAKERS A／Bスイッチ**を押して、音を出すフロントL／Rスピーカーを選びます。リモコンのSPEAKERSキーは、押すごとに「A→B→ABオフ→A・・」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイのSP A／Bインジケーターで表示されます。



リモコン



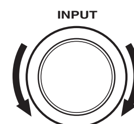
本体

3 **本機の入力をTUNERに切り替える。**

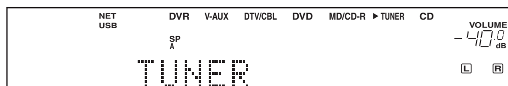
リモコンの**TUNERキー（入力選択キー）**を押すか、本体の**INPUTセレクター**を回して、TUNERを選びます。入力を切り替えると、フロントパネルディスプレイに数秒間「TUNER」と表示されます。



リモコン



本体



基本的な再生のしかた

4 放送局を選ぶ。

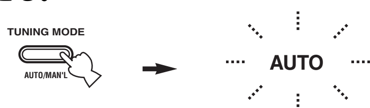
放送局はオート選局とマニュアル選局の２つの方法で選ぶことができます。

自動的に選局する場合（オート選局）

① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**



② **本体のTUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。**

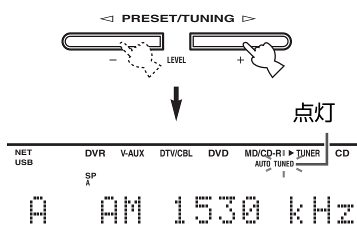


「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

③ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押す。**

▷キーを押すと高い周波数へ、◁キーを押すと低い周波数へ向かってオート選局がはじまります。

放送局を受信すると、その局の周波数が表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。



🔆 ヒント

- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選べないときは、手動で選局してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞64～66ページ）。

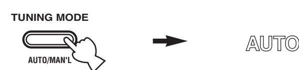
手動で選局する場合（マニュアル選局）

聴きたい放送局をうまく受信できないときは手動で選局してください。
FM放送局を手動で受信すると自動的にモノラル受信が行われて、電波が弱い場合でもよりよい音声をお楽しみいただけます。

① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**



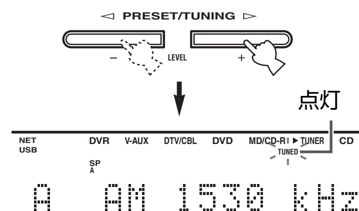
② **本体のTUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイのAUTOインジケーターを消す。**



「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は、選局することはできません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消灯させてください。

③ **本体のPRESET/TUNING ◁／▷キーを押して、放送局の周波数に合わせる。**

放送局を受信すると、TUNEDインジケーターが点灯します。

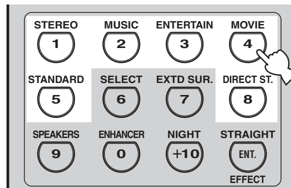


🔆 ヒント

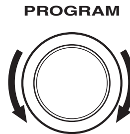
- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞64～66ページ）。

5 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**音場プログラムキー**を押すか、本体の**PROGRAM セレクター**を回してお好みの音場プログラムを選びます。



リモコン



本体

おすすめの音場プログラム

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については、「音場プログラムについて」（☞55 ページ～）をご覧ください。

音楽を聴くときには…

STEREO 1
STEREO
- 2ch Stereo
- 6ch Stereo

MUSIC 2
MUSIC
- Hall in Vienna
- The Bttm Line
- The Roxy Thtr

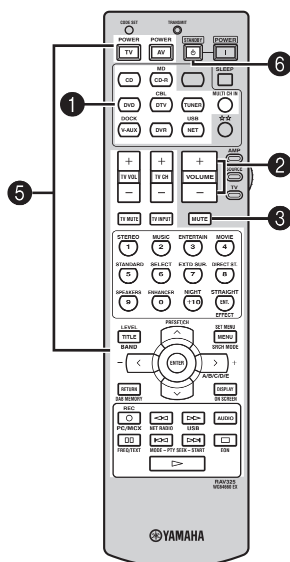
ENTERTAIN 3
ENTERTAINMENT
- Disco

DIRECT ST. 8
DIRECT STEREO

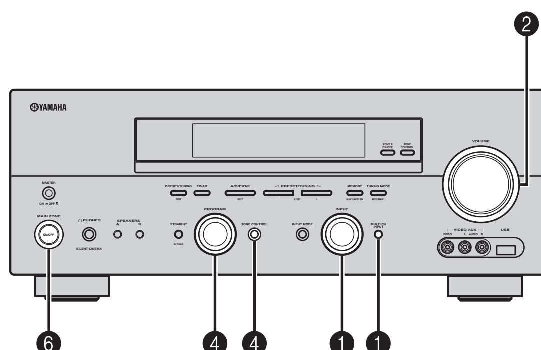
基本的な再生のしかた

こんな操作をしたいときには…

リモコンの操作



本体の操作



DVD プレーヤー以外の機器を再生するときは（❶）

リモコンの入力選択キーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して、再生する機器を選びます。
例えば、本機背面のCD端子に接続したCDプレーヤーを再生したい場合は、CDキーを押すか、INPUTセレクターを回して、CDを選びます。
本機の入力がCDに切り替わり、CDプレーヤーの再生を楽しめます。
本機背面のMULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生したい場合は、MULTI CH INキーまたはMULTI CH INPUTキーを押します。

音の大きさを調節したいときは（❷）

リモコンのVOLUME＋／－キーを押すか、本体のVOLUMEコントロールを回して、音の大きさを調節します。

一時的に音量を下げたいときは（❸）

リモコンのMUTEキーを押します。フロントパネルディスプレイに「MUTE ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
もとの音量に戻したいときは、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME操作でミュートを解除することもできます。
- セットメニュー「AUDIO SET」の「MUTING TYPE」で、下げる音量を選ぶことができます（☞78ページ）。

ご注意

一時的に音量を下げているときに入力ソースや音場プログラムを変更すると、もとの音量に戻ります。

音色を調節したいときは（❹）

フロントL／Rスピーカーまたはヘッドホン（接続時のみ）の音色を調節できます。
本体のTONE CONTROLキーを繰り返し押して、調節する音域、「BASS」（低音域）または「TREBLE」（高音域）を選びます。音域を選んだら、PROGRAMセレクターを回して音色を調節します。

ヒント

ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節することができます。

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、ほかのスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ダイレクトステレオモード（☞60ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を再生しているとき（☞52ページ）は、音色を調節できません。

本機のリモコンで他の機器を操作したいときは（❺）

リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで他の機器を操作することができます。詳しくは「リモコンで操作する機器を設定する」（☞93ページ）をご覧ください。

本機の使用を終了するときは（❻）

リモコンのSTANDBYキー、または本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押して、本機をスタンバイにします。

音場プログラムガイド – なにを再生しますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。下の表中にあるリモコンキーを押すと、音場プログラムを選択できます。見たい／ 聴きたいものに合わせて音場プログラムを選び、再生してみましょう。

見たい／聴きたいものは？		この音場プログラムがおすすめです		
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE 4	MOVIE THEATER Spectacle	70mm 映画の大画面のスペクタクルな音場
	最新の SFX 映画には		MOVIE THEATER Sci-Fi	最新の SFX 映画をクールに楽しめる音場
	大迫力のアドベンチャー映画には		MOVIE THEATER Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	ラブロマンスやコメディには		MOVIE THEATER General	情緒的な映画を柔かく再現する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	STANDARD 5	SUR. STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号を忠実に再現
			SUR. ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号に音場効果を与える
		* SELECT 6	PRO LOGIC IIx PLIIx Movie	2 チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
			PRO LOGIC II PLII Movie	
			DTS Neo:6 Cinema	
	懐かしのモノラル映画には	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
スポーツ／ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 2	MUSIC Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	MUSIC 2	MUSIC Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには		MUSIC The Bttm Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	熱気あふれるロックコンサートには		MUSIC The Roxy Thtr	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	STEREO 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
		DIRECT ST. 8	DIRECT STEREO	アナログ信号、PCM 信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		STEREO 1	STEREO 6ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 3	ENTERTAINMENT Game	TV ゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
		* SELECT 6	PRO LOGIC IIx PLIIx Game	サラウンド感に包まれる大迫力の音場
			PRO LOGIC II PLII Game	

* STANDARD キーを押して SUR. STANDARD を選んだあとに SELECT キーを押して、お好みの音場プログラムを選びます（SELECT キーを押しただけでは切り替わりません）。詳しくは、51 ページをご覧ください。

ヒント

- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 音場プログラムの詳しい解説については、「音場プログラムについて」（☞55 ページ～）をご覧ください。

サラウンド再生を楽しむ

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトや、CDやビデオテープなどの2チャンネルのソフトを、臨場感たっぷりに再生します。

ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する

■ 5.1チャンネルを再生する

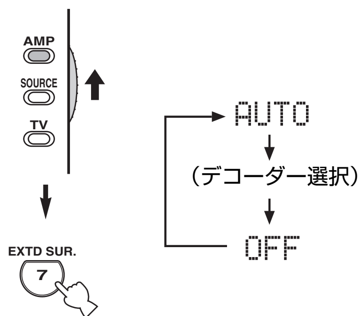
ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適したデコーダーおよび音場プログラムを選んで再生します（☞55ページ〜）。

■ 6.1チャンネルで再生する

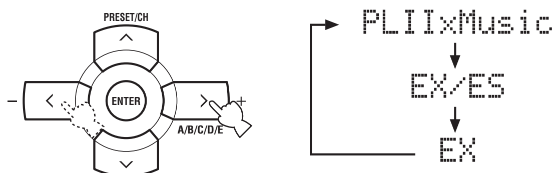
ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL／Rチャンネルを含むソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1チャンネルで再生することができます。6.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、EXTD SUR.キーを繰り返し押して、再生モードを切り替えます。

EXTD SUR.キーを押すごとに、下記のように切り替わります。



上記の「（デコーダー選択）」の状態で、リモコンの〈または〉キーを押すと、6.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。



AUTO：本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1チャンネルで再生されません。

PLIIx Music：プロロジックIIx（音楽用）デコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

EX/ES：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

EX：ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

OFF：6.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

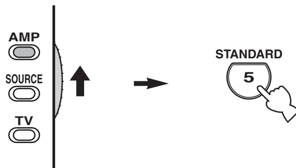
ご注意

- 6.1チャンネル対応ソフトのなかには、本機が自動的に判別できない信号を含むものがあります。このようなソフトを再生する場合は、デコーダー（PLIIx Music、EX／ES、EX）を手動で選択してください。
- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1チャンネルで再生されません。
  – セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」または「SUR. B SP」を「NONE」に設定しているとき（☞72、73ページ）。
  – MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。（☞52ページ）
  – サラウンドL／R成分のないソース（2チャンネルのPCM、アナログ信号など）を再生しているとき。
  – 2ch Stereo、ダイレクトステレオモードを音場プログラムとして選んでいるとき（☞60ページ）。
  – ヘッドホンを接続しているとき。
- 本機をスタンバイにすると、再生モードは自動的に「AUTO」になります。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B SP」が「NONE」に設定されているときはドルビープロロジックIIxデコーダーは作動しません（☞73ページ）。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STANDARDキーを繰り返し押して、SUR. STANDARDまたはSUR. ENHANCEDを選びます。



または、リモコンのMOVIEキーを押してMOVIE THEATERプログラムを選びます。



次に、リモコンのSELECTキーを繰り返し押してデコーダーを選びます。

1度SELECTキーを押したあとは、リモコンの〈／〉キーを使って選ぶこともできます。



SUR. STANDARDを選んだ場合

PRO LOGIC：ドルビープロロジック
↓
PLII Movie：ドルビープロロジックII（映画用）
↓
PLII Music：ドルビープロロジックII（音楽用）
↓
PLII Game：ドルビープロロジックII（ゲーム用）
↓
PLIIx Movie：ドルビープロロジックIIx（映画用）
↓
PLIIx Music：ドルビープロロジックIIx（音楽用）
↓
PLIIx Game：ドルビープロロジックIIx（ゲーム用）
↓
Neo:6 Cinema：DTS Neo:6（映画用）
↓
Neo:6 Music：DTS Neo:6（音楽用）

SUR. ENHANCEDまたはMOVIE THEATERプログラムを選んだ場合

PRO LOGIC：ドルビープロロジック
↓
PLII Movie：ドルビープロロジックII（映画用）
↓
PLIIx Movie：ドルビープロロジックIIx（映画用）
↓
Neo:6 Cinema：DTS Neo:6（映画用）

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B SP」を「NONE」に設定しているときは、プロロジックIIxデコーダーは使えません（☞73ページ）。

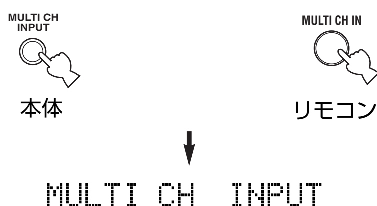
いろいろな再生のしかた

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機のMULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を直接選ぶことができます。DVDやスーパーオーディオCDなどの高音質な音声を楽しむことができます。

リモコンのMULTI CH INキーまたは本体のMULTI CH INPUTキーを押します。

フロントパネルディスプレイに「MULTI CH INPUT」と表示されます。



MULTI CH INPUT

ご注意

フロントパネルディスプレイに「MULTI CH INPUT」と表示されているときは、MULTI CH INPUT以外の入力は再生されません。ほかの入力を選ぶときは、もう1度リモコンのMULTI CH INキー（または本体のMULTI CH INPUTキー）を押して、フロントパネルディスプレイの「MULTI CH INPUT」表示を消してから、リモコンの入力選択ボタン（または本体のINPUTセレクター）で再生したい入力を選んでください。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ）

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、サイレントシネマモードで再生を楽しめます。



サイレントシネマモードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。サイレントシネマモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。



ご注意

- サイレントシネマモードで再生中に、本機フロントパネルのV-AUX端子に外部機器を接続する場合は、必ず音量を下げてから接続してください。
- 以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、サイレントシネマモードには切り替わりません。

－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき
－2ch Stereo、6ch Stereo、ダイレクトステレオモードを音場プログラムとして選んでいるとき（☞60ページ）
－STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけないで再生しているとき（☞63ページ）

サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンドL／Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すると、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます(☞72 ページ)。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL／Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。



ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT端子を入力として選んでいるとき(☞52 ページ)
－2ch Stereo、6ch Stereo、ダイレクトステレオモードを音場プログラムとして選んでいるとき(☞60 ページ)
－SUR. STANDARDを音場プログラムとして選んでいるとき（☞51 ページ）
－STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけないで再生しているとき（☞63 ページ）
－ヘッドホンを接続しているとき

音場とは？



「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに１回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスなどの音場をリスニングルームで再現することができます。

音場を構成する要素

■ **直接音**

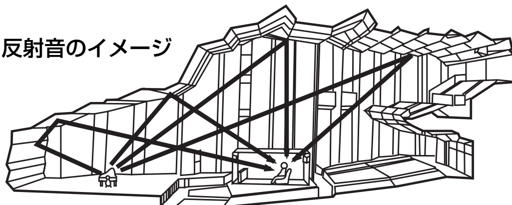
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

■ **初期反射音**

壁や天井などに１回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50msから80msくらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

■ **後部残響音**

壁や天井、部屋の後部などに２回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。



直接音、初期反射音、後部残響音が１つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機が作り出す音場は大きく分けて以下の３つです。

■ **プレゼンス音場**

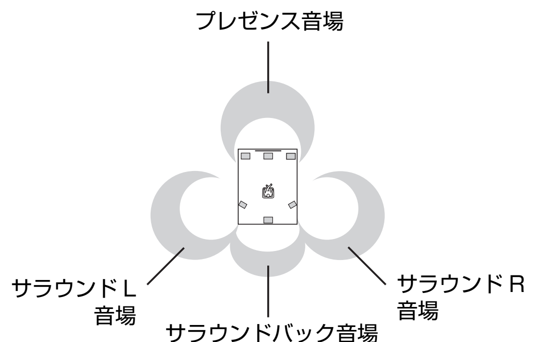
前方に広がる音場です。

■ **サラウンド音場**

後方に広がる音場です。

■ **サラウンドバック音場**

後方中央につくりだされる音場です。



音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するノーマルサラウンドプログラムが搭載されています。

音場プログラムによって設定の手順は違います。詳しくは下記をご覧ください。

–「基本的な再生のしかた」の手順9（☞44 ページ）
–「ドルビーデジタル／DTSソフトを再生する」（☞50 ページ）
–「2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」（☞51 ページ）
–「サラウンドL／Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ」（☞53 ページ）
–「ステレオ再生する」（☞60 ページ）
–「高音質でステレオ再生する」（☞60 ページ）
–「夜間に小音量で音声を楽しむ」（☞61 ページ）
–「音場効果をかけずに再生する」（☞63 ページ）

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

CDなどのステレオ音楽の再生に最適なプログラムです。入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	ステレオ STEREO	チャンネル ステレオ 2ch Stereo	前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な音場です。
		チャンネル ステレオ 6ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴の音場プログラムです。ホームパーティーのBGMに最適です。セットメニューの設定により、最大6つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ホール イン ビエナ Hall in Vienna	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		ザ ボトム ライン The Buttom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Thtr	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460席程度です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ディスコ Disco	ディスコミュージックに包まれる、ノリの良い音場空間を演出するプログラムです。

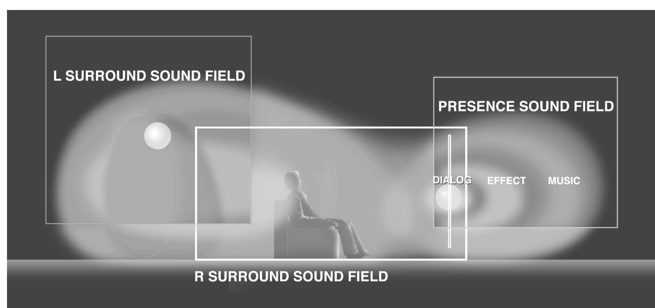
いろいろな再生のしかた

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS／地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL／センター／フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。



- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL／Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR. ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ロック　ポップ Rock ／ Pop	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	モノ　ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
		スポーツ TV Sports	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MOVIE 4	MOVIE THEATER（ムービー シアター）	Spectacle（スペクタクル）	70mm 映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm 映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトや DTS ソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		Sci-Fi（サイファイ）	最新の SFX 映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTS ソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		Adventure（アドベンチャー）	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm ／ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		General（ジェネラル）	70mm ／ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
STANDARD 5	SUR. ENHANCED（サラウンド エンハンスト）		ドルビーサラウンド、DTS サラウンドまたは AAC サラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作と DSP 処理を行います。35mm 映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。

ノーマルサラウンドプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のノーマルサラウンドプログラムを選んでください。

本機には下記のデコーダーが搭載されています。
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AAC デコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用のドルビーデジタル EX、ドルビープロロジック IIx、DTS-ES デコーダー
- 96kHz ／ 24bit の高音質再生用のDTS 96 ／ 24 デコーダー
- ドルビーサラウンドと２チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジック II、ドルビープロロジック IIx、DTS Neo:6 デコーダー

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 5	SUR. STANDARD	DOLBY DIGITAL	ドルビーデジタル、DTS、AAC で処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	SUR. STANDARD	DTS	
	SUR. STANDARD	AAC	
SELECT 6 *	SUR. STANDARD	PRO LOGIC	２チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	SUR. STANDARD	PLII Movie	
	SUR. STANDARD	PLII Music	
	SUR. STANDARD	PLII Game	
	SUR. STANDARD	PLIIx Movie	
	SUR. STANDARD	PLIIx Music	
	SUR. STANDARD	PLIIx Game	
	SUR. STANDARD	Neo:6 Cinema	
	SUR. STANDARD	Neo:6 Music	

＊ STANDARD キーを押して SUR. STANDARD を選んだあとに SELECT キーを押して、お好みのデコードプログラムを選びます（SELECT キーを押しただけでは切り替わりません）。詳しくは「ドルビーデジタル／ DTS ソフトを再生する」（☞50 ページ）および「２チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ」（☞51 ページ）をご覧ください。

入力信号別音場プログラム名一覧

ノーマルサラウンドプログラムおよびSUR. ENHANCEDプログラムは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

<table>
<tr><th>プログラム
入力信号</th><th>ノーマルサラウンドプログラム</th><th>SUR. ENHANCED プログラム</th></tr>
<tr><td>アナログ
PCM
ドルビーデジタル（2ch）
DTS（2ch）
AAC（2ch）</td><td>SUR. STANDARD／PRO LOGIC
SUR. STANDARD／PLII Movie
SUR. STANDARD／PLII Music
SUR. STANDARD／PLII Game
SUR. STANDARD／PLIIx Movie
SUR. STANDARD／PLIIx Music
SUR. STANDARD／PLIIx Game
SUR. STANDARD／Neo:6 Cinema
SUR. STANDARD／Neo:6 Music</td><td rowspan="4">SUR. ENHANCED／PRO LOGIC
SUR. ENHANCED／PLII Movie
SUR. ENHANCED／PLIIx Movie
SUR. ENHANCED／Neo:6 Cinema</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル</td><td>SUR. STANDARD／DOLBY DIGITAL
SUR. STANDARD／ⅮⅮD + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／ⅮⅮD + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／DOLBY D EX*3</td></tr>
<tr><td>DTS</td><td>SUR. STANDARD／DTS
SUR. STANDARD／DTS + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／DTS + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／DTS + DOLBY EX*3
SUR. STANDARD／DTS-ES*4*5
SUR. STANDARD／DTS 96／24 *6</td></tr>
<tr><td>AAC</td><td>SUR. STANDARD／AAC
SUR. STANDARD／AAC + PLIIx Movie*1
SUR. STANDARD／AAC + PLIIx Music*2
SUR. STANDARD／AAC + DOLBY EX*3</td></tr>
</table>

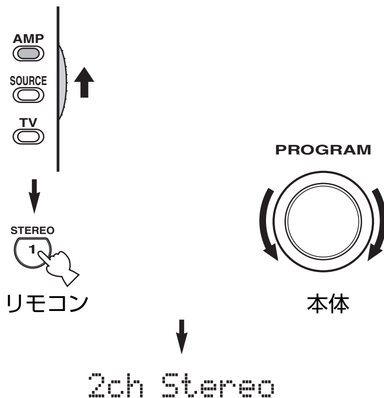
*1 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Movieモード）動作時（ⅮⅮPLIIx 点灯時）
*2 ドルビープロロジックIIxデコーダー（Musicモード）動作時（ⅮⅮPLIIx 点灯時）
*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時（ⅮⅮ EX 点灯時）
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時（MATRIXインジケーター点灯時）
*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時（DISCRETEインジケーター点灯時）
*6 DTS 96／24デコーダー動作時（96/24 点灯時）

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2チャンネルステレオ）

フロントL／Rスピーカーからのみステレオ音声が出力されます。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STEREOキーを繰り返し押します。
または本体のPROGRAMセレクターを回して、2ch Stereoを選びます。



2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

フロントL／Rチャンネル以外の音声をフロントL／Rチャンネルにミックスして、フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

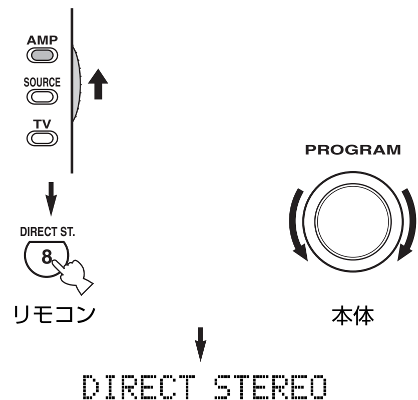
ヒント

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」で「SWFR」または「BOTH」を選択した場合は、サブウーファーから音声が出力されます（☞73ページ）。
- LFEチャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定した場合のみ、フロントL／Rスピーカーにミックスされます（☞73ページ）。

高音質でステレオ再生する（ダイレクトステレオモード）

デコーダーやDSP回路などをバイパスすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、DIRECT ST.キーを押します。
または本体のPROGRAMセレクターを回して、DIRECT STEREOを選びます。



ご注意

- ダイレクトステレオモードでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときにダイレクトステレオモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。デジタル接続のみの場合は、音声は出力されません。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、サブウーファーから音声は出力されません。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、「SPEAKER LEVEL」以外のセットメニューおよびTONE CONTROLの設定は無効になります。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、フロントパネルディスプレイの表示が暗くなり、音声信号に与える影響を減らします。入力切り替えなどの操作をすると、数秒間だけ明るくなります。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードを設定すると、小音量でも迫力ある再生を楽しめます。
ナイトリスニングモードでは、セリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。

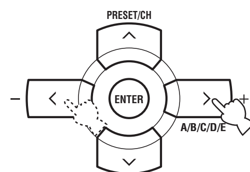
リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、NIGHTキーを繰り返し押してモードを選びます。



ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。



NIGHT：CINEMAまたはNIGHT：MUSICが表示されているあいだに＜または＞キーを押すと、効果レベルを選ぶことができます。



Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）



Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える：初期設定）



Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ヒント
NIGHT：CINEMA（映画用）とNIGHT：MUSIC（音楽用）の効果レベルはそれぞれ別に保存されます。

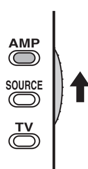
ご注意

- ダイレクトステレオモード（☞60ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているとき（☞52ページ）、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。（ダイレクトステレオモードのときはナイトリスニングモードは機能しません。）
- 入力ソースやサラウンド音場の設定により、効果に違いが生じる場合があります。

圧縮オーディオをダイナミックに再生する（コンプレストミュージックエンハンサーモード）

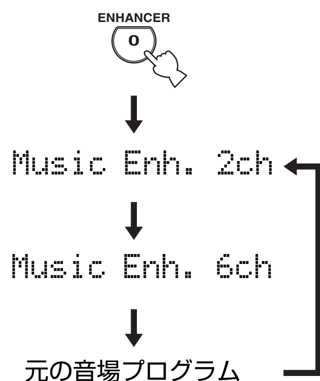
MP3やAACなどの圧縮オーディオフォーマットは、圧縮される際に高音域がカットされています。コンプレストミュージックエンハンサーモードを設定すると、高音域を拡張するうえに、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生できます。

1 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選ぶ。



2 ENHANCERキーを繰り返し押して、モードを選ぶ。

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生します。ENHANCERキーを１回押すと「MUSIC ENHANCER」と表示され、数秒後に選択項目が表示されます。ENHANCERキーを繰り返し押して、サブモードを選択してください。

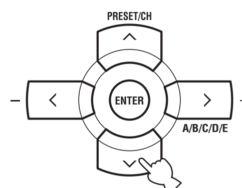


選択項目： Music Enh. 2ch、Music Enh. 6ch
初期設定： Music Enh. 2ch

Music Enh. 2ch：FRONT L／Rスピーカーから、２チャンネルステレオモードで音を出力します。

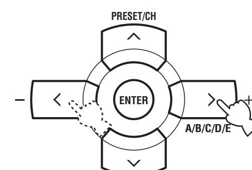
Music Enh. 6ch：６つのスピーカから、６チャンネルステレオモードで音を出力します。

3 「Music Enh. 2ch」または「Music Enh. 6ch」を選んだ場合は、∨キーを押す。



4 〈または〉キーを押す。

コンプレストミュージックエンハンサーモードの効果レベルを選ぶことができます。お好みに合わせて切り替えてください。



選択項目： LOW、HIGH
初期設定： LOW

LOW：弱めの効果

HIGH：強めの効果

コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのENHANCERインジケーターが点灯します。



ヒント

- コンプレストミュージックエンハンサーモードは、圧縮オーディオフォーマット以外にも、サンプリング周波数48kHz以下のPCMおよび２チャンネルアナログソースに対応しています。
- 再生するソースにより、高音域が強調されすぎる場合は、効果レベルを「LOW」に設定してください。

ご注意

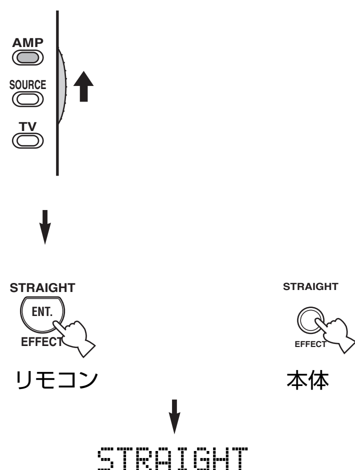
- コンプレストミュージックエンハンサーモードが対応していないソースを再生中にENHANCERキーを押すと、「Not Available」と表示されます。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードで再生中に、対応していないソースに入力を切り替えると、２チャンネルまたは６チャンネルステレオモードのまま、コンプレストミュージックエンハンサーモードの効果はオフになります。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードは音場プログラムと同時に使用できません。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードを設定すると、入力された信号を音場効果をかけずにそのまま再生します。

リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてアンプモードを選び、STRAIGHT／EFFECTキーを押す、または本体のSTRAIGHT／EFFECTキーを押します。

ストレートデコードモードで再生されます。



2チャンネルソースの場合

フロントL／Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

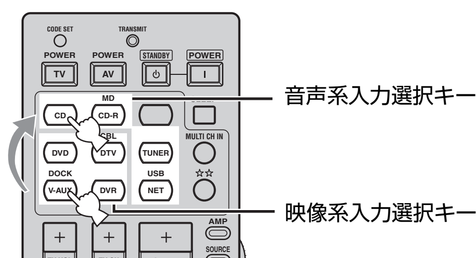
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

ストレートデコードモードを解除してもとの状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう1度STRAIGHT／EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。例えばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しむことができます。

リモコンの入力選択キーで、映像系入力を選んでから、リモコンの入力選択キーで音声系入力を選びます。



ご注意

MULTI CH INPUT端子からの音声入力を映像とともにお楽しみいただくには、映像系入力ソースを選んでから、MULTI CH INキー（または本体のMULTI CH INPUTキー）を押してください。

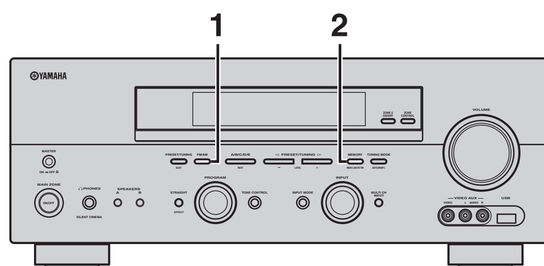
-

FM／AM放送局を登録する

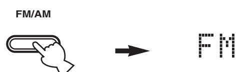
オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使ってFM／AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。はじめにリモコンのTUNERキーまたは本体のINPUTセレクターで、本機をチューナーモードにしてください。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ、A1～E8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局することができ、便利です。

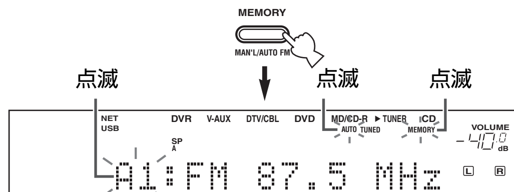


1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。



2 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。



オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めることもできます（右記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（☞67ページ）。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、登録する放送局の数が40（A1～E8）に満たない場合には、全周波数帯域を一巡して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、手動で放送局を受信したあと、手動で登録してください（☞65ページ）。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する場合

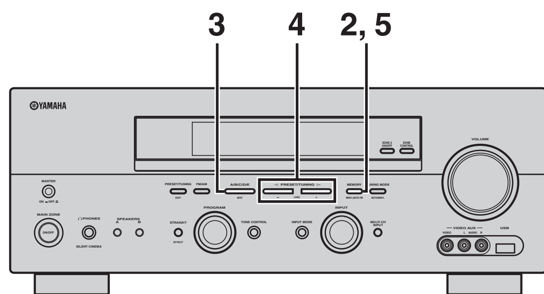
左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順2でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ⊲／⊳キーを使って、最初に登録するプリセットグループとプリセット番号を選びます。
数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。放送局が40局（A1～E8）すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

■ 周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順2でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーで「：」（コロン）を消してから、PRESET/TUNING ⊲キーを押します。
周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

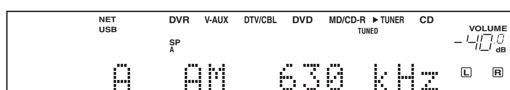
放送局を40局（8局×5グループ、A1～E8）まで手動で登録（プリセット）することもできます。



ヒント
AM放送局は手動で登録してください。

1 プリセットしたい放送局を選局する。

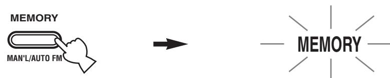
詳しくは、「FM ／ AM 放送を聴く」（☞45 ページ）をご覧ください。



フロントパネルディスプレイに、受信している局の周波数と放送局（FM または AM）が表示されます。

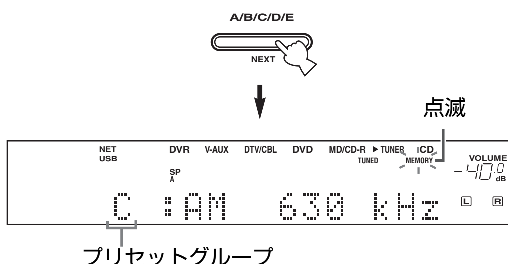
2 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。

放送局が登録できる状態になります。フロントパネルディスプレイの MEMORY インジケーターが約５秒間点滅します。



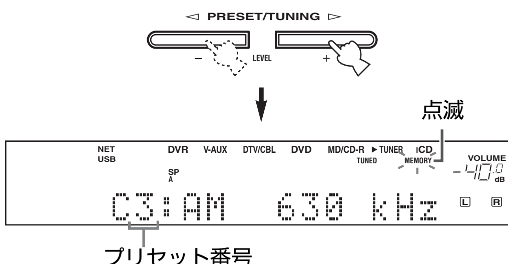
3 MEMORY インジケーターの点滅中に A/B/C/D/E（NEXT）キーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。

プリセットグループが表示されます。放送局の表示の横に「：」（コロン）が点灯していることを確認してください。
フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。



4 MEMORY インジケーターの点滅中に PRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。

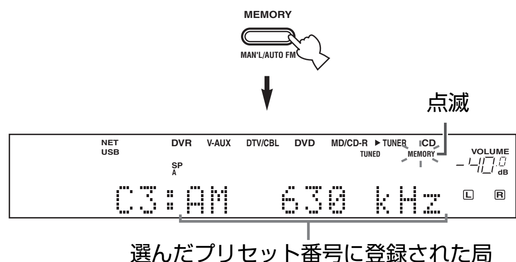
⊳ キーを押すと番号の大きい方へ向かって、⊲ キーを押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。



いろいろな再生のしかた

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。

選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送局（FMまたはAM）、周波数がディスプレイに表示されます。



選んだプリセット番号に登録された局

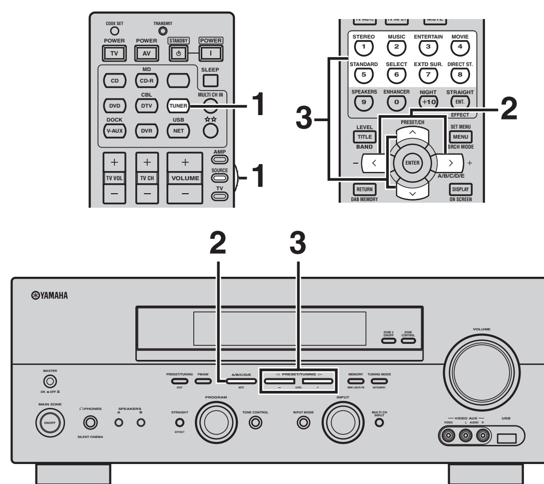
6 ほかの放送局を続けて登録するときは、手順１～５を繰り返す。

ご注意

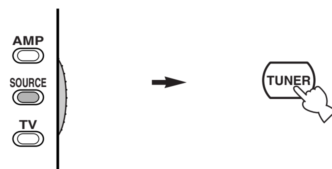
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

登録（プリセット）した放送局を簡単に選局することができます。

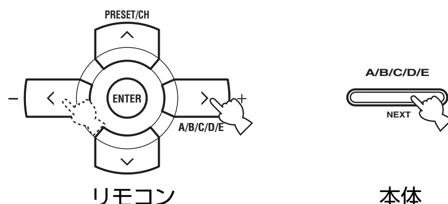


1 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてSOURCEを選び、TUNERキーを押してチューナーモードにする。



2 リモコンのA/B/C/D/E ＜／＞キーを押す、または本体のA/B/C/D/E（NEXT）キーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。

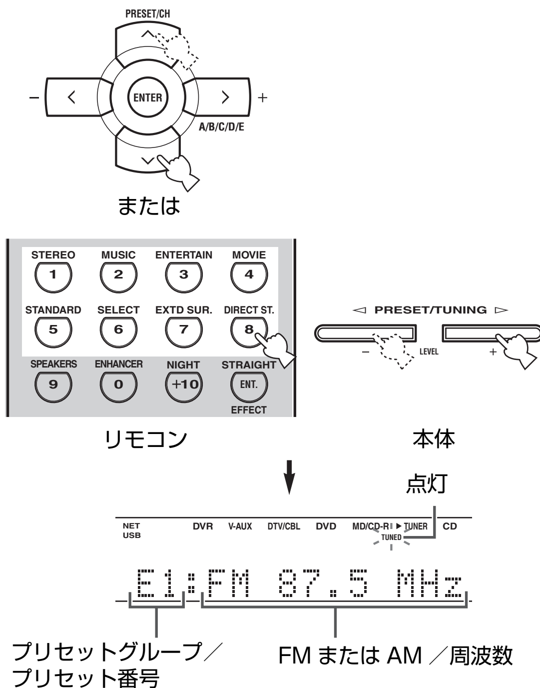
フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E（NEXT）キーを押すたびに切り替わります。リモコンの場合は、＜キーを押すとAのほうへ向かって、＞キーを押すとEのほうへ向かって切り替わります。



リモコン　　本体

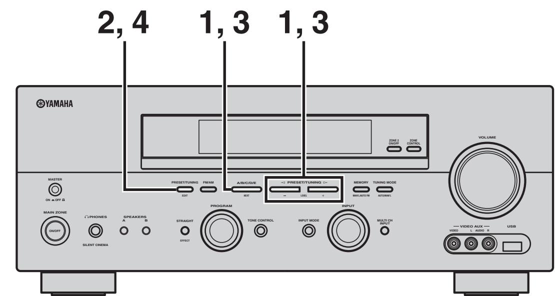
3 リモコンのPRESET/CH ∧／∨キーかプリセット番号キー（1～8）を押す、または本体のPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。

∧キー（または本体の⊳キー）を押すと番号の大きい方へ向かって、∨キー（または本体の⊲キー）を押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。プリセットグループとプリセット番号が、放送局（FMまたはAM）と周波数とともにフロントパネルディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

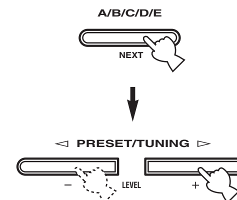


登録した放送局を入れ替える

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えることができます。
ここでは例として、「E1」（E=プリセットグループ、1=プリセット番号）に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。



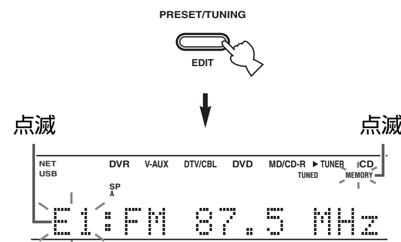
1 「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを使って選局する。



詳しくは、「登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください（☞66 ページ）。

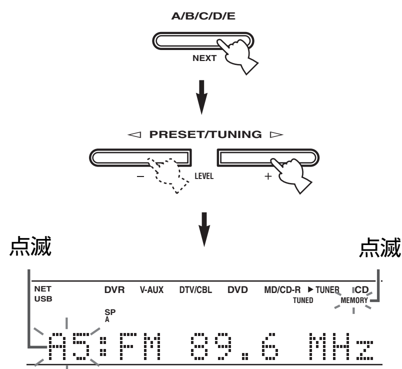
2 本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを約３秒間押す。

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。



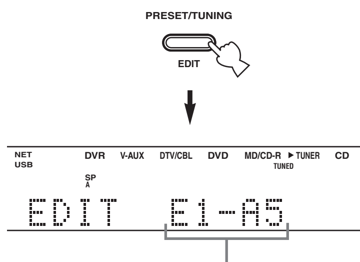
3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/E（NEXT）キーとPRESET/TUNING ◁／▷ キーを使って選局する。

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。



4 本体のPRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。

登録した局が入れ替わり、フロントパネルディスプレイに「EDIT」と入れ替えた放送局のプリセットグループ／プリセット番号が表示されます。
登録した局の入れ替えが完了したことを示しています。



入れ替えた放送局の
プリセットグループ／プリセット番号

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更することができます。お使いの視聴環境にあわせて初期設定を変更してください。
セットメニューには、簡単に再生に適した設定を行う「BASIC SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の２つがあります。

BASIC SETUP

お部屋のサイズや、接続したスピーカーの数に合わせて、簡単に再生に適した設定を行います。
設定方法については、「BASIC SETUPの操作手順」（☞38 ページ）をご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に３つのカテゴリーに分類されています。

■ SOUND MENU

スピーカーの音量や音色の調節など、音声の出力に関するメニューを設定、変更します。
以下の７つのメニューがあります。

A）SPEAKER SET（☞72 ページ）

ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B）SPEAKER LEVEL（☞75 ページ）

各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C）SP DISTANCE（☞76 ページ）

各スピーカーからリスニングポジション（視聴位置）までの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。

D）CENTER GEQ（☞77 ページ）

グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E）LFE LEVEL（☞77 ページ）

ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE（低域効果音）信号の再生レベルを調節します。

F）DYNAMIC RANGE（☞78 ページ）

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を調節します。

G）AUDIO SET（☞78 ページ）

ミュート時の音量、声と映像のずれの補正、トーンコントロールの経路、AACモノラル音声の出力を設定します。

■ INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更など、信号の入出力に関するメニューを設定、変更します。
以下の４つのメニューがあります。

A）I/O ASSIGNMENT（☞79 ページ）

ご使用になる機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、ご使用になる機器に合わせて端子を割り当てます。

B）INPUT MODE（☞80 ページ）

電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。

C）INPUT RENAME（☞81 ページ）

入力に名前をつけてフロントパネルディスプレイに表示させます。

D）VOLUME TRIM（☞82 ページ）

入力ソースごとに異なる音声出力レベルを調節します。

■ NET/USB MENU

IPアドレスの設定や再生スタイルの変更など、ネットワーク接続や再生方法に関するメニューを設定、変更します。
以下の３つのメニューがあります。

A）NETWORK（☞83 ページ）

本機のIPアドレスやサブネットマスクなど、ネットワーク接続に関する設定をします。

B）PLAY STYLE（☞84 ページ）

パソコンやUSBデバイスを楽しむ際の再生スタイルを設定します。

C）INFORMATION（☞85 ページ）

マックアドレスなどの情報を表示します。

■ OPTION MENU

「SOUND MENU」、「INPUT MENU」、「NET/USB MENU」 以外のいろいろなメニューを設定、変更します。
以下の４つのメニューがあります。

A）DISPLAY SET（☞86 ページ）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節したり、ビデオコンバージョン機能を設定します。

B）MEMORY GUARD（☞87 ページ）

変更した設定値を保護します。

C）PARAM. INI（☞87 ページ）

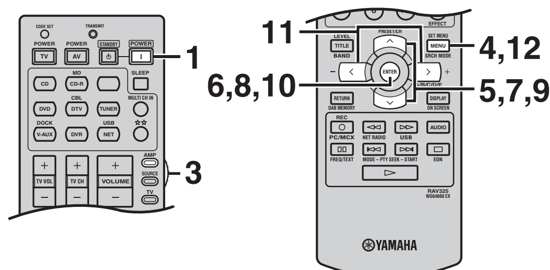
音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

D）MULTI ZONE SET（☞88 ページ）

FRONT SPEAKERS B 端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。

セットメニューの操作手順

セットメニューの操作について説明します。セットメニューはリモコンで操作します。セットメニューの各項目の詳細については 72 ～ 88 ページをご覧ください。



ヒント
- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。
- セットメニュー操作中に 1 つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンの RETURN キーを押します。

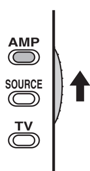
1 本機とテレビの電源を入れる。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

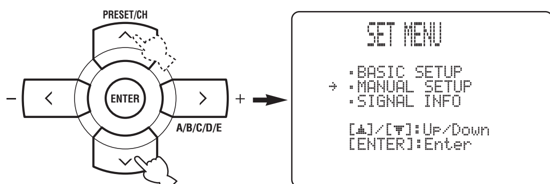
3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。



4 SET MENU キーを押す。

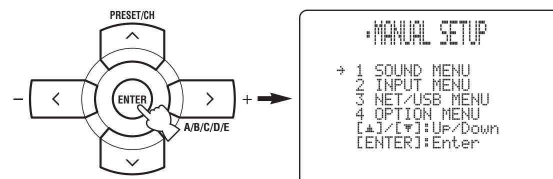


5 ∧または∨キーを押して、MANUAL SETUP を選ぶ。



6 ENTER キーを押して決定する。

MANUAL SETUP 画面に切り替わります。

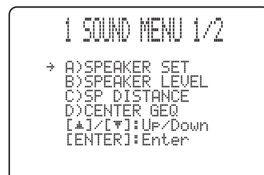


7 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目があるメニューを選ぶ。

8 ENTER キーを押して決定する。

選んだメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順７で SOUND MENU を選んだとき

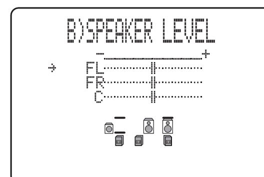


9 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

10 ENTER キーを押して決定する。

選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定がフロントパネルディスプレイに表示されます。項目によっては∧または∨キーを押して、サブメニューを選びます。

表示例：手順９で SPEAKER LEVEL を選んだとき



11 <または>キーを繰り返し押して、設定を変更する。

設定を確定するには、ENTER キーを押します。

12 セットメニューを終了するときは、SET MENU キーを押す。



音声出力の設定を変更する（SOUND MENU）

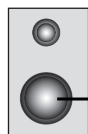
音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。

スピーカーのサイズを設定する（SPEAKER SET）

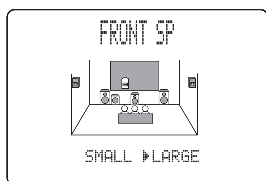
お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER SET）

ヒント

- 現在のスピーカーの低音に満足できないときにお好みに合わせて調節することができます。
- 目安として、スピーカーのウーファーの口径が16cm未満の場合は「SML（SMALL）」、16cm以上の場合は「LRG（LARGE）」に設定します。



■ FRONT SP



フロントL／Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目： SMALL（小）、LARGE（大）

初期設定： LARGE

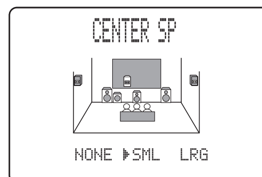
SMALL：小型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LARGE：大型のフロントスピーカーを使用するときに選択します。フロントL／Rチャンネル信号の低音域も、そのままフロントL／Rスピーカーから出力されます。

ヒント

「LFE/BASS OUT」が「FRNT」に設定されている場合、以下の成分はFRONT SPの設定にかかわらずフロントL／Rスピーカーから出力されます。
- ドルビーデジタルやDTS信号に含まれているLFE
- フロントL／Rチャンネルの低音域
- 「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域

■ CENTER SP



センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

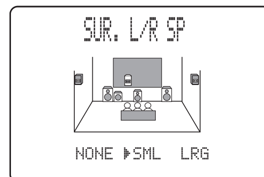
初期設定： SML

NONE：センタースピーカーを使用しないときに選択します。センターチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

SML：小型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LRG：大型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の低音域も、そのままセンタースピーカーから出力されます。

■ SUR. L/R SP



サラウンドL／Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

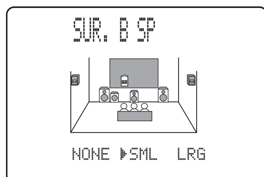
初期設定： SML

NONE：サラウンドL／Rスピーカーを使用しないときに選択します。この設定にすると、バーチャルシネマDSP機能が自動的に設定され、サラウンドバックスピーカー（SUR. B SP）は自動的に「NONE」に設定されます。サラウンドL／Rチャンネル信号は、フロントL／Rスピーカーにそれぞれ振り分けられます。

SML：小型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LRG：大型のサラウンドL／Rスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドL／Rチャンネル信号の低音域も、そのままサラウンドスピーカーから出力されます。

■ SUR. B SP



サラウンドバックスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： NONE（なし）、SML(小)、LRG（大）

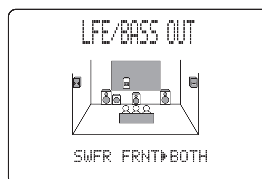
初期設定： SML

NONE：サラウンドバックスピーカーを使用しないときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号は、サラウンドL／Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

SML：小型のサラウンドバックスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の低音域は、「LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーから出力されます。

LRG：大型のサラウンドバックスピーカーを使用するときに選択します。サラウンドバックチャンネル信号の低音域も、そのままサラウンドバックスピーカーから出力されます。

■ LFE/BASS OUT



LFE信号や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AACの音声に含まれる120Hz以下の低域効果音のことです。

選択項目： SWFR（サブウーファー）、
FRNT（フロント）、BOTH（両方）

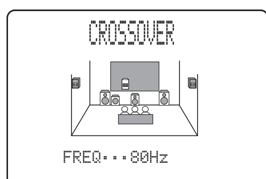
初期設定： BOTH

SWFR：サブウーファーを接続している場合に設定します。LFE信号と、「SPEAKER SET」で「SML（SMALL）」に設定した各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。

FRNT：サブウーファーを接続しない場合に設定します。LFE信号とフロントL／Rチャンネル、および「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域がフロントL／Rスピーカーから出力されます。

BOTH：サブウーファーを接続している場合に設定します。LFE信号と、「SPEAKER SET」で「SML」に設定した、フロントL／R以外の各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。フロントL／Rチャンネルの低音域は、「FRONT SP」の設定にかかわらずフロントL／Rスピーカーとサブウーファーから出力されます。CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などに設定すると効果的です。

■ CROSSOVER

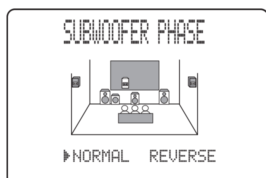


サブウーファーに出力する低音域成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーまたはフロントL／Rスピーカーに出力されます。

選択項目： 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

初期設定： 80Hz

■ SUBWOOFER PHASE



お使いになるサブウーファーの位相を設定します。音色の好みに合わせて切り替えてください。

選択項目： NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）

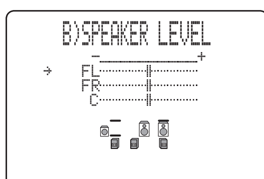
初期設定： NORMAL

NORMAL：サブウーファーの位相を逆転しません。

REVERSE：サブウーファーの位相を逆転します。

スピーカーの音量を調節する（SPEAKER LEVEL）

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER LEVEL）



■ FL

フロントＬスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ FR

フロントＲスピーカーの音量を調節します。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ C

センタースピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「CENTER SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SL

サラウンドＬスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SR

サラウンドＲスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SB

サラウンドバックスピーカーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. B SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

■ SWFR

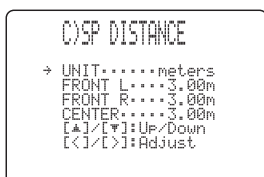
サブウーファーの音量を調節します。
「SPEAKER SET」の設定で、「LFE/BASS OUT」が「FRNT」のときは設定できません。

可変範囲： − 10.0 〜＋ 10.0dB

初期設定： 0.0dB

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する（SP DISTANCE）

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SP DISTANCE）



■ UNIT

設定する距離の単位を選びます。

選択項目： meters（m）、feet（ft）

初期設定： meters

■ FRONT L

フロントLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ FRONT R

フロントRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ CENTER

センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「CENTER SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SUR. L

サラウンドLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SUR. R

サラウンドRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. L/R SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

■ SUR. B

サラウンドバックスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「SUR. B SP」が「NONE」のときは設定できません。

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 2.10m、7.0ft

■ SWFR

サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
「SPEAKER SET」の設定で、「LFE/BASS OUT」が「FRNT」のときは設定できません。

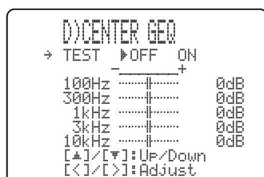
可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

センタースピーカーの音色を調節する（CENTER GEQ）

■ CENTER GEQ

各周波数帯のレベルを手動で調節して、センタースピーカーの音色をフロントＬスピーカーに合わせます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→CENTER GEQ）



TEST

ON を選ぶと、テストトーンを使ってセンタースピーカーの音色がフロントＬスピーカーに合うように調節します。OFF を選ぶと、選択している入力ソースの音声が出力されます。

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

∧／∨キーで周波数帯を選び､＜／＞キーでレベルを調節します。

周波数帯域： 100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHz

可変範囲： − 6.0 〜＋ 6.0dB

初期設定： 0.0dB

低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号に含まれる、LFE（低域効果音）の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）



■ SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： − 20 〜 0dB

初期設定： 0dB

■ HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： − 20 〜 0dB

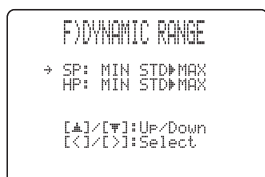
初期設定： 0dB

ご注意

- お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて調節してください。
- LFE LEVEL の設定によってはサブウーファーから音が出ない場合があります。

ダイナミックレンジを設定する（DYNAMIC RANGE）

ドルビーデジタル／DTS 再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、３段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGE）



■ SP

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

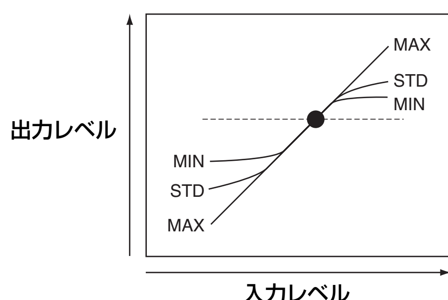
初期設定： MAX

■ HP

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定： MAX



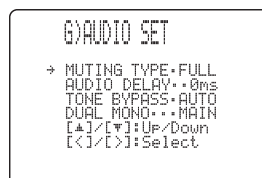
MIN：小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

STD：一般的な家庭用として推奨するダイナミッククレンジです。

MAX：入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。長編映画などの鑑賞に適しています。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）



■ MUTING TYPE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目： FULL、－ 20dB

初期設定： FULL

FULL：完全に消音し、無音にします。

－ 20dB：いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

■ AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲： 0 ～ 160ms

初期設定： 0ms

■ TONE BYPASS

BASS（低音）とTREBLE（高音）の設定が0dBのときに、トーンコントロールの経路を選びます。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：トーンコントロールの経路をバイパスします。

OFF：トーンコントロールの経路をバイパスしません。

■ DUAL MONO

BS ／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目： MAIN（主音声）、SUB（副音声）、ALL（主音声＋副音声）

初期設定： MAIN

入出力の設定を変更する（INPUT MENU）

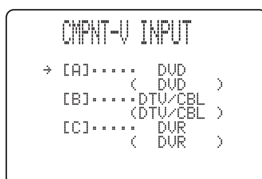
入出力端子の割り当てや、デジタル信号の入出力に関する設定などを行います。

入出力端子の割り当てを変更する（I/O ASSIGNMENT）

お使いになる機器と、本機のD4／コンポーネントビデオ入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→I/O ASSIGNMENT）

「例」では、各端子にDVDレコーダーを接続し、割り当てを「DVR」に変更する場合を説明しています。変更後は入力選択キーの「DVR」を押すと、DVDレコーダーを選べます。

■ CMPNT-V INPUT [A]／[B]／[C]



D4／コンポーネントビデオ入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： DVD、DVR、V-AUX、DTV/CBL

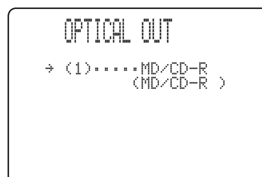
初期設定： [A] DVD
[B] DTV/CBL
[C] DVR

例：D4／コンポーネントビデオ入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、[A]の設定を「DVR」に変更します。

ご注意

- CMPNT-V INPUT [A]／[B]／[C]には同じ選択項目を設定することはできません。
- D4ビデオ入力端子とコンポーネントビデオ入力端子には同じ選択項目が割り当てられます。端子ごとに設定を変更することはできません。

■ OPTICAL OUT (1)



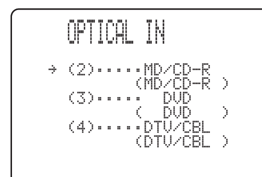
光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目： MD/CD-R、CD、DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD

初期設定： MD/CD-R

例：光デジタル出力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、設定を「DVR」に変更します。

■ OPTICAL IN (2)／(3)／(4)



光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： CD、DVR、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、V-AUX

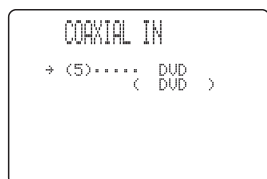
初期設定：（2）MD/CD-R
（3）DVD
（4）DTV/CBL

例：光デジタル入力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2)の設定を「DVR」に変更します。

ご注意

OPTICAL IN (2)／(3)／(4)には同じ選択項目を設定することはできません。

■ COAXIAL IN (5)



同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： CD、DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R

初期設定：（5）DVD

例：同軸デジタル入力（DVD）端子に DVD レコーダーを接続した場合、設定を「DVR」に変更します。

ご注意

1 つの外部機器を本機の同軸（COAXIAL）と光（OPTICAL）両方のデジタル端子に接続している場合は、同軸デジタル端子からの入力が優先されます。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する (INPUT MODE)

電源を入れたときに適用するデジタル端子の入力モードを設定します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT MODE）



選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：デジタル入力端子の種類にあわせて、最適な入力モードを設定します。

LAST：前回使っていた入力モードを適用します。

ご注意

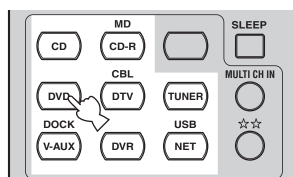
「LAST」に設定しても、EXTD SUR. キーで設定した内容は記憶されません。

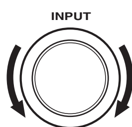
入力に名前をつける（INPUT RENAME）

リモコンの入力選択キーや本体のINPUTセレクターで選ぶ入力に名前をつけて、フロントパネルディスプレイに表示することができます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT RENAME）



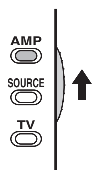
1 リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUTセレクターを回して、名前をつけたい入力を選ぶ。



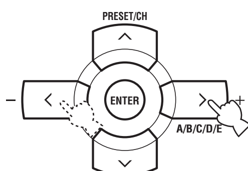


リモコン　本体

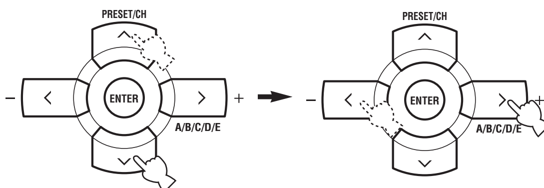
2 リモコンの操作機器選択スイッチをスライドさせてAMPモードにする。



3 ＜／＞キーを押して「 _ 」（下線）を変更したい文字の位置へ動かす。



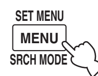
4 ∧／∨キーを押して文字を選び、＜／＞キーを押して「 _ 」（下線）を動かして、次の文字を選び名前をつける。



－最長８文字の名前をつけることができます。
－∨キーを押すと以下の順序で文字や記号が表示されます。∧キーを押すと逆の方向へ戻ります。
A～Z→（スペース）→０～９→（スペース）→a～z→（スペース）→記号（♯、＊、＋など）

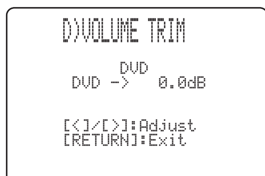
5 ほかの入力に名前をつけるときは手順１～４を繰り返す。

6 SET MENUキーを押して終了する。



入力ごとの音量差を補正する（VOLUME TRIM）

入力ソースによって異なる音量のばらつきを補正します。これにより、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→VOLUME TRIM）



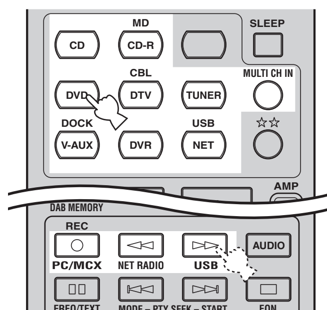
選択項目： CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DOCK、DVR、MULTI CH、PC/MCX、NET RADIO、USB

可変範囲： －6.0～＋6.0dB

初期設定： 0.0dB

1 リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUTセレクターを回して、補正したい入力を選ぶ。

MULTI CHを選択する場合は、リモコンのMULTI CH INキーまたは本体のMULTI CH INPUTキーを押します。
パソコンおよびインターネットラジオ、USBデバイスを選択する場合は、リモコンのNET/USBキーを押してから、PC/MCX、NET RADIO、USBのいずれかのキーを押します。



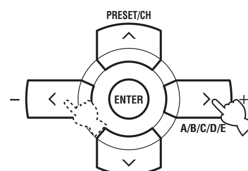
リモコン

INPUT

MULTI CH IN

本体

2 ＜／＞キーを押して、補正する音量を調節する。



ネットワーク/USBデバイスを設定する（NET/USB MENU）

ネットワークに関する各種項目や、パソコンおよびUSBデバイスに保存されたファイルを再生するときの方法などを設定します。

ネットワークを設定する（NETWORK）

IPアドレスなどのネットワーク設定値の確認や、ネットワーク設定をします。設定は、DHCPサーバー機能によって自動的に設定する方法と、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを手動で設定する方法があります。ルーターにDHCPサーバー機能がある場合は、「DHCP」メニューで「ON」を選べば、簡単に設定できます。
（MANUAL SETUP→NET/USB MENU→NETWORK）

```
     A)NETWORK
→    DHCP          ON
 IP       192.168.000.002
 SUBNET   255.255.255.000
 GATEWAY  192.168.000.001
 DNS (P)  192.168.000.001
 DNS (S)  000.000.000.000
     SET    >CANCEL
     [▲]/[▼]:Up/Down
     [ENTER]:Enter
```

ご注意

上図はOSD表示の一例です。

■ DHCP

ネットワークを自動的に設定するか、手動で設定するかを選択します。自動的に設定する場合は「ON」を選択し、ENTERキーを押すと、自動設定が開始されます。設定が終了すると、自動設定された数値がOSDに表示されます。手動で設定する場合は「OFF」を選択し、ENTERキーを押すと、各項目の手動設定に移ります。右記の「IP ADDRESS」から「DNS SERVER (S)」までの５つの項目を設定してください。

選択項目： ON、OFF

初期設定： ON

ON： ネットワークを自動で設定します。

OFF： ネットワークを手動で設定します。

ご注意

自動設定された数値は手動で変更できません。数値を手動で変更する場合は、「OFF」を選んでから、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを設定してください。

ヒント

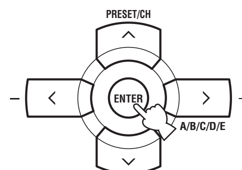
通常は「ON」を選択することをおすすめします。その際、ルーターにDHCPサーバー機能があることをご確認ください。

■ IP ADDRESS

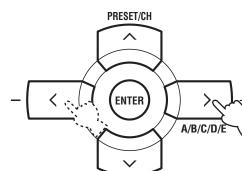
IPアドレスを手動で設定します。

1 ENTERキーを押す。

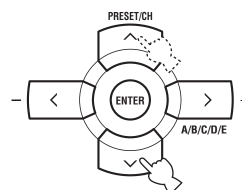
数値入力モードになります。



2 ＜／＞キーを押してカーソルを変更したい数値の位置へ動かす。



3 ∧／∨キーを押して適切な数値に変更する。



4 ENTERキーを押す。

次の項目設定に移ります。

5 手順１～４を繰り返す。

「IP ADDRESS」の設定が終わったら、次ページの４つの項目も同様に設定してください。

■ SUBNET

サブネットマスクを手動で設定します。

ヒント

通常は「255.255.255.0」を入力してください。

■ GATEWAY

デフォルトゲートウェイを手動で設定します。

■ DNS（P）

プライマリー DNS サーバーを手動で設定します。

ヒント

DNS アドレスが 1 つの場合は、「DNS（P)」に入力してください。

■ DNS（S）

セカンダリー DNS サーバーを手動で設定します。

ヒント

DNS アドレスが 2 つ以上ある場合は、1 つを「DNS（P)」に、ほかの 1 つを「DNS（S)」に入力してください。

6 すべての項目を設定したら、</>キーを押して SET または CANCEL を選ぶ。

選択項目： SET、CANCEL

初期設定： SET

SET：変更した数値でネットワークを設定します。

CANCEL：変更した数値でネットワークを設定しません。

7 ENTER キーを押して決定する。

ご注意

ネットワーク環境を変更した場合、ネットワークを再設定しなければならないことがあります。

ヒント

ADVANCED SETUP メニュー「N-RESET」で、ネットワークの設定を初期状態に戻せます（☞89 ページ）。

再生スタイルを設定する（PLAY STYLE）

パソコンや USB デバイスを再生しているときの再生スタイルを設定します。
（MANUAL SETUP→NET/USB MENU→PLAY STYLE）



■ REPEAT

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

選択項目： OFF、SINGLE、ALL

初期設定： OFF

OFF：リピート再生しません。

SINGLE：選んだ曲をリピート再生します。

ALL：選んだディレクトリ内のすべての曲をリピート再生します。

ヒント

- 「SINGLE」または「ALL」を選んでいるときは、再生情報画面右上に「R」が反転表示されます。
- 「SINGLE」を選んでいるときに本機の電源をオフにした場合、設定が「OFF」にリセットされます。

■ SHUFFLE

曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

選択項目： OFF、ON

初期設定： OFF

OFF：ランダム再生しません。

ON：選んだディレクトリ内のすべての曲をランダムに再生します。

ヒント

「ON」を選んでいるときは、再生情報画面右上に「S」が反転表示されます。

情報を表示する（INFORMATION）

マックアドレスやネットワークとの接続状況を表示します。
（MANUAL SETUP→NET/USB MENU→INFORMATION）



■ MAC ADDRESS

本機のマックアドレスを表示します。

■ STATUS

ネットワークとの接続状況を表示します。

表示項目： 10BASE-T、100BASE-TX、FULL-DUPLEX、HALF-DUPLEX、NO LINK

ご注意

ネットワークが接続されていない場合は、「NO LINK」と表示されます。

その他の設定を変更する（OPTION MENU）

お好みに応じて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護できます。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）



■ DIMMER（ディスプレイの明るさ）

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲： −４〜０

初期設定： ０

■ VIDEO CONV.（ビデオコンバージョン機能）

本機のＳビデオまたはコンポジットビデオ端子に入力した映像信号を映像出力端子から出力するときに、信号方式を変換するか変換しないかを設定します。

選択項目： ON、OFF

初期設定： ON

ON：信号方式を変換します。S ビデオ信号はコンポーネント信号またはコンポジットビデオ信号に、コンポジットビデオ信号は S ビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に変換されるため、コンポーネントビデオ、S ビデオ、コンポジットビデオのいずれの端子からも出力することができます。

OFF：変換しません。入力された信号は、入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力されます。

ご注意

- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、プレーヤーと同じ種類のビデオ接続（例：S VIDEO とS VIDEO など）を行ってください。
- 「OFF」に設定すると、オンスクリーン画面は表示されません（☞36 ページ）。
- お手持ちのビデオデッキを本機に接続しているとき、コンポジットビデオ信号またはＳビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 「OFF」に設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。
- 特殊な信号を出力する機器と接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、「ON」に設定しても入力信号が変換されない場合があります。このような場合は、「OFF」に設定してください。

■ OSD SHIFT

オンスクリーン表示を表示する上下位置を調節します。

可変範囲： −５（上方）〜＋５（下方）

初期設定： ０

■ GRAY BACK

映像信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。

選択項目： AUTO、OFF

初期設定： AUTO

AUTO：映像信号が入力されていない場合は、グレーの背景を表示して、オンスクリーン画面を表示します。

OFF：映像信号が入力されていない場合は、オンスクリーン画面を表示しません。

ご注意

入力された映像信号や、テレビの映像信号方式（NTSC／PAL）によっては、オンスクリーン画面が乱れる場合があります。そのような場合は、「OFF」に設定してください。

■ ON SCREEN

iPod やネットワークオーディオ、USB デバイスを操作したときに、OSD を表示する時間を設定します。

選択項目： ON、10s、30s

初期設定： 10s

ON：常に表示します。

10s：10 秒間表示します。

30s：30 秒間表示します。

■ FL SCROLL

iPodやネットワークオーディオ、USBデバイスの曲名や放送局名などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14文字を超える場合の表示方法を設定します。

選択項目： CONT、ONCE

初期設定： CONT

CONT：すべての文字をスクロールしながら表示します。

ONCE：最初の文字から14文字目までを1度に表示します。

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

変更した設定値を保護します。「ON」に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
(MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARD)



選択項目： OFF、ON

初期設定： OFF

「ON」に設定すると、以下の設定が保護されます。
- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量レベル

ご注意

「ON」に設定すると、ほかのセットメニューは呼び出せません。

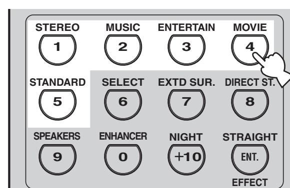
音場プログラムパラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場プログラムパラメーター（☞118ページ）を、初期設定に戻します。
この機能を使って音声プログラムパラメーターを初期化すると、そのプログラム内のサブプログラムの設定もすべて初期化されます。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INI）

設定が変更されている音場プログラムは、プログラム名の前に＊（アスタリスク）が表示されます。リモコンの音場プログラムキーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

選んだ音場プログラムのパラメーターが初期設定に戻ります。





ご注意

- 1度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- サブプログラムごとに、初期設定に戻すことはできません。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している場合は、初期設定に戻すことはできません。

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）

スピーカーBの設置場所を設定する（MULTI ZONE SET）

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MULTI ZONE SET）



■ SP B

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカーB）を、メインリスニングルームで使うか、別の部屋で使うかを設定します。

選択項目： FRONT、ZONE B

初期設定： FRONT

FRONT：メインリスニングルームでお使いになるときの設定です。リモコンのSPEAKERSキーまたは本体のSPEAKERS A／Bスイッチでスピーカー A と B を使い分けてください。

ZONE B：別の部屋でお使いになるときの設定です。スピーカー A の出力をオフ、スピーカー B の出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

ヒント

- ZONE Bに設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- ZONE Bに設定して、スピーカーAをオフ、スピーカーBをオンにした場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードでの再生になります。

本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

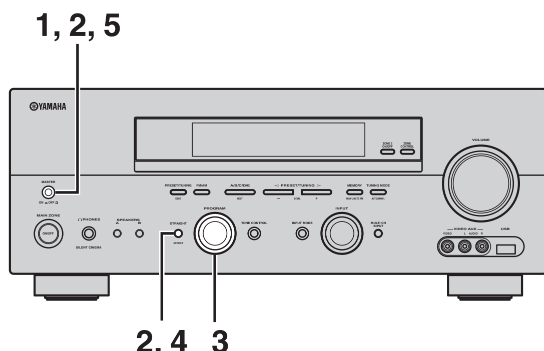
ADVANCED SETUPにより、本機の設定を初期設定に戻したり、リモコンIDを変更することができます。

ご注意

- ADVANCED SETUPの操作をしているあいだは、本機から音が出なくなります。
- ADVANCED SETUPの操作をはじめると、本体のMASTER ON／OFFスイッチ、MAIN ZONE ON/OFFスイッチ、STRAIGHT／EFFECTキー、PROGRAMセレクター以外は機能しません。

ADVANCED SETUPの操作手順

本体フロントパネルで操作します。



1 MASTER ON／OFFスイッチを押して、本機の電源をオフにする。



2 STRAIGHT／EFFECTキーを押しながら、もう1度MASTER ON／OFFスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにADVANCED SETUPのメニューが表示されます。

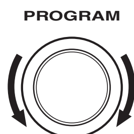


を押しながら

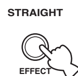


3 PROGRAMセレクターを回して設定したいメニューを選ぶ。

詳しくは右記の「ADVANCED SETUPの メニューと項目」をご覧ください。



4 STRAIGHT／EFFECTキーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。



5 MASTER ON／OFFスイッチを押す。

電源がオフになり、手順３～４で設定した内容が記憶されます。



手順５を行うと、ADVANCED SETUPの手順は終了します。
電源をオンにすると、選んだ設定が有効になります。

ADVANCED SETUPのメニューと項目

必要に応じて初期設定を変更してください。

■ PRESET（初期設定に戻す）

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。詳しくは、「すべての設定を初期設定に戻す」（☞90 ページ）をご覧ください。

ご注意

ADVANCED SETUPの設定は初期設定に戻りません。

■ N-RESET（ネットワーク設定を初期設定に戻す）

ネットワークの設定（☞83 ページ）を初期設定に戻します。

選択項目： CANCEL、RESET
初期設定： CANCEL

CANCEL：初期設定に戻しません。

PRESET：ネットワークの設定を初期設定に戻します。

■ REMOTE AMP （ アンプ用リモコン ID）

本体のアンプ用リモコンIDをリモコンのアンプライブラリーコードの設定に合わせて切り替えます。

選択項目： ID1、ID2
初期設定： ID1

ID1：アンプライブラリーコードが「00001」に設定されているときに選びます。

ID2：アンプライブラリーコードが「00002」に設定されているときに選びます。

■ REMOTE TUN （チューナー用リモコン ID）

本体のチューナー用リモコンIDをリモコンのチューナーライブラリーコードの設定に合わせて切り替えます。

選択項目： ID1、ID2
初期設定： ID1

ID1：チューナーライブラリーコードが「81916」に設定されているときに選びます。

ID2：チューナーライブラリーコードが「81917」に設定されているときに選びます。

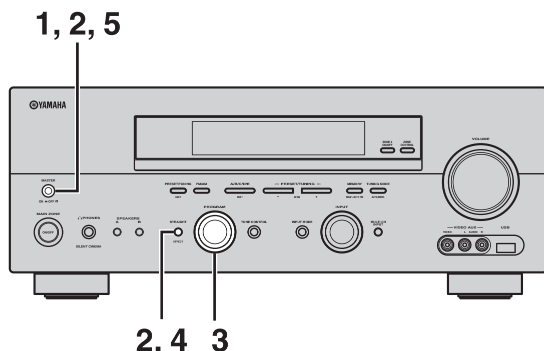
ご注意

リモコンのライブラリーコードの設定もあわせてご確認ください。詳しくは、「ライブラリーコードを変更する」（☞99ページ）をご覧ください。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。

本体フロントパネルで操作します。



1 本機の電源をオフにする。



2 STRAIGHT／EFFECTキーを押しながら、MASTER ON／OFFスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにADVANCED SETUPのメニューが表示されます。

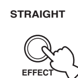


を押しながら


3 PROGRAMセレクターを回して、PRESETを選ぶ。



4 STRAIGHT／EFFECTキーを押して、PRESET－CANCELまたはPRESET－RESETを選ぶ。



CANCEL：初期設定に戻しません。
RESET：すべての設定を初期設定に戻します。

5 MASTER ON／OFFスイッチを押す。



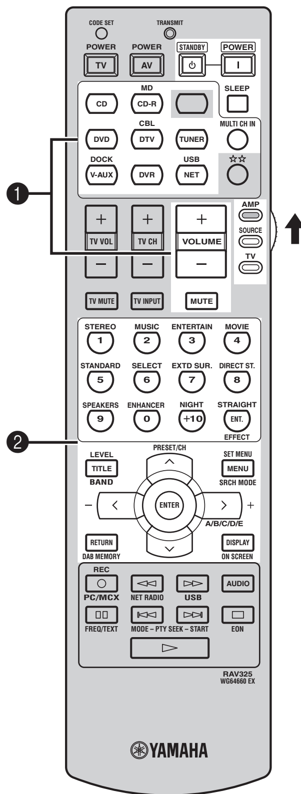
「CANCEL」を選んだ場合は初期設定に戻らずに、本機の電源はそのままオフになります。
「RESET」を選んだ場合は、すべての設定が初期設定に戻り、本機の電源はオフになります。

リモコンのはたらき

本機のリモコンでは、本機の操作はもちろん、リモコンコードを設定することにより (☞93 ページ)、DVD プレーヤーやCD プレーヤー、テレビなど、本機以外のAV 機器も操作できます。

本機を操作する

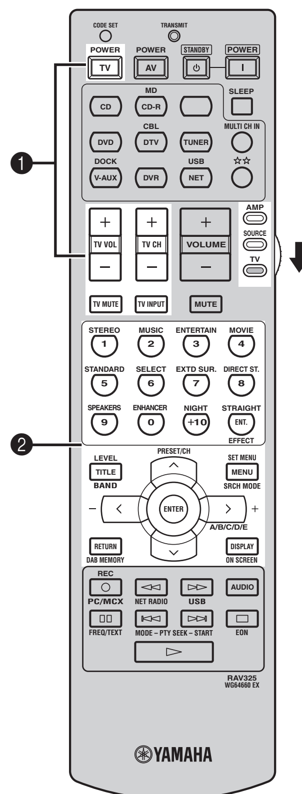
リモコンで本機を操作したいときは、操作機器選択スイッチをAMP にセットします。本機の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。



❶ 操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、本機のアンプ機能を操作できます。
❷ 操作機器選択スイッチを AMP にセットしたときに、本機のアンプ機能を操作できます。

テレビを操作する

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合は、操作機器選択スイッチをTV にセットします。DTV/CBL または☆☆キーにテレビのリモコンコードを設定してください (☞93 ページ)。両方のキーにリモコンコードを設定した場合は、DTV/CBL キーに設定したリモコンコードが優先されます。テレビの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。



❶ 操作機器選択スイッチの位置にかかわらず、テレビを操作するときに使用します。

TV POWER：テレビの電源を切り替えます。
TV VOL +/ –：テレビの音量を操作します。
TV CH +/ –：テレビのチャンネルを切り替えます。
TV MUTE：テレビの音量を一時的に消音します。
TV INPUT：テレビの入力を切り替えます。

❷ 操作機器選択スイッチを TV にセットしたときに、テレビを操作できます。各キーの操作内容については、92 ページの表中の「テレビ」欄をご覧ください。

他の機器を操作する

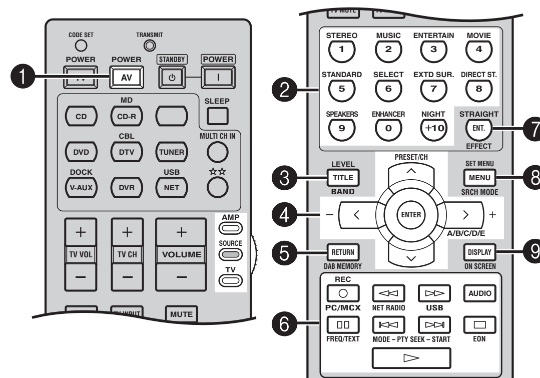
リモコンで他の機器を操作したいときは、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットします。他の機器の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。工場出荷時、CD、MD/CD-R、TUNER、DVDキーとブランクキー（空白のキー）にはヤマハリモコンコードがあらかじめ設定されています。他社製の機器を操作する場合は、リモコンコードを変更する必要があります。また、上記以外の機器を操作するには、あらたにリモコンコードを設定してください（☞93 ページ）。

ご注意

- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- お使いの機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります

ヒント

- ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodの操作に関しては「iPodを操作する」（☞106 ページ）をご覧ください。
- ネットワークオーディオ/USBデバイスの操作に関しては「ネットワークオーディオ/USBデバイスを操作する」（☞109 ページ）をご覧ください。

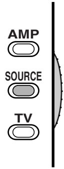


機器 / リモコンのキー	DVD プレーヤー／DVD レコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	CD プレーヤー	CD レコーダー／MD レコーダー	チューナー
❶ AV POWER	*1POWER	*1POWER	*2 (ビデオデッキ)POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER	–
❷ 1～9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択 (1～8)
❸ TITLE	タイトルメニュー	–	–	–	–	–	バンド切り替え
❹ PRESET/CH ∧	選択 (上へ)	チャンネル選択 (+)	–	–	–	–	登録局 (1～8) 選択 (+)
PRESET/CH ∨	選択 (下へ)	チャンネル選択 (–)	–	–	–	–	登録局 (1～8) 選択 (–)
〉	選択 (右へ)	–	–	–	–	–	プリセットグループ選択 (A→E)
〈	選択 (左へ)	–	–	–	–	–	プリセットグループ選択 (A←E)
ENTER	メニュー決定	–	–	–	–	–	–
❺ RETURN	前の画面へ戻る	–	前の画面へ戻る	–	–	–	–
❻ REC	*3(プレーヤー) ディスクスキップ *4(レコーダー) 録画	*4 録画	*2*4(ビデオデッキ) 録画	–	*3 ディスクスキップ	*4 録音（MD）	–
▷	再生	再生	*2(ビデオデッキ) 再生	再生	再生	再生	–
◁◁	早戻し	巻き戻し	*2(ビデオデッキ) 巻戻し	早戻し	早戻し	早戻し	–
▷▷	早送り	早送り	*2(ビデオデッキ) 早送り	早送り	早送り	早送り	–
AUDIO	オーディオメニュー	オーディオメニュー	*2 オーディオメニュー	サウンドメニュー	–	–	–
❚❚	一時停止	一時停止	*2(ビデオデッキ) 一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	–
|◁◁	チャプタースキップ (–)	チャプタースキップ (–)	*2 チャプタースキップ (–)	スキップ (–)	スキップ (–)	スキップ (–)	–
▷▷|	チャプタースキップ (+)	チャプタースキップ (+)	*2 チャプタースキップ (+)	スキップ (+)	スキップ (+)	スキップ (+)	–
□	停止	停止	*2(ビデオデッキ) 停止	停止	停止	停止	–
❼ ENT.	タイトル/インデックス表示	決定	決定	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	–
❽ MENU	メニュー	–	メニュー	–	–	–	–
❾ DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	–

*1 機器に付属のリモコンにPOWERキーがあるときのみ機能します。
*2 DVRにビデオデッキまたはDVDレコーダーのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキまたはDVDレコーダーを操作できます。
*3 ディスクチェンジャー機能がある機器のみ、機能します。
*4 2回続けてキーを押してください。

操作機器選択スイッチの役割

2つ以上の役割を持つキー（11 ページ図の灰色部分のキー）の操作内容を切り替えます。



音場プログラムキーなど、本機のアンプ機能の操作主体で使う場合：
「AMP」にセットします。

数字キーなど、他の機器の操作や本機のチューナー機能主体で使う場合：
「SOURCE」にセットします。

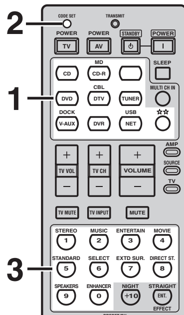
本機に関係なく、テレビのリモコンとして使う場合：
「TV」にセットします。
DTV/CBL または ☆☆ キーにテレビのリモコンコードを設定してください。両方のキーにリモコンコードを設定した場合は、DTV/CBL キーに設定したリモコンコードが優先されます。

本機のリモコンで他の機器を操作する

本機のリモコンで他の機器を操作するための設定について説明します。

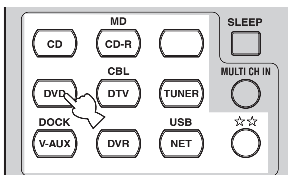
リモコンで操作する機器を設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンでほかのメーカーの機器を操作することができます。リモコンコードは各入力選択キーまたは☆☆ キー、ブランクキーに設定することができます。



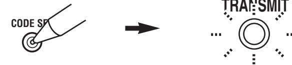
1 リモコンコードを設定したい入力選択キーまたは ☆☆ キー、ブランクキーを押す。

例：DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作したい場合は、DVD キーを押します。



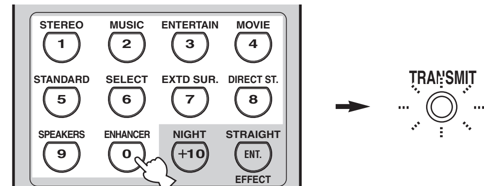
2 CODE SET ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。
リモコンの TRANSMIT インジケーターが 2 回点滅します。



3 数字キーを押して、お使いになる機器のリモコンコード（5 桁の数字）を入力する。

1 桁入力するごとに TRANSMIT インジケーターが 1 回点滅します。
5 桁分が正しく入力された場合は、最後に TRANSMIT インジケーターが 1 回点滅します。
リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」をご覧ください（☞95 ページ）。



ヒント

- お使いの機器のメーカーによっては複数のリモコンコードが記載されています。正しく操作できるコードをお使いください。
- TRANSMIT インジケーターが素早く 6 回点滅した場合は、リモコンコードが正しく入力されていません。もう 1 度入力し直してください。

ご注意

- 手順３は、手順２の操作後30秒以内に操作してください。30秒以上経過するとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作し直してください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器（ヤマハ製のAV機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- １つの入力選択キーに対して、リモコンコードは１つだけ設定できます。

■ 工場出荷時のリモコンコード設定

下表のように、CD、MD/CD-R、TUNER、DVDの入力選択キーとブランクキーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。詳しくは下記の表をご覧ください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカー名	リモコンコード
CD	CD	YAMAHA	61907
MD/CD-R	MD	YAMAHA	70888
TUNER	TUNER	YAMAHA	81916
DVD	DVD	YAMAHA	40539
DTV/CBL	–	–	–
DOCK/ V-AUX	その他の機器 （iPod）	YAMAHA	81981
DVR	–	–	–
NET/USB	その他の機器 （NET）	YAMAHA	81982
☆☆	–	–	–
ブランク	TAPE	YAMAHA	70524

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のリモコンコードをお試しください。

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵されているリモコンコードは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	リモコンコード
AIWA	21180
AKAI	20009, 20035, 20037, 20163, 20178, 20208, 20218, 20264, 20361, 20371, 20433, 20473, 20480, 20516, 20548, 20556, 20602, 20606, 20631, 20696, 20714, 20715, 20729, 20745, 20753, 21207
DAEWOO	20009, 20037, 20218, 20374, 20556, 20634, 20865, 20880, 21307, 21909
DENON	20145, 20511
FUJITSU	20009, 20683, 20853
FUNAI	20264, 20668
HITACHI	20037, 20105, 20108, 20109, 20145, 20163, 20178, 20225, 20473, 20480, 20481, 20492, 20516, 20548, 20578, 20634, 20744, 20797, 21037, 21149, 21194, 21576
JVC	20053, 20093, 20218, 20371, 20418, 20606, 20650, 20653, 20683, 20731
LG	20037, 20178, 20442, 20556, 20698, 20714, 20715, 20829, 21146, 21148, 21191
MARANTZ	20037, 20054, 20412, 20556, 20704
MITSUBISHI	20037, 20093, 20108, 20178, 20250, 20512, 20556, 21037
NATIONAL	20226
NEC	20009, 20053, 20156, 20170, 20374, 20455, 20587, 20704, 21704
PANASONIC	20037, 20163, 20226, 20250, 20361, 20367, 20516, 20548, 20650, 20853, 21210, 21310
PHILIPS	20009, 20037, 20054, 20200, 20361, 20374, 20556, 20772, 21756
PIONEER	20037, 20109, 20163, 20361, 20486, 20512, 20679, 20760
SAMSUNG	20009, 20037, 20060, 20163, 20178, 20208, 20264, 20370, 20482, 20556, 20587, 20618, 20644
SANSUI	20037, 20727, 20729, 20861
SANYO	20088, 20108, 20170, 20208, 20370, 20555, 20704, 20735
SHARP	20053, 20093, 20200, 20491, 20516, 21163, 21193
SONY	20000, 20037, 20053, 20093, 20145, 20156, 20170, 20250, 20353, 21100, 21505, 21751
TEAC	20009, 20037, 20170, 20178, 20264, 20412, 20418, 20455, 20512, 20668, 20698, 20712, 21037, 21149, 21755, 21909
TECHNICS	20250, 20556, 20650
TOSHIBA	20035, 20060, 20109, 20156, 20195, 20241, 20508, 20618, 20650, 20714, 20736, 21163, 21164, 21704
VICTOR	20053, 20653
YAMAHA	20650, 20769, 20797, 21405, 21406, 21407, 21576

ケーブルTVチューナー

メーカー名	リモコンコード
FUJITSU	11497
NEC	11496
PANASONIC	10375, 11488
PHILIPS	10817
PIONEER	11021, 11500
SAMSUNG	11060, 11666
SONY	11460
TOSHIBA	11509

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	11514, 11515
DAEWOO	10713, 11111, 11296, 11743
HITACHI	11250, 11284, 11518, 11523, 11525
JVC	11507, 11531, 11532
KENWOOD	10853
LG	11075, 11226
MARANTZ	10200
NEC	11270, 11519
PANASONIC	10847, 11104, 11304, 11320, 11404, 11508, 11526, 11527, 11528
PHILIPS	10099, 10133, 10173, 10200, 10292, 10818, 10853, 10898, 11114, 11118, 11672
PIONEER	10292, 10329, 10352, 10853, 11308
SAMSUNG	10853, 11017, 11206, 11243, 11293, 11458, 11570
SANYO	11219
SHARP	10541, 11489, 11513, 11517
SONY	10282, 10292, 10639, 10847, 10853, 11524, 11558
TEAC	11225, 11227, 11251, 11322
TOSHIBA	11501, 11516, 11530

DVD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	40533, 40641
AKAI	40766, 40770, 40788, 40790, 40898, 41115, 41233
DAEWOO	40705, 40714, 40770, 40833, 40869, 40872
DENON	40490, 40634, 41282, 41634
FUNAI	40675, 40695
HITACHI	40573, 40664, 40713
JVC	40503, 40539, 40558, 40623, 40867
KENWOOD	40490, 40534
LG	40591, 40741, 40790, 40801, 40869
MARANTZ	40539
MITSUBISHI	40713, 41521
NEC	40785, 40869
ONKYO	40503, 40627, 40792
PANASONIC	40490, 41282
PHILIPS	40503, 40539, 40675
PIONEER	40525, 40571, 41571
SAMSUNG	40490, 40573, 40744, 41075
SANSUI	40695, 40751, 40768
SANYO	40670, 40695, 40713, 40873
SHARP	40630, 40675, 40713, 41256
SONY	40533, 40573, 40772, 40864, 41033, 41633
TEAC	40516, 40571, 40695, 40741, 40759, 40768, 40790, 40809, 40833, 41006, 41197, 41483
TECHNICS	40490
TOSHIBA	40503, 40695
YAMAHA	40490, 40539, 41282, 41543

DVD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
DENON	50490
FUNAI	50675
HITACHI	51664
JVC	51164, 51275
LG	50741
MITSUBISHI	51403
NEC	51404
PANASONIC	50490, 51010, 51011
PHILIPS	50646, 51158, 51818
PIONEER	50631, 51475, 51476
SAMSUNG	50490
SHARP	50630, 50675, 51419, 51550, 51556
SONY	51033, 51069, 51070, 51433
TOSHIBA	51510
VICTOR	51275

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード
AIWA	30000, 30032, 30037, 30307, 30348, 30352
AKAI	30041, 30106, 30240, 30315, 30348, 30352, 30642
DAEWOO	30045, 30278, 30352, 30637, 30642
DENON	30042
FUJITSU	30000, 30045
FUNAI	30000
HITACHI	30000, 30037, 30041, 30042, 30081, 30166, 30240
JVC	30041, 30067, 30206, 31008, 31279
KENWOOD	30038, 30041, 30067
LG	30037, 30480
MARANTZ	30038, 30081
MITSUBISHI	30043, 30048, 30067, 30081, 30480, 30642
NEC	30037, 30038, 30041, 30067, 30104, 30278
PANASONIC	30162, 30226, 30836, 31244, 31562, 31807, 31808, 31809
PHILIPS	30081
PIONEER	30042, 30067, 30081, 30162
SAMSUNG	30045, 30240
SANSUI	30000, 30041, 30067, 30072, 30106
SANYO	30048, 30067, 30104, 30240
SHARP	30037, 30048
SHINTOM	30072, 30104
SONY	30000, 30032, 30033, 30034, 30106, 31032, 31636, 31972
TEAC	30000, 30037, 30041, 30278, 30307, 30637, 30642
TECHNICS	30081, 30162, 30226
TOSHIBA	30041, 30042, 30043, 30045, 30081, 30352, 30828, 31008, 31972
VICTOR	30041, 30067
YAMAHA	30038

CD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	60157
AKAI	60156, 60362, 60643
DENON	60003, 60034, 60626
HITACHI	60032
KENWOOD	60028, 60157, 60190, 60626
LG	71208
MARANTZ	60029, 60157, 60626
MITSUBISHI	60156
ONKYO	60101, 61327
PANASONIC	60029, 60303
PHILIPS	60157, 60626
PIONEER	60032, 60101
SAMSUNG	60524
SANSUI	60157, 60625
SANYO	60179
SHARP	60034
SONY	60000
TEAC	60362, 60393, 60625, 60643
TECHNICS	60029, 60207, 60303
TOSHIBA	60299, 60481
YAMAHA	60036, 61907

CD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
DENON	70626, 70766
JVC	71294
KENWOOD	70626
LG	71208
MARANTZ	70626
PHILIPS	70626
PIONEER	70192, 71087
SONY	70000
TEAC	70420
VICTOR	70072, 71294
YAMAHA	70888, 71292

MD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
DENON	70873
KENWOOD	70681
PIONEER	71063
SHARP	70861, 71684
SONY	70490
TECHNICS	71078
YAMAHA	70490, 70888, 71909

カセットデッキ

メーカー名	リモコンコード
AIWA	70029, 70197
AKAI	70189, 70283
DENON	70076
JVC	70244, 70273
KENWOOD	70070, 70205
MARANTZ	70029
MITSUBISHI	70189, 70283
ONKYO	70135, 70282
PANASONIC	70229
PHILIPS	70029, 70229
PIONEER	70027, 70220
SANSUI	70029
SHARP	70205, 70231
SONY	70170, 70243
TEAC	70283, 70289, 70308, 70309
TECHNICS	70229
VICTOR	70244, 70273
YAMAHA	70097, 70205, 70524

LD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	40203
DENON	40059
FUNAI	40203
HITACHI	40395
KENWOOD	40258
MARANTZ	40064, 40194
MITSUBISHI	40059
PANASONIC	40204
PHILIPS	40064, 40194
PIONEER	40059
SHARP	40001
SONY	40193, 40201
TECHNICS	40204
VICTOR	40245
YAMAHA	40217

チューナー

メーカー名	リモコンコード
AIWA	80158, 80189
AKAI	80115, 80609
DENON	80004, 80273
JVC	80074
KENWOOD	80027, 80645
LG	80281
MARANTZ	80189
ONKYO	80103, 80119
PANASONIC	80309, 80518
PHILIPS	80189
PIONEER	80014
SANSUI	80189, 80609
SONY	80158
TEAC	80110, 80609
TECHNICS	80309, 80518, 81135
VICTOR	80074
YAMAHA	80293, 81908
	81916 (TUNER ID1), 81917 (TUNER ID2)

その他の機器

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA (iPod)	81981
YAMAHA (NET)	81982

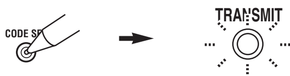
ライブラリーコードを変更する

本機と本機以外のヤマハ製のアンプやチューナーを同時にお使いの場合、初期設定のライブラリーコードのままリモコンを使うと、本機以外のアンプやチューナーも動作してしまう場合があります。
本機のみをリモコンで操作できるように、ライブラリーコードの設定を変更することをおすすめします。

■ アンプライブラリーコードの設定

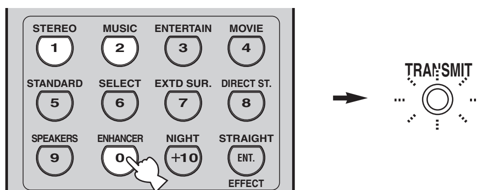
1 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが２回点滅します。



2 数字キーを押して「00001」または「00002」を入力する。

１桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが１回点滅します。
５桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが１回点滅して、ライブラリーコードの設定が変わります。正しく入力されなかった場合は、６回点滅します。



アンプライブラリーコード（リモコンの設定）	機能	アンプ用リモコンID（本体の設定）
00001（初期設定）	通常のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID1（初期設定）
00002	別系統のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID2

ご注意

アドバンストセットアップメニューの「REMOTE AMP（アンプ用リモコンID）」で、本体のアンプ用リモコンIDもあわせて設定する必要があります（☞90ページ）。

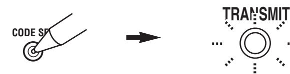
■ チューナーライブラリーコードの設定

1 TUNERキーを押す。



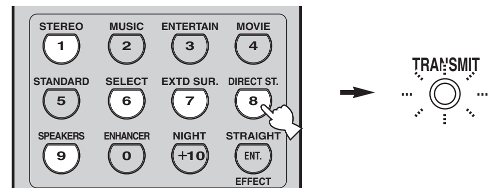
2 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが２回点滅します。



3 数字キーを押して「81916」または「81917」を入力する。

１桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが１回点滅します。
５桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが１回点滅して、ライブラリーコードの設定が変わります。正しく入力されなかった場合は、６回点滅します。



チューナーライブラリーコード（リモコンの設定）	機能	チューナー用リモコンID（本体の設定）
81916（初期設定）	通常のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID1（初期設定）
81917	別系統のライブラリーコードを使って本機を操作する。	ID2

ご注意

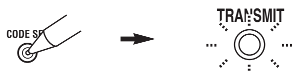
アドバンストセットアップメニューの「REMOTE TUN（チューナー用リモコンID）」で、本体のチューナー用リモコンIDもあわせて設定する必要があります（☞90ページ）。

リモコンを初期化する

設定したリモコンコードを取り消して、初期状態に戻すことができます。

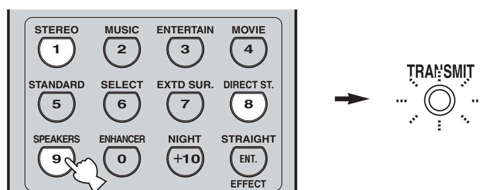
1 CODE SET ボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMIT インジケーターが２回点滅します。



2 数字キーを押して、「9981」と入力する。

１桁入力するごとにTRANSMIT インジケーターが１回点滅します。
４桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMIT インジケーターが１回点滅し、すべてのリモコンコードが取り消されます。

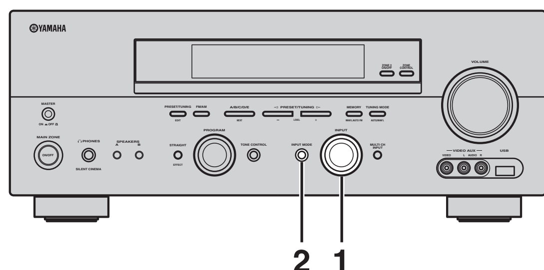


ヒント

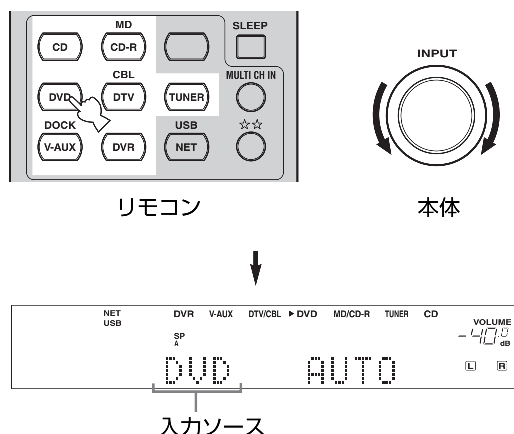
- 上記の手順１のあとに30 秒以内にキーを押さないと、操作は取り消されます。この場合はもう１度手順１からやり直してください。
- 設定したリモコンコードを入力ごとに初期化したい場合は、「リモコンで操作する機器を設定する」の手順３で「9980」と入力します。

デジタル信号／アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は、さまざまな種類の入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ／デジタルの優先順位を設定したり、DTS などの特定の信号に固定することができます。

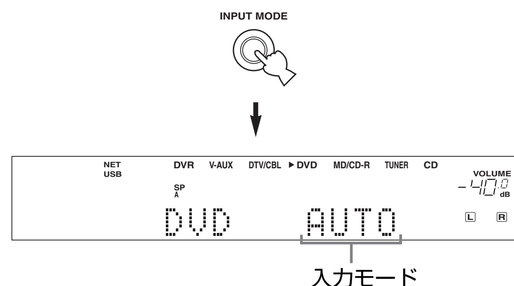


1 本体のINPUT セレクターを回して入力ソースを選ぶ。
またはリモコンの入力選択キーを押す。



2 本体のINPUT MODEキーを繰り返し押して入力モードを選ぶ。

通常は AUTO を選択します。



AUTO：アナログ信号よりデジタル信号（*）が優先して選ばれます。

* ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号のいずれかが入力されると、自動的に最適なデコーダーに切り換わります。

DTS：DTS 信号に固定されます。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC：AAC 信号に固定されます。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG：アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

セットメニュー「INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、AUTO に戻すかを設定できます（☞80 ページ）。

■ デジタル信号のサンプリング周波数について

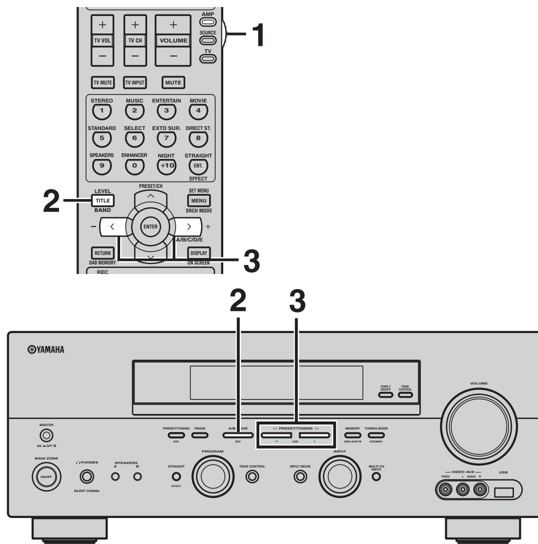
本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号にHiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果を付加する場合、またはナイトリスニングモードを適用する場合、サンプリング周波数は48kHz以下に変換されます。

■ DTS CD ／ DTS LD の再生について

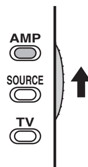
- DTS CD、DTS LD を再生しているときは、入力モードをDTS に設定してください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続してもDTS 音声は再生されません。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。



1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードにする。

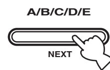


2 リモコンのLEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。または本体のA/B/C/D/E (NEXT) キーを繰り返し押す。

リモコンのLEVELキーを１度押したあとは、︿／﹀キーを使って選ぶこともできます。

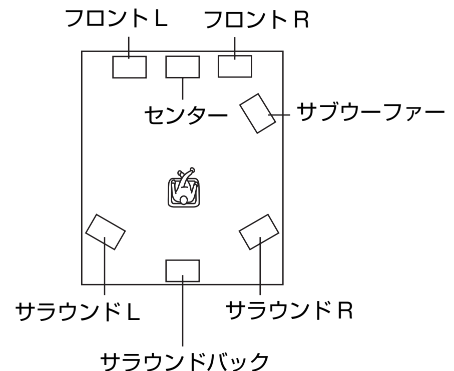


リモコン



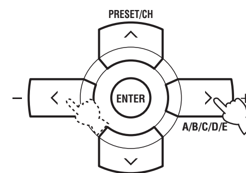
本体

表示	スピーカー
FRONT L	フロントL
CENTER	センター
FRONT R	フロントR
SUR.R	サラウンドR
SUR.B	サラウンドバック
SUR.L	サラウンドL
SWFR	サブウーファー

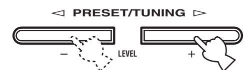


3 リモコンの〈または〉キーを押して、スピーカーの音量を調節する。または本体のLEVEL－／＋キーを押す。

音量の調節範囲は、－10～+10dBです。



リモコン



本体

ヒント

- 「BASIC SETUP」(☞38ページ）やセットメニュー「SPEAKER LEVEL」(☞75ページ）で調節された音量は無効になります。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、独立して音量を調節できます。

ご注意

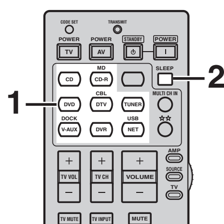
- セットメニュー「SPEAKER SET」で「NONE」に設定されているスピーカーの音量は調節できません(☞72ページ)。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定している場合、サブウーファーの調節はできません（☞73ページ)。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

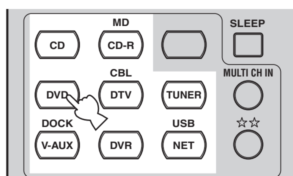
設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレット（☞35 ページ）に接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

リモコンで操作します。



1 **リモコンの入力選択キーまたは本体のINPUTセレクターで入力（ソース）を選んで、再生をはじめる。**

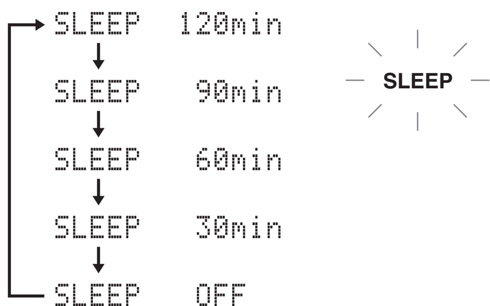


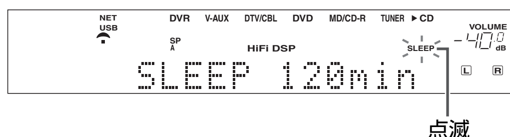
リモコン

2 **リモコンのSLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイになるまでの時間を選ぶ。**



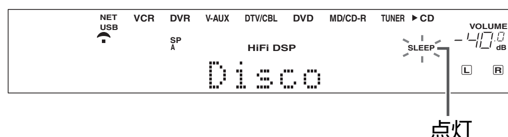
SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。





点滅

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

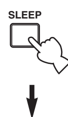


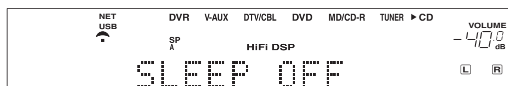
点灯

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを繰り返し押します。

SLEEPインジケーターが消灯し、「SLEEP OFF」が数秒間表示されたあと、音場プログラムの表示に戻ります。





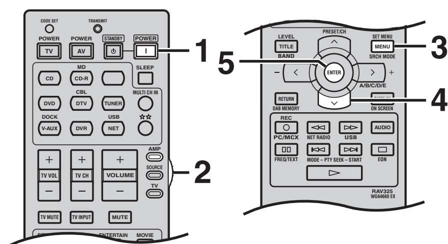
ヒント

以下の操作をすると、スリープタイマーは解除されます。

- リモコンのSTANDBYキーを押す
- 本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押す
- 本体のMASTER ON／OFFスイッチを押す
- 電源コードを抜く

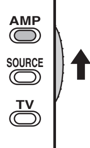
入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。



1 本機の電源を入れる。

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。

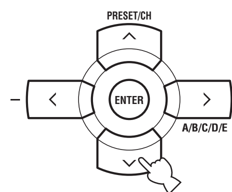


3 SET MENU キーを押す。





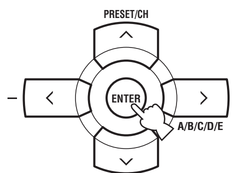
4 ∨キーを押して、SIGNAL INFO を選ぶ。

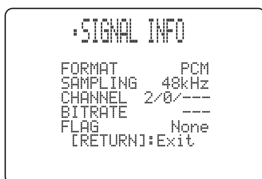




5 ENTER キーを押す。

入力信号の情報が表示されます。





ヒント

入力信号の情報は、フロントパネルディスプレイでも表示させることができます。

1 本機の電源を入れる。
2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードにする。
3 リモコンの入力選択キーを押して、情報を見たい入力を選ぶ。
4 リモコンのSTRAIGHT／EFFECTキーを押す。
5 リモコンの∧または∨キーを押す。

FORMAT

入力信号の種類をあらわします。

表示	フォーマット
Analog	アナログ
PCM	PCM
DolbyD	ドルビーデジタル
DTS	DTS
AAC	AAC
MP3	MP3
WMA	WMA
----	不明な信号

SAMPLING

入力信号のサンプリング周波数（デジタル信号入力時のみ）です。サンプリング周波数が不明の場合は、「－－－」と表示されます。

CHANNEL

入力信号の音声チャンネル数です。例えば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント３チャンネル／サラウンド２チャンネル／LFE0.1チャンネル」を示しています。また、二カ国語放送などの主＋副の２チャンネル音声は「１＋１」と表示されます。

BITRATE

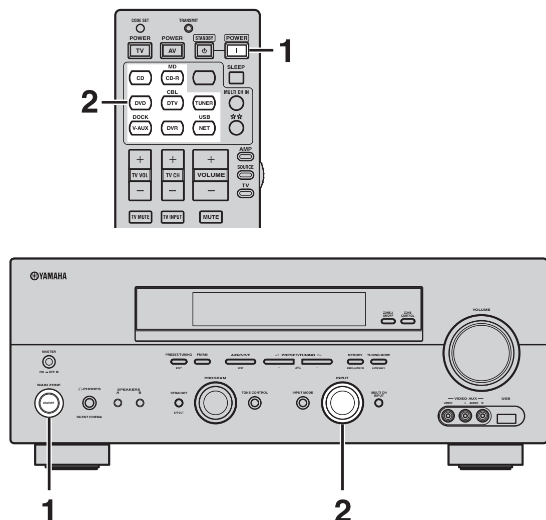
入力信号の１秒あたりのデータ量＝ビットレートをあらわします。

FLAG

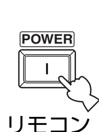
入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号＝フラグをあらわします。

外部機器で録音／録画する

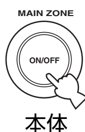
本機に接続した録音／録画機器で、音声や映像を録音／録画できます。



1 本機と本機に接続されているすべての機器の電源を入れる。

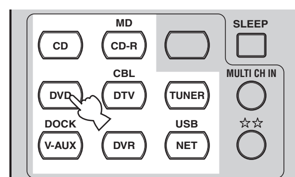


リモコン

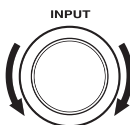


本体

2 リモコンの入力選択キー、または本体のINPUTセレクターで録音／録画したい入力（ソース）を選ぶ。



リモコン



本体

3 録音／録画する音声や映像を再生する。

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM／AM放送を録音したいときは、放送局を選局します（☞45ページ）。

4 録音／録画を開始する。

録音／録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。

- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません（例：DVR入力端子へ入力された信号は、DVR出力端子から出力されません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に以下の操作を行っても、録音される音声には影響しません。
  －音量を調節する。
  －音質を調節する（TONE CONTROL機能）。
  －スピーカーレベルを変更する。
  －音場プログラムを変更する。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたコンポジットビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。

■ DTS CD ／ DTS DVD音声の録音／再生について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS CDまたはDTS DVDの音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

iPod® の再生を楽しむ

リアパネルのDOCK 端子にヤマハ製ドック（別売YDS-10 など）を接続し、iPod（クリックホイール、nano、mini）をセットすることでiPodに保存された音楽や映像を楽しむことができます。iPodの操作は、iPod本体で行うほかに、本機のリモコンで操作したり、OSD画面を見ながら操作することもできます。ヤマハ製ドックの接続については、「ヤマハ製ドックを接続する」（☞30 ページ）をご覧ください。

ヒント

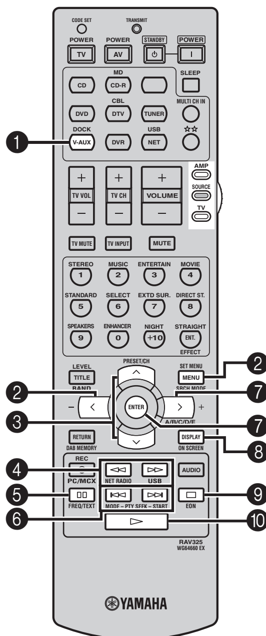
- 本機の電源がオンのときは、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodは自動的に充電されます。
- コンプレストミュージックエンハンサーモードで、よりダイナミックな再生音を楽しめます（☞62 ページ）。

ご注意

iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

iPodを操作する

リモコンでiPodを操作したいときは、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットします。iPodの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。



❶ ヤマハ製ドックにセットした iPod を入力選択します。
❷ 1 つ前の表示に戻ります。
❸ 上 / 下のメニューにカーソルを移動します。
❹ 巻き戻し / 早送りします（長押し）。
❺ 一時停止します。
❻ 再生中の曲の先頭または次の曲の先頭にスキップします。
❼ 選択したメニューに入ります。
❽ OSD モードに入ったり、終了したりします。
❾ 再生を停止します。
❿ 再生します。

ノーマルモードで操作する

iPodをヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットすると、ノーマルモードに入ります。ノーマルモードでは、OSDを表示させずに、以下の基本的な操作をすることができます。

- 再生
- 停止
- 巻戻し
- 早送り
- スキップ
- 一時停止

ヒント

iPod本体でも基本的な操作をすることができます。

OSDモードで操作する

OSDに表示されるメニュー画面を見ながら、基本的な操作をしたり、お好みに合わせて設定を変更することができます。また、コンテンツの情報を見たり、本機の動作状況などを確認することもできます。
操作にはリモコンを使用します。

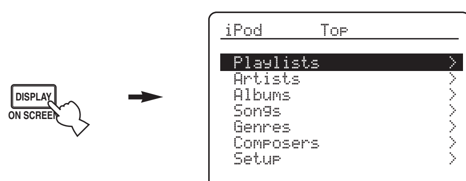
ヒント

OSDモードで操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのMENUキーまたはくキーを押します。

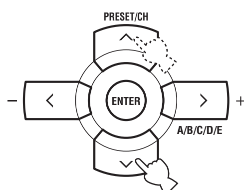
ご注意

- 映像系のファイルはOSDモードで選択できません。ノーマルモードで再生してください。
- 本機が認識できない文字は「 _ 」（アンダーバー）と表示されます。

1 ON SCREENキーを押す。

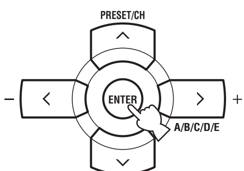


2 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。



3 ENTERキーを押す。

選んだメニューに入ります。



ヒント

>キーでも操作できます。

選択項目： Playlists（プレイリスト）
Artists（アーティスト）
Albums（アルバム）
Songs（曲名）
Genres（ジャンル）
Composers（作曲者）
Setup（セットアップメニュー）

- Playlists→Songs
- Artists→Albums→Songs
- Albums→Songs
- Songs
- Genres→Artists→Albums→Songs
- Composers→Albums→Songs
- Setup→Shuffle、Repeat

■ Shuffle

曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

選択項目： Off、Songs、Albums

Off：ランダム再生しません。

Songs：曲の順番をランダムに再生します。

Albums：アルバムの順番をランダムに再生します。

ヒント

「Songs」または「Albums」を選んでいるときは、OSD画面右上に「S」が反転表示されます。

■ Repeat

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

選択項目： Off、One、All

Off：リピート再生しません。

One：選んだ曲をリピート再生します。

All：すべての曲をリピート再生します。

ヒント

「One」または「All」を選んでいるときは、OSD画面右上に「R」が反転表示されます。

4 OSDモードを終了するときは、DISPLAYキーを押す。

■ iPod 接続時のメッセージについて

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットしたときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Loading...	iPodとの接続を確認中です。 iPodから曲リストを取得中です。
Connect error	iPodが正しく接続されていません。 iPodとの通信に問題が発生しています。
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。
iPod connected	iPodがヤマハ製ドックに正しく接続されました。
Disconnected	iPodがヤマハ製ドックから取り外されました。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。

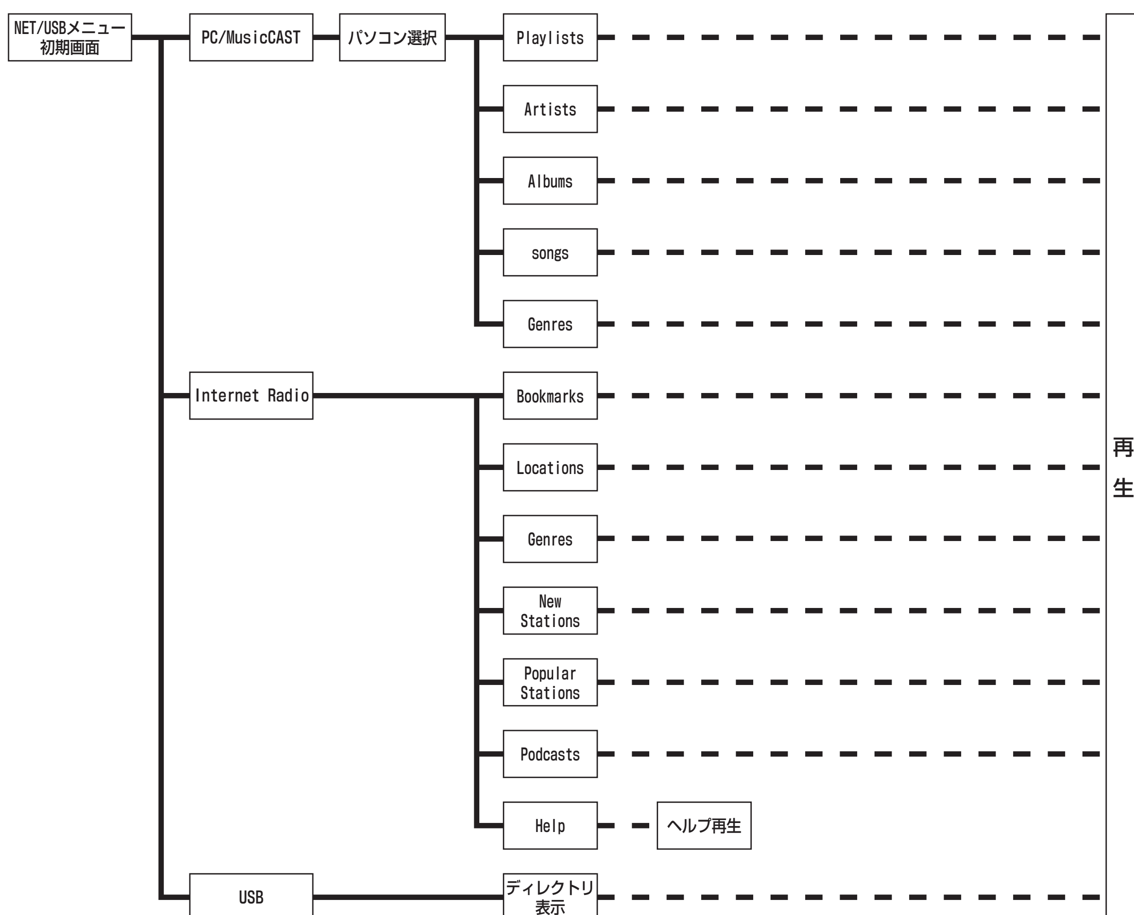
便利な機能

ネットワークオーディオ /USB デバイスを聴く

ホームネットワークに接続したパソコン、およびUSB デバイス（USB メモリーやポータブルオーディオプレーヤーなど）に保存されている音楽ファイルや、インターネットラジオ放送を再生します。ネットワークオーディオを楽しむ場合は、セットメニュー「NETWORK」を設定してください（☞83 ページ）。

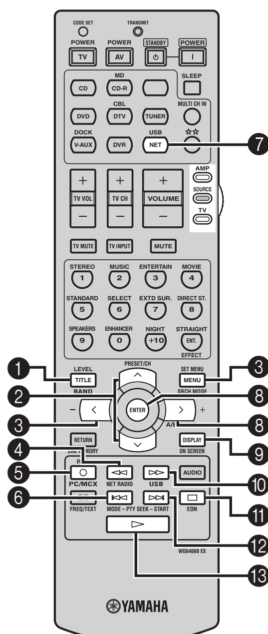
NET/USB メニュー一覧

下図は、ネットワークオーディオやUSB を再生するときのメニュー構造をあらわしています。メニューの操作方法については、「ネットワークオーディオ /USB デバイスを再生する」（☞110 ページ）をご覧ください。



ネットワークオーディオ /USB デバイスを操作する

リモコンでネットワークオーディオまたはUSBデバイスを操作したいときは、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットします。ネットワークオーディオ /USBデバイスの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。



❶インターネットラジオのブックマークを登録/解除します。
❷ 上 / 下のメニューにカーソルを移動します。
❸ 1 つ前の表示に戻ります。
❹ インターネットラジオを入力選択します。
❺ パソコンを入力選択します。
❻ 再生中の曲の先頭にスキップします（2 回押すと、前の曲の先頭にスキップします）。
❼ ネットワークオーディオまたはUSBデバイスを入力選択します。
❽ 選択したメニューを決定します。
❾ OSD 表示のオン／オフを切り替えます。
❿ USB を入力選択します。
⓫ 再生を停止します。
⓬ 次の曲の先頭にスキップします。
⓭ 再生します。

ヒント

スキップなどの操作は、NET/USB メニューの表示内容にかかわらず、再生しているソースに対して有効です。

ご注意

選択した入力ソースにより、上記機能の一部が使えない場合があります。

パソコンの音楽ファイルを再生するための準備をする

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生するための準備をします。再生のしかたについて詳しくは、「ネットワークオーディオ /USB デバイスを再生する」（☞110 ページ）をご覧ください。

1 パソコンにWindows Media Connect 2.0をインストールする。

Windows Media Connect 2.0は、マイクロソフト社のウェブサイトからダウンロードできます。

2 パソコンを再起動し、音楽ファイルを共有ディレクトリに保存する。

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生できるようになります。

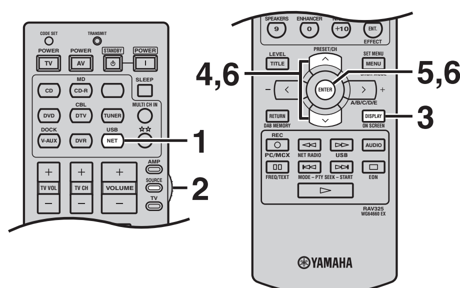
ヒント

上記の手順は、パソコンに保存されている音楽ファイルを、本機ではじめて再生するときのみ必要です。1度Windows Media Connect 2.0をインストールすれば、2回目以降は必要ありません。

便利な機能

ネットワークオーディオ /USB デバイスを再生する（NET/USB）

パソコンまたはUSB デバイスに保存された音楽ファイルやインターネットラジオを再生します。

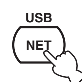


ヒント
- 以下のフォーマットで記録された音楽ファイルを再生できます。インターネットラジオを聴く場合は、MP3のみ再生できます。
  - MP3: 2チャンネル音声信号に対応。MP3 PRO には対応していません。
  - WAV: 2チャンネルリニア PCM に対応。PCM 以外のフォーマットは、ブラウズできますが再生できません。
  - WMA: WMA9までの2チャンネル音声信号に対応。マルチチャンネル音声信号はフロントL/R 信号のみ再生します。WMA PRO、Lossless には対応していません。また、DRM（著作権保護）がかけられているファイルは再生できません。
- NET/USB メニュー操作中に 1 つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのMENUキーまたはくキーを押します。
- メニュー名右端の「>」は、下の階層にサブメニューがあることをあらわしています。

ご注意

- 選択した音楽ファイルにより、上記のフォーマットで記録されていても、再生できない場合やノイズを出力する場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

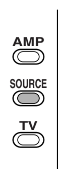
1 リモコンのUSB/NETキーを押す。



ヒント

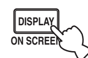
ネットワークオーディオまたはUSBデバイスを2回目以降に再生する場合は、前回聴いた入力ソースの再生が自動的に始まります。

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCE を選ぶ。

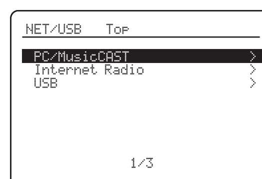


3 リモコンのON SCREENキーを押す。

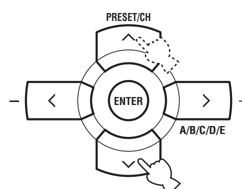
OSD にNET/USB メニューが表示されます。







4 ∧または∨キーを押して、聴きたいソースを選ぶ。



選択項目： PC/MusicCAST
Internet Radio
USB

PC/MusicCAST：パソコンを選択します。

Internet Radio：インターネットラジオを選択します。

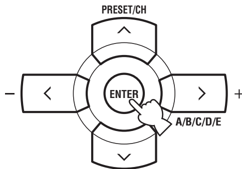
USB：USB デバイスを選択します。

ご注意

本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャストは、日本国内では販売されていません。

5 ENTERキーを押す。

PC/MusicCAST 選んだ場合は、パソコン選択画面が表示されます。∧または∨キーを繰り返し押して、聴きたい音楽ファイルが保存されているパソコンを選び、ENTERキーを押してください。



ヒント

- ＞キーでも操作できます。
- 手順４、５のかわりに、リモコンのPC/MCXキーまたはNET RADIOキー、USBキーを押して、聴きたいソースを選択することもできます。各ソースを２回目以降に再生する場合は、前回聴いたコンテンツの再生が自動的に始まります。

6 ∧または∨キーを繰り返し押して聴きたい項目を選び、ENTERキーを押す。

メニュー表示にしたがって、再生する項目が表示されるまで繰り返します。

曲名や放送局名が表示されているときにENTERキーを押すと、再生が始まります。再生が始まると、OSDに再生情報画面が表示されます。

パソコンまたはUSBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生しているときは、リモコンの⏮/⏭キーや▷、□キーで、スキップや再生、停止の各操作をすることができます。

ヒント

- OSDでは、20文字以内のディレクトリおよびファイル名を表示できます。
- 再生中は、経過時間がOSDに表示されます。
- 再生情報画面を表示中にメニュー画面に戻りたい場合は、MENUキーを押してください。
- セットメニュー「PLAY STYLE」（☞84ページ）で、再生スタイルを設定できます。
- セットメニュー「FL SCROLL」（☞87ページ）で、フロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます。

■ 表示メッセージについて

本機でネットワークオーディオまたはUSBデバイスを再生するときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Please wait	パソコンまたは USB デバイスにアクセスしています。
Connect error	選んだファイルまたは放送局にアクセスできません。
Disconnected	USB デバイスが取りはずされました。
	パソコンとの接続が遮断されました。
Access error	USB デバイスにアクセスできません。
	USB デバイスの電源に異常があります。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。
List updated	パソコンのリストが更新されました。
Bookmark ON	Bookmarks にお気に入りの放送局が登録されました。
Bookmark OFF	Bookmarks からお気に入りの放送局が削除されました。

パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ /USB デバイスを再生する」（☞110 ページ）の手順４で「PC/MusicCAST」を選んで、パソコンに保存されている音楽ファイルを再生します。

選択項目： Playlists（プレイリスト）
Artists（アーティスト）
Albums（アルバム）
Songs（曲名）
Genres（ジャンル）

- Playlists→Songs
- Artists→Songs
- Albums→Songs
- Songs
- Genres→Songs

ヒント
- 同一サブネットに接続されている、４台までのパソコンをブラウズできます。
- プレイリストのフォーマットや、プレイリストの作成方法などについて詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。

ご注意
- パソコンにインストールされているセキュリティソフト（ウィルス対策ソフトやファイアウォールソフトなど）により、本機がパソコンにアクセスできない場合があります。パソコンに保存された音楽ファイルを再生するときは、セキュリティソフトの設定をご確認ください。
- OS に Windows XP Professional を使っていて、ドメインにログオンしている場合は、パソコンに接続できません。ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。
- 選択した音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても、再生できない場合やノイズを出力する場合があります。

インターネットラジオを聴く

「ネットワークオーディオ /USB デバイスを再生する」（☞110 ページ）の手順４で「Internet Radio」を選んで、インターネットラジオ放送を聴きます。本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集・作成されたリストです。

選択項目： Bookmarks
Locations
Genres
New Stations
Popular Stations
Podcasts
Help

Bookmarks：インターネットラジオ放送局を、登録した放送局から選びます。登録のしかたについて詳しくは、「Bookmarks に放送局を登録する」（☞113 ページ）をご覧ください。
Locations：配信されている場所からインターネットラジオ放送局またはポッドキャストを選びます。
Genres：聴きたいジャンルからインターネットラジオ放送局またはポッドキャストを選びます。
New Stations：新しく始まった放送局のなかからインターネットラジオ放送局を選びます。
Popular Stations：人気がある放送局のなかからインターネットラジオ放送局を選びます。
Podcasts：配信されている場所または聴きたいジャンルからポッドキャストを選びます。
Help：操作方法などのヘルプメニューが再生されます。

ヒント
- インターネットラジオは、放送局により異なったポート番号を利用しています。インターネットラジオを再生するときは、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- ポッドキャストはインターネットラジオサービスの１つで、インターネット上に数多く存在しています。１回分の放送が終わると、再生が停止します。
- Bookmarks の登録を解除したい場合は、解除したい放送局を選択し、TITLE キーを長押しします。

ご注意
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止される場合があります。
- Internet Radio メニューで選択できる放送局であっても、再生できない場合があります。

- インターネットラジオを再生中は、スキップや一時停止できません。
- インターネットがナローバンド（５６Ｋモデム、ISDNなど）で接続されていると、インターネットラジオを十分にお楽しみいただけません。ブロードバンド（ケーブルモデム、xDSLなど）で接続してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

■ Bookmarks に放送局を登録する

お気に入りのインターネットラジオ放送局をBookmarksに登録します。

登録したい放送局を再生中に、リモコンのTITLEキーを長押しする。

放送局がBookmarksに登録されます。



ヒント

Bookmarksの登録を解除するには、以下の手順を操作してください。

1.「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」（☞110 ページ）の手順４で「Internet Radio」を選ぶ。
2. 手順５で決定する。
3. 手順６で「Bookmarks」を選ぶ。
4.Bookmarks画面の第一階層に表示されている項目のなかから、削除するものを選ぶ。
5.TITLEキーを長押しする。

USBデバイスに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」（☞110 ページ）の手順４で「USB」を選んで、USBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生します。
USB メニューで表示されたディレクトリイメージから、再生するファイルを選びます。

ヒント

- 本機でUSBデバイスに保存されたファイルを再生する際は、以下のことをご確認ください。
  －USBデバイスがUSBマスストレージクラスに対応している
  －データがFAT16またはFAT32ファイルシステムで記録されている
  －データ容量32GB以下
- USBデバイスが複数のパーティションに分割されている場合は、先頭にあるパーティションのみブラウズできます。
- 最大８階層までのディレクトリにあるファイルをブラウズ、再生できます。
- １つのディレクトリにつき、最大500までのディレクトリ/ファイルをブラウズ、再生できます。
- エラーメッセージが表示された場合、⏮または⏭キーを押すと、再生できるファイルをサーチします。
- ファイルの再生が終了すると、次に再生できるファイルを自動的にサーチします。サーチを停止したい場合は、□キーを押してください。
- サーチしているときに、再生できるファイルが見つからない場合、ディレクトリの最初または最後まで到達したら自動的にサーチを停止します。

ご注意

- USBデバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 選択した音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても、再生できない場合やノイズを出力する場合があります。
- USBデバイスを接続した際に、約10秒間音が出ない場合があります。
- プレイリストには対応していません。

マルチゾーン機能

本機を使って、本機を設置した部屋（メインルーム）とほかの部屋（ゾーン２）で、異なるソースを楽しむことができます。たとえば、メインルームでDVDを見ているときに、ゾーン2ではCDを聴くことができます。

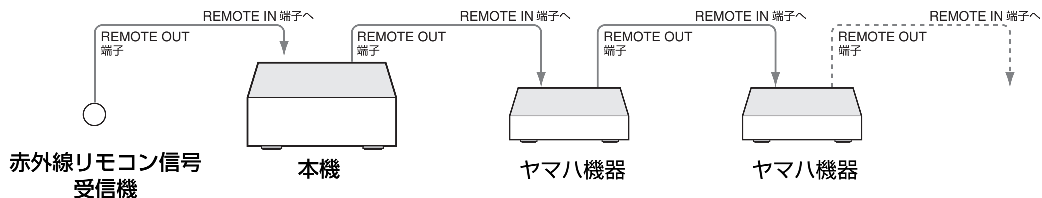
ゾーン２との接続

マルチゾーン機能を使うには、以下の機器が必要です。

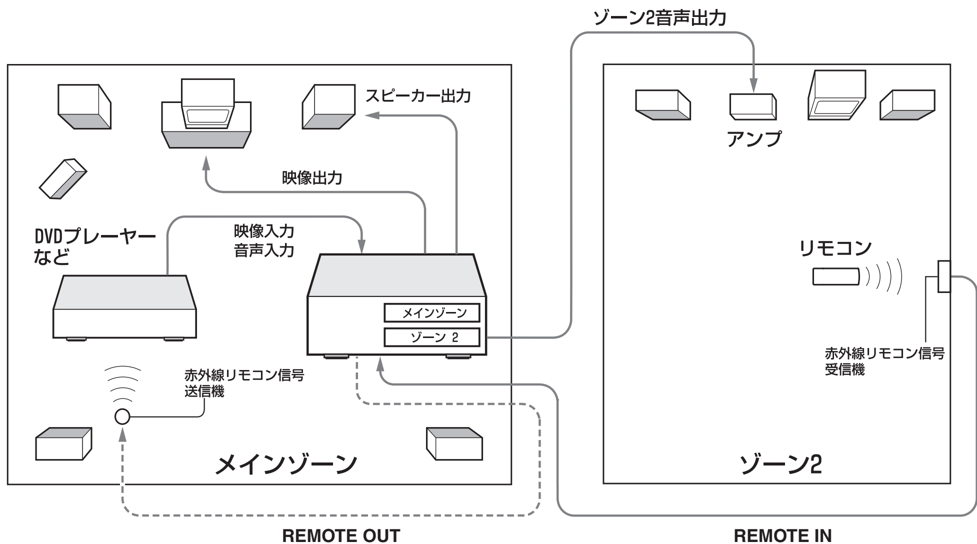
- 赤外線リモコン信号受信機（ゾーン２に設置します。）
- 赤外線リモコン信号送信機（メインゾーンに設置します。）
- アンプとスピーカー（ゾーン２に設置します。）

ヒント

- 本機をマルチゾーンでお使いになるときには、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談されることをおすすめします。
- 本機のREMOTE OUT端子に直接接続することができるヤマハ製品をお持ちの場合は、赤外線リモコン信号送信機は必要ありません。また、６台までのヤマハ製品を下図のように接続できます。

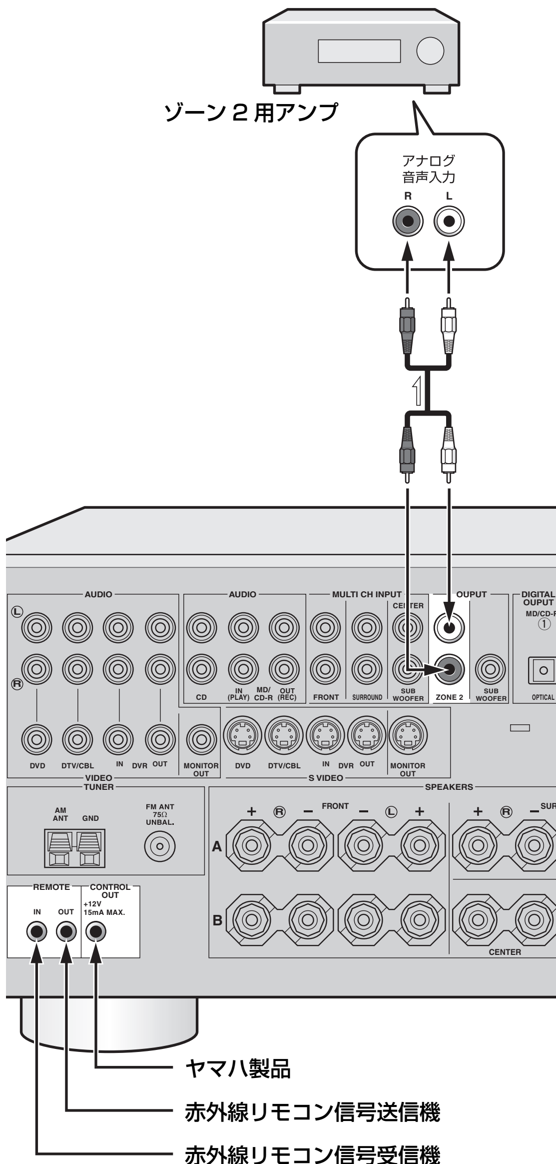


■ ゾーン２の設置・接続例



■ ゾーン２機器を接続する

本機の ZONE 2 AUDIO OUTPUT 端子を、外部アンプのアナログ音声入力端子に接続します。



ご注意

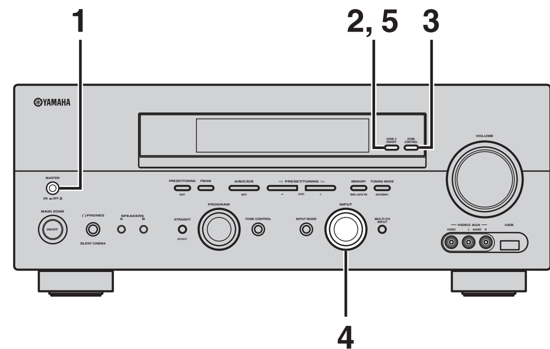
- メインルームで本機を使用していないときは、メインゾーンの電源をオフにしてください。ゾーン２の音量および音質は、ゾーン２に設置したアンプで調節してください。
- 本機の ZONE 2 AUDIO OUTPUT 端子からは、本機のアナログ音声入力端子へ接続した機器の音声のみ出力されます。
- ゾーン２で DTS-CD を再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。

ゾーン２を操作する

フロントパネルスイッチとリモコンキーで、下記の操作をすることができます。リモコンキーで操作するには、リモコンをゾーン２操作用に設定する必要があります。詳しくは「リモコンを設定する」(☞116 ページ)をご覧ください。

- 入力ソースの選択
- チューナーモード時の選局

■ フロントパネルでの操作



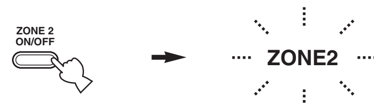
1 **MASTER ON／OFF スイッチが ON になっていることを確認する。**

OFF になっている場合は、スイッチを押して ON にしてください。



2 **ZONE 2 ON/OFF スイッチを押す。**

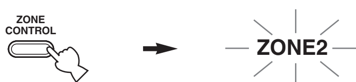
ゾーン２の電源がオンになります。フロントパネルディスプレイに ZONE2 インジケーターが点灯します。



便利な機能

3 ZONE CONTROLキーを押す。

フロントパネルディスプレイにZONE2インジケーターが点滅します。点滅している間は、ゾーン２を操作できます。このとき、フロントパネルディスプレイにはゾーン２の情報が表示されます。



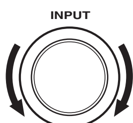
ヒント

ZONE2インジケーターが点滅していないときは、メインゾーンを操作できます。このとき、フロントパネルディスプレイにはメインゾーンの情報が表示されます。

ご注意

手順３～４の操作は、ZONE CONTROLキーを押してから５秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。この場合は、もういちどZONE CONTROLキーを押して、操作しなおしてください。

4 INPUTセレクターを回して､入力ソースを選ぶ。



5 ZONE 2 ON/OFFスイッチを押す。

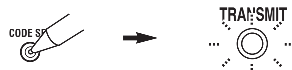
ゾーン２の電源がスタンバイになります。

■ リモコンを設定する

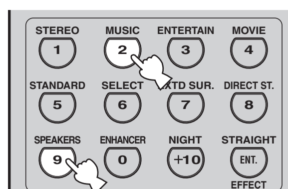
リモコンをゾーン２用に設定すると、ゾーン２からリモコンを使って入力ソースを選択したり、メインルームに設置した機器を操作することができます。

1 CODE SETボタンを押す。

ボールペンなどの先の細いもので押します。
リモコンのTRANSMITインジケーターが２回点滅します。



2 数字キーを押して「9992」を入力する。



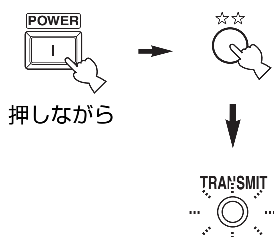
■ リモコンでの操作

リモコンは通常の状態ではメインゾーン操作モードになっていて、TRANSMIT インジケーターは消灯しています。ゾーン２を操作するには、リモコンをゾーン２操作モードに切り替えて使います。ゾーン２操作モードに切り替わると、TRANSMIT インジケーターが点灯します。

メインゾーンの電源がオンのとき

1-a POWER キーを押しながら ☆☆ キーを押す。

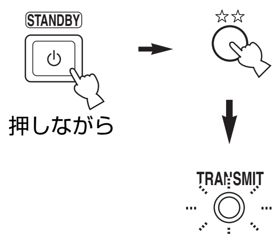
リモコンがゾーン２操作モードに切り替わり、TRANSMIT インジケーターが点灯します。



メインゾーンの電源がオフのとき

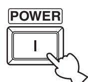
1-b STANDBY キーを押しながら ☆☆ キーを押す。

リモコンがゾーン２操作モード切り替わり、TRANSMIT インジケーターが点灯します。

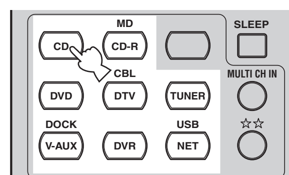


2 POWER キーを押す。

ゾーン２の電源がオンになります。



3 入力選択キーを押して、ゾーン２で聴きたい入力ソースを選ぶ。



ヒント

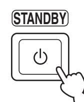
リモコンでは、ゾーン２の電源オン／オフの切り替え、入力ソースの選択、音声ミュートを操作できます。その他の機能を操作すると、メインゾーンが動作します。

ご注意

ゾーン２操作用以外のキーを押すか、リモコンを操作してから約 10 秒経過すると TRANSMIT インジケーターが消灯し、メインゾーンの操作モードに戻ります。

4 STANDBY キーを押す。

ゾーン２の電源がスタンバイになります。



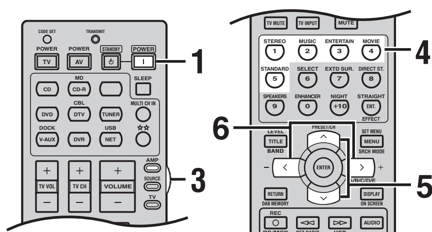
音場プログラムパラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムをアレンジできます。

ご注意

セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に「OFF」に設定してください(☞87 ページ)。

リモコンで操作します。



1 本機とテレビの電源を入れる。

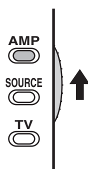
2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

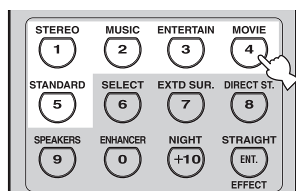
ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

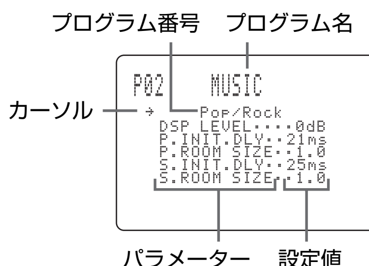
3 操作機器選択スイッチをスライドさせて、アンプモードを選ぶ。



4 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。



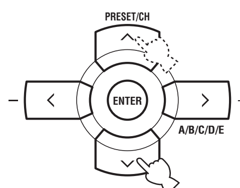
右上の OSD 表示へ



ご注意

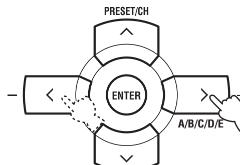
ダイレクトステレオモードはパラメーターを変更できません。(☞60 ページ)

5 ∧または∨キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。



6 ＜または＞キーを押して、設定値を変更する。

＜キーを押すと設定値が小さくなり、＞キーを押すと設定値が大きくなります。



ヒント

パラメーターを初期設定に戻したいときは、初期設定値でいったん表示が止まるまで＜または＞キーを押し続けます。

7 ほかの音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順４～６を繰り返す。

パラメーターを初期設定に戻す

セットメニュー「PARAM. INI」で、音場プログラムごとにすべてのパラメーターを初期設定に戻すことができます(☞87 ページ)。

音場プログラムパラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

■ DSP LEVEL（エフェクト量の調節）

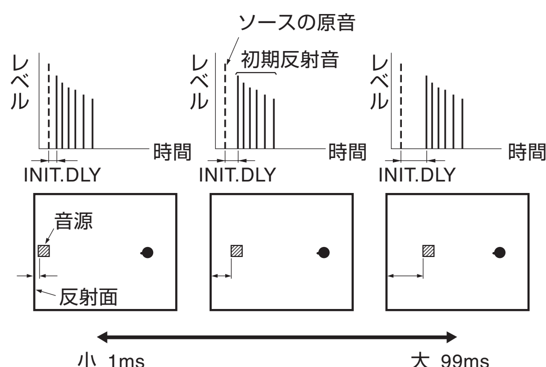
エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境にあわせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

可変範囲： －６～＋3dB

■ INIT. DLY（遅延時間の調節）

直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。DELAYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。通常はリスニングルームの大きさに比例させて設定します。

可変範囲： １～99ms



■ DIRECT（２チャンネルソースのデコード設定）

「AUTO」に設定すると、本機のデコーダーをバイパスして２チャンネルアナログソースが出力されます。
ナイトリスニングモードが「OFF」の状態で、音色の調節（TONE CONTROL）で「BASS」および「TREBLE」が「0dB」に設定されている場合のみ、有効になります。

選択項目： AUTO ／ OFF

初期設定： AUTO

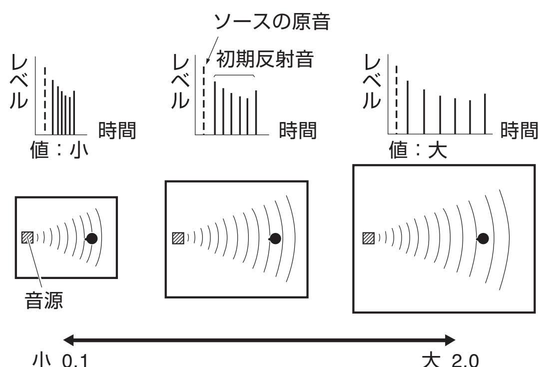
ご注意

- ドルビーデジタル、DTS、またはAACのマルチチャンネル信号が入力されると２チャンネル（フロントL／Rスピーカー）に振り分けられます。
- 以下の場合はフロントL／Rスピーカーの低音はサブウーファーから出ます。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されているとき。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT SP」が「SMALL」に設定されていて、「LFE/BASS OUT」が「SWFR」に設定されているとき。

■ ROOM SIZE（空間の大きさ調節）

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると、１辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

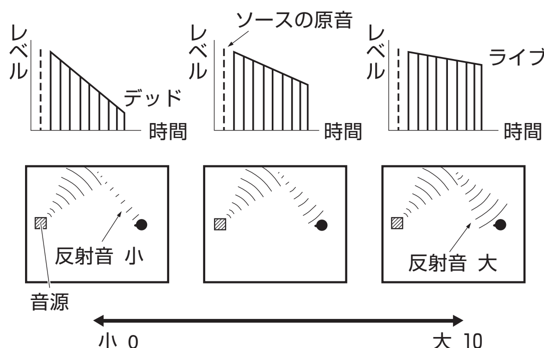


オリジナルのリスニング環境をつくる

■ LIVENESS（反響量の調節）

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲： 0 ～ 10



■ P.INIT.DLY
（プレゼンス音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、プレゼンス音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 99ms

■ P.ROOM SIZE
（プレゼンス音場の空間の大きさ調節）

プレゼンス音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に広がり感が出てきます。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S.INIT.DLY
（サラウンド音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ S.ROOM SIZE
（サラウンド音場の空間の大きさ調節）

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ S. LIVENESS
（サラウンド音場の反響量の調節）

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲： 0 ～ 10

■ SB INI.DLY
（サラウンドバック音場の遅延時間の調節）

直接音が出てから、サラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 1 ～ 49ms

■ SB RM SIZE
（サラウンドバック音場の空間の大きさ調節）

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が広がります。
6.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 0.1 ～ 2.0

■ SB LIVENES
（サラウンドバック音場の反響量の調節）

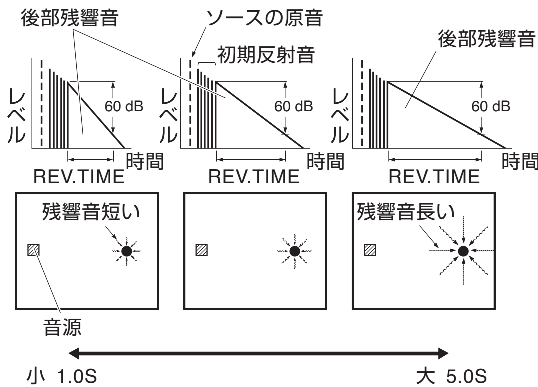
サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きが強くなります。
6.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲： 0 ～ 10

■ REV. TIME（残響時間の調節）

後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節することができます。

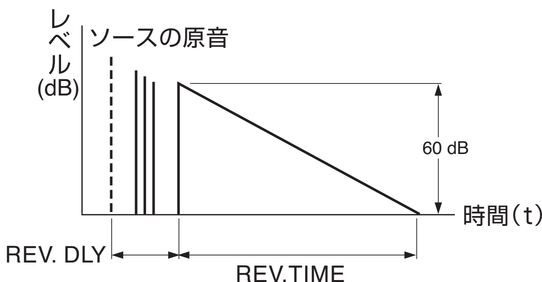
可変範囲：1.0～5.0s



■ REV. DLY（残響音の遅延時間の調節）

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DLYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

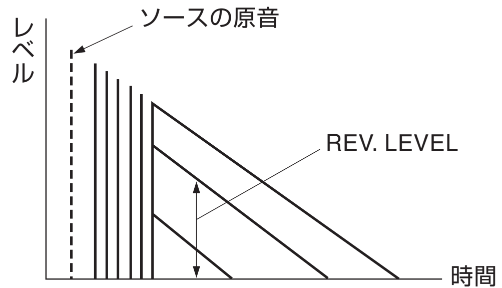
可変範囲： 0～250ms



■ REV. LEVEL（残響音の強さ調節）

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。

可変範囲： 0～100%



■ CT LEVEL（センターチャンネルの音量調節）

6ch Stereoプログラムでの、センターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SL LEVEL
（サラウンドLチャンネルの音量調節）

6ch Stereoプログラムでの、サラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SR LEVEL
（サラウンドRチャンネルの音量調節）

6ch Stereoプログラムでの、サラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

■ SB LEVEL
（サラウンドバックチャンネルの音量調節）

6ch Stereoプログラムでの、サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲： 0～100%

以下のパラメーター（PANORAMA、DIMENSION、CT WIDTH、C. IMAGE）は、SUR. STANDARDが音場プログラムに選ばれているときのみ設定することができます。

■ PANORAMA（フロント音場の広がり感の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロントL／Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目： ON ／ OFF

初期設定： OFF

■ DIMENSION（フロント音場とサラウンド音場のレベル差の調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

可変範囲： －３～STD（標準）～＋３

初期設定： STD

■ CENTER WIDTH（センター音声の広がりの調節）

PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL／Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲： ０～７

初期設定： ３

■ C. IMAGE（フロント音場の広がり感の調節）

DTS Neo:6 Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲： 0.0 ～ 1.0

初期設定： 0.3

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはMAIN ZONE ON/OFFスイッチ（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	35
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	17
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう1度差し込んでください。	–
	MASTER ON／OFFスイッチがOFFになっている。	ONにしてください。	35
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約1時間程度）、電源を入れなおしてください。	–
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください。	37
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」が「OFF」に設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、「AUTO」に設定してください。	86
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「OFF」に設定されている。	「ON」に設定してください。	86
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 ～ 33
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キー、本体のMULTI CH INPUTキー（またはリモコンのMULTI CH INキー）で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	43
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	17
	音を出すフロントスピーカーが、正しく選ばれていない。	リモコンのSPEAKERSキーまたは本体のSPEAKERS A／Bスイッチで、フロントスピーカーを正しく選んでください。	43
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	48
	消音されている。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	48
	（ドルビーデジタルまたはAACの音声が出ない場合）入力モードが「DTS」または「ANALOG」に設定されている。	「AUTO」に設定してください。	101
	DTS信号でコード化されたソースを再生しているのに、入力モードが「ANALOG」に設定されている。	入力モードを「AUTO」か「DTS」に設定してください。	101

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	（デジタルとアナログを同時に接続しているときにアナログ音声が出ない場合）入力モードが「AUTO」または「DTS」に設定されている。	「ANALOG」に設定してください。	101
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–
画像が出ない	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	ビデオコンバージョン機能をオンにしてください。	86
画像が乱れる	ビデオデッキの種類によっては、映像信号を変換すると画像が乱れる場合があります。		–
	特殊な信号を出す機器と接続し、セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定し、同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。	86
音声が突然出なくなる	ショートが起きたなどで、保護回路が機能した。	スピーカーケーブルの接続を確認して、電源を入れ直してください。	17
	スリープタイマーが機能した。	電源を入れて、ソースを再生し直してください。	–
	消音された。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントローラーを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	48
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	17 ～ 33
	セットメニューのスピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	セットメニュー「SPEAKER LEVEL」で音量のバランスを設定し直してください。	75
音がセンタースピーカーのみから出る	シネマDSPプログラムでモノラル音声を再生すると、音の信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音はでません。		–
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL／R、サラウンドバック）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	63
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	55 ～ 59
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	102
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	72
	HiFi DSP音場プログラム（6ch Stereo以外）を選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	55 ～ 59
サラウンドL／Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL／Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL／Rスピーカーの音量を調節してください。	102
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンドL／Rスピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	72
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	STRAIGHT／EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	63

症状	原因	対策	参照ページ
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	102
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すると、自動的に「SUR. B SP」も「NONE」に設定されます。「SUR. L/R SP」を「LRG」または「SML」に設定してください。	72
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. B SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	73
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	73
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRNT」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	73
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたは DTS ソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたは DTS インジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたは DTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	入力モードを「AUTO」または「DTS」に設定してください。	101
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSSOVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	74
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	72
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 〜 33
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンド L ／ R）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	–
サラウンドと音場効果をかけた音を録音できない	サラウンドと音場効果をかけた音は録音できません。		–
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	21 〜 33
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–

症状	原因	対策	参照ページ
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	21 ～ 33
音場プログラムパラメーターやセットメニューの設定値を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	87
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	–
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう1度差し込んでください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。	17
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	35
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–
画像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
本機の電源が突然スタンバイになる	本機内部が高温になったため、加熱防止回路が機能した。	本機の電源がスタンバイのまま約1時間置いて、温度が低くなってから電源を入れ直してお使いください。	35

FM ／ AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	34
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	46
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	34
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	46
	プリセット選局ができない	プリセット（メモリー）が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度プリセットしてください。	64 ～ 65

AM	**オート選局ができない**	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	34
			マニュアル選局をしてください。	46
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、30°以内の範囲で操作してください。	15
	操作機器選択スイッチで「SOURCE」または「TV」を選んでいる。	「AMP」を選んでください。	93
	リモコンのライブラリーコードと本機のリモコンIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変えてください。	89、99
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	15
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	48
	操作機器選択スイッチで「AMP」を選んでいる。	「SOURCE」または「TV」を選んでください。	93
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	93
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属のリモコンをお使いください。	–

ネットワークオーディオ / USB デバイスの再生

症状	原因	対策	参照ページ
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない	IP アドレスが正しく設定されていない。	ルーターの DHCP 機能をオンにするか、ネットワーク環境にあわせて、セットメニュー「NETWORK」を手動設定してください。	83
	ネットワークケーブルが接続されていない。	ネットワーク接続を確認してください。	32
パソコンの音楽ファイルが再生できない	パソコンに Windows Media Connect 2.0 がインストールされていない。	パソコンに Windows Media Connect 2.0 をインストールしてください。	–
	音楽ファイルが、MP3、WAV（PCM のみ）、WMA 以外のフォーマットで記録されている。	MP3、WAV（PCM のみ）、WMA で記録された音楽ファイルを再生してください。	–
		MP3、WAV（PCM のみ）、WMA で記録された音楽ファイルであっても、本機で再生できないものがあります。	–
	音楽ファイルに著作権保護がかけられている。	著作権保護がかけられている音楽ファイルは再生できません。	–
Windows Media Connect 2.0 に接続できない	OS に Windows XP を使用しているパソコンで、ドメインにログオンしている。	ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。	–
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールがはたらいている。	ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。	–
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	–
USB デバイスの音楽ファイルやディレクトリがブラウズできない	音楽ファイルやディレクトリが FAT 領域以外に保存されている。	音楽ファイルやディレクトリを FAT 領域に保存してください。	–
	ディレクトリが８階層をこえる場所に保存されている。	ディレクトリを８階層以内の場所に保存してください。	–
	ディレクトリに５００をこえるディレクトリ / ファイルが保存されている。	１つのディレクトリにつき、５００以内のディレクトリ / ファイルを保存してください。	–
USB デバイスを認識できない	USB デバイスが USB マスストレージクラスに対応していない。	USB マスストレージクラスに対応した USB デバイスをお使いください。	113
		USB マスストレージクラスに対応した USB デバイスであっても、本機で再生できないものがあります。	113
		USB デバイスを接続してから、本機の電源をオンしてください。	35
USB デバイスを接続しているが、「Disconnected」と表示される	本機が USB デバイスを不正と認識している。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	35

音声フォーマット編

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL／Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ４チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロントL／R、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンドL／R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。２チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの最新技術です。２チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な6.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ)、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の１つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で７チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ DTS（デジタル・シアター・システムズ）デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の６チャンネル（フロントL／R、センター、サラウンドL／Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL／Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の２つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Neo:6

２チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた６チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

■ MP3

MPEGで利用される音声圧縮方式の一つ。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用している。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1/10に圧縮できると言われている。

■ WAV

Windows標準の音声ファイルの形式。デジタル音声信号の保存形式などを規定している。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されるが、任意の圧縮方式も利用できる。

■ WMA(Windows Media Audio)

Microsoft社が開発した音声圧縮方式。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用している。音楽CD並みの音質を保ったまま約1/20まで圧縮できると言われている。

音場プログラム編

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンドL／Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL／Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL／Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

音声編

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ ITU-R

電気通信分野における国際連合の専門機関である国際電気通信連合（ITU=International Telecommunication Union）の無線通信部門（ITU-Radiocommunication Sector）で、無線通信に関する国際規格を広く策定している国際機関です。リスニングルームにおけるスピーカーの配置についてもITU-Rによって勧告されています。

■ LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの､低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像編

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひ1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ入力端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

GPL/LGPL適用ソフトウェアについて

本製品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL または LGPL に従い、複製、頒布および改変することができます。
当該ソースコードは以下サイトからダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/index.html

ソースコードをCD-ROMなど物理媒体での提供をご希望される場合には、実費にて承ります。以下の住所までご連絡ください。

〒430-8650 浜松市中沢町 10-1 ヤマハ株式会社 AV機器事業部

ソースコードのご提供は原則として本製品のご購入の日から３年間とします。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute

them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE

LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers

Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

      (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

      These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

      Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

      In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library

(because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
   b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
   c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
   d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
   e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

   For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

    If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

    It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

    This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

    Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、0.09% THD）
　フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック（20Hz ～ 20kHz）..........................95W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック......................................135W
ダイナミックパワー（IHF）
　6 ／ 4 ／ 2Ω ....135 ／ 165 ／ 210W
ダンピングファクター（8Ω、20Hz ～ 20kHz）
　フロント L ／ R.................................... 120 以上
入力感度／入力インピーダンス
　CD 他..................................... 200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT .... 200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz、0.5% THD）
　CD 他（EFFECT ON)........................2.2V 以上
定格出力電圧／出力インピーダンス
　OUT(REC) .... 200mV ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER...............................4V ／ 1.2kΩ
　ZONE2 OUT....................... 200mV ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
....150mV ／ 100Ω
周波数特性
　CD 他－フロント L ／ R
　.................................10Hz ～ 100kHz、－ 3dB
　V-AUX －フロント L ／ R
　....................................10Hz ～ 20kHz、－ 3dB
全高調波歪率
　CD 他－フロント SP OUT（50W、8Ω）
　..0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク）
　CD 他（250mV 入力）－フロント SP OUT
　..100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント SP OUT .... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（5.1kΩ ターミネート、1kHz ／ 10kHz）
　CD 他...........................60dB 以上／ 45dB 以上
トーンコントロール
　BASS.....................................± 10dB ／ 60Hz
　TREBLE ....± 10dB ／ 20kHz
可変範囲 / ステップ
......MUTE/ － 80dB ～ +16dB ／ 1dB ステップ

ビデオ部

ビデオ信号方式
　グレーバック...NTSC
　ビデオコンバージョン.......................NTSC/PAL
コンポジットビデオ信号レベル ..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
　Y.. 1Vp-p ／ 75Ω
　C... 0.286Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
　Y.. 1Vp-p ／ 75Ω
　PB、PR .... 0.7Vp-p ／ 75Ω
D4 ビデオ信号レベル
　Y.. 1Vp-p ／ 75Ω
　PB、PR .... 0.7Vp-p ／ 75Ω
最大許容入力（VIDEO CONV. OFF）
.... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比（VIDEO CONV. OFF) ....50dB 以上
周波数特性
（MONITOR OUT、VIDEO CONV. OFF）
　コンポーネントビデオ、D4 ビデオ
　.................................... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数........................ 76.0MHz ～ 90.0MHz
実用感度（IHF)........................1.0μV（11.2dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ .... 76dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ .... 0.2%／ 0.3%
ステレオセパレーション（1kHz)................ 42dB
周波数特性.... 20Hz ～ 15kHz、＋ 0.5 ／－ 2dB

AM チューナー部

受信周波数...........................531kHz ～ 1611kHz
実用感度... 300μV ／ m

総合

電源電圧...........................AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力...250W
待機時消費電力 .... 0.1W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
.... 合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 171 × 393mm
質量.. 11.7kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

数字

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia WG73870-2



DSP-N600

簡易接続ガイド

ネットワーク接続については、この簡易接続ガイドでは説明していません。取扱説明書 32 ページをご覧ください。

本機および接続するすべての機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。

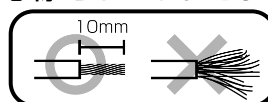
手順 1 スピーカーの設置場所を決める

右図を参考に各スピーカーを配置してください。

※ 詳しくは取扱説明書の16ページをご覧ください。

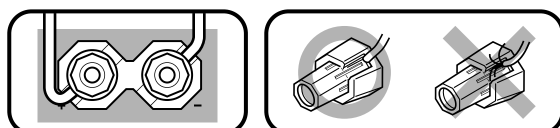
手順 2 スピーカーケーブルを接続する

1. スピーカーケーブル先端部の絶縁部を10mmくらいはがす。
2. 芯線をしっかりとよじる。



芯線をしっかりとよじらないとショート(短絡)の原因になります。

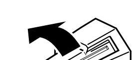
3. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
4. スピーカー端子のわきの隙間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。



スピーカーケーブルは端子の隙間に、しっかりと差し込みます。プラス(+)とマイナス(−)がショート(短絡)していたり、絶縁部分(ビニール)まで差し込むと、故障や音が出ないなどの原因になります。

5. スピーカー端子を右に回して、締め付ける。
6. サブウーファーはサブウーファー用ピンケーブルで本機と接続する。

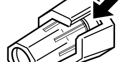
3.ゆるめる



4.差し込む



5.締め付ける



手順 3 音声ケーブルを接続する

DVDプレーヤーの光デジタル出力端子を光ファイバーケーブルで本機の光デジタル入力(DVD)端子に接続する。

※ 端子の向きに注意して接続してください。

※ 同軸デジタル接続やアナログ接続することもできます。

手順 4 映像ケーブルを接続する

映像端子は、図にあるすべての端子を接続する必要はありません。お使いになるDVDプレーヤーとテレビの端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。

※ 最良の画質でお楽しみいただくためにも、なるべく高品位な端子を使って接続してください。端子による画質の違いについては、右図内の「映像端子による画質の違い」をご覧ください。

※ テレビに複数の端子を使って接続した場合には、テレビ側で入力の選択を行ってください。

※ ビデオコンバージョン機能により、DVDプレーヤーとテレビの端子が違う場合でも、映像をお楽しみいただけます。詳しくは裏面の「ビデオ信号の変換について」をご覧ください。

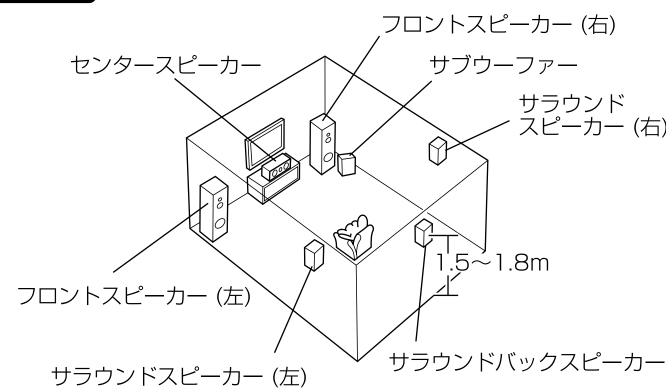
手順 5 DVD を再生する

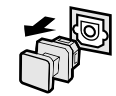
※ 取扱説明書の42〜44ページをご覧ください。DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVD プレーヤーを接続する

DVDプレーヤーを接続して、デジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたを説明します。

手順 1





光デジタル端子を使用するときは、防塵キャップをはずします。
はずしたキャップは大切に保管してください。

DVDプレーヤー

アナログ音声出力 R L / 光デジタル出力 / 同軸デジタル出力 / ビデオ出力 / Sビデオ出力 / D1/D2/D3/D4出力 / コンポーネントビデオ出力 Y PB PR

テレビ

コンポーネントビデオ入力 Y PB PR / ビデオ入力 / Sビデオ入力 / D1/D2/D3/D4入力

手順 3　手順 4　手順 4

④ ③ ②　④ ③ ②

映像端子による画質の違い

接続する端子によって画像の質が異なります。
できるだけ画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。

＜画質＞	＜端子の種類＞
① 最良	コンポーネントビデオ端子
② 最良	D 端子
③ 良い	S ビデオ端子
④ 通常	ビデオ端子

AC100V コンセントへ

手順 2

フロントスピーカー (右) (左)　センタースピーカー　サラウンドバック スピーカー　サラウンドスピーカー (右) (左)　サブウーファー

スピーカーケーブルを接続する際は、プラス(+)とマイナス(−)、(L)と(R)を間違えないように注意してください。

DVDプレーヤー　テレビ

コンポーネントビデオ出力 Y PB PR　コンポーネントビデオ入力 Y PB PR

①　①

本機背面

A DVD　B DTV/CBL　C DVR　COMPONENT VIDEO　MONITOR OUT

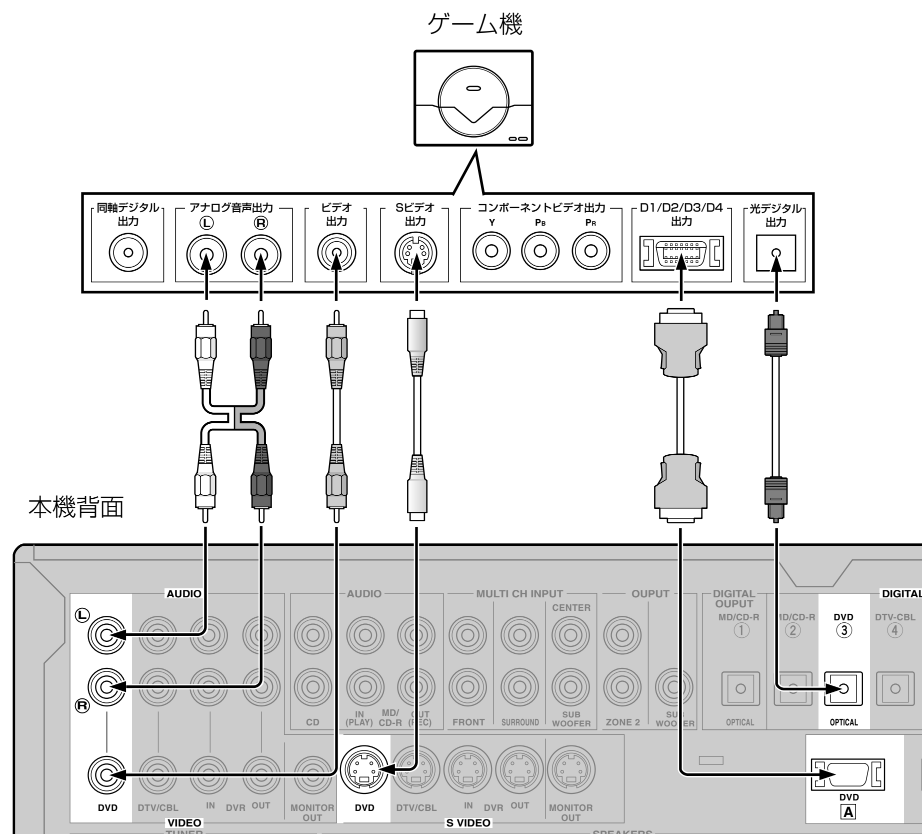
お手持ちのDVDプレーヤーまたはテレビにコンポーネントビデオ端子がある場合は、本機のコンポーネントビデオ端子に接続することもできます。

Printed in Malaysia WG73880

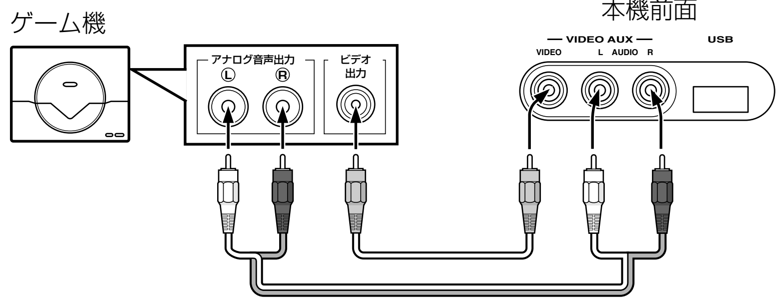
さまざまな機器を接続する

ゲーム機の接続

本機の DVD 端子に接続します。



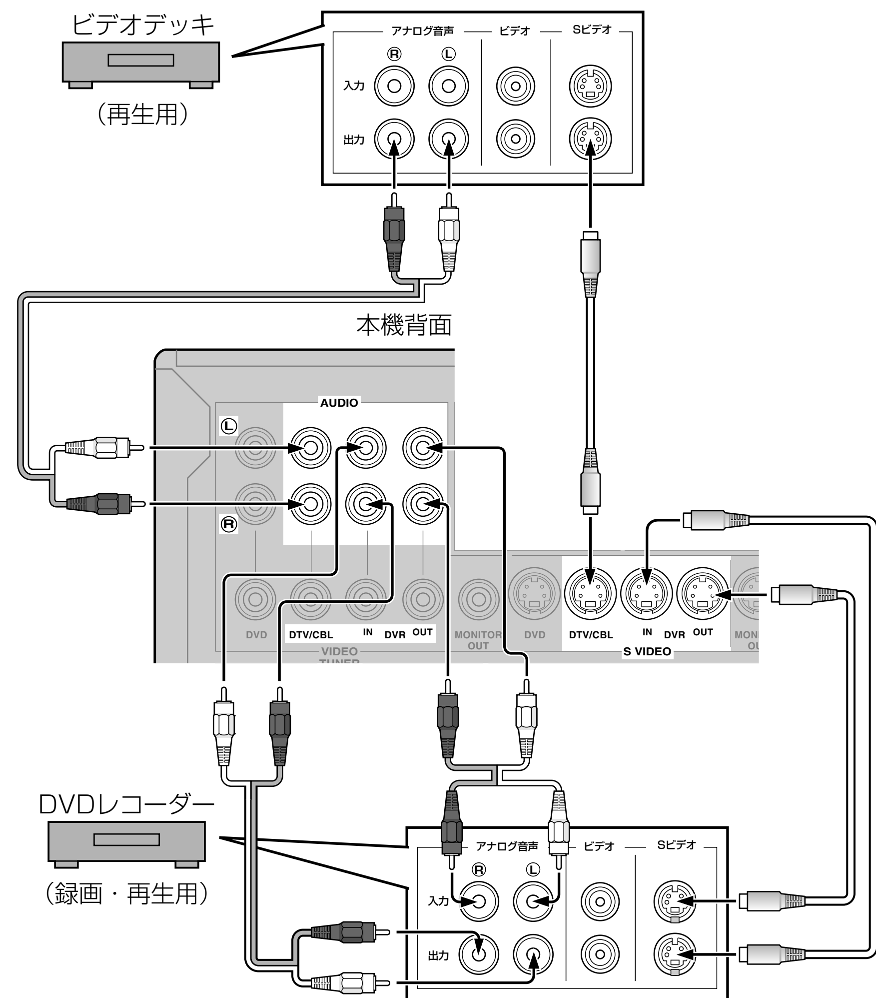
本機前面からの接続



※ ゲーム機にSビデオやD端子、コンポーネントビデオ端子がある場合には、SビデオやD端子ケーブル、コンポーネントビデオケーブルで接続すると、ビデオ端子よりも高画質な映像を再生できます。

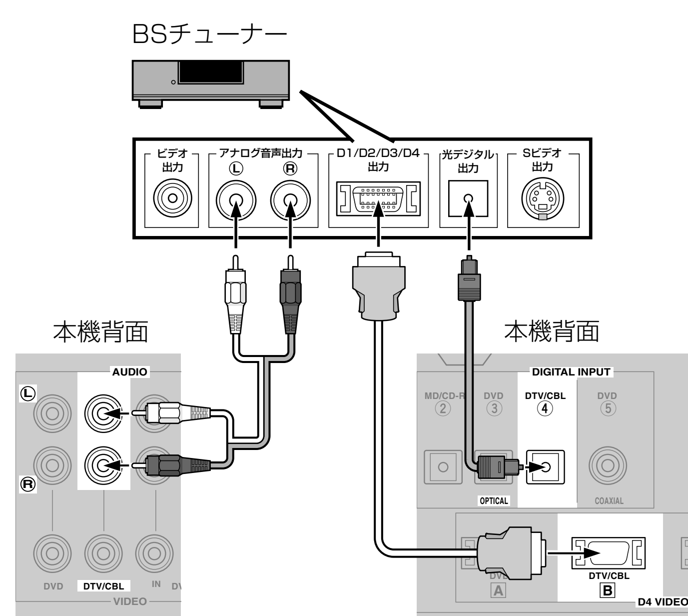
録画機器／再生機器の接続

録画・再生用の DVD レコーダーは DVR 端子に接続します。
再生用ビデオデッキは DTV/CBL、DVD のいずれかの端子に接続します。
ここでは DTV/CBL 端子への接続例を示します。



※ DVDレコーダー(録画・再生用)の音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DVR」を選択します。ビデオデッキ(再生用)の音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。
※ 録画する場合は、同じ種類のビデオ接続(例：SビデオとSビデオなど)を行ってください。
※ テレビ、DVDレコーダー、ビデオデッキにSビデオ端子がない場合は、ビデオ端子で接続してください。
※ DVDレコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、DVDレコーダーを同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで接続します。詳しくは取扱説明書の25ページをご覧ください。

BSチューナー、ケーブルテレビの接続



※ BSチューナー、ケーブルテレビの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。
※ BSチューナー、ケーブルテレビにD端子がない場合は、Sビデオ端子またはビデオ端子で接続してください。

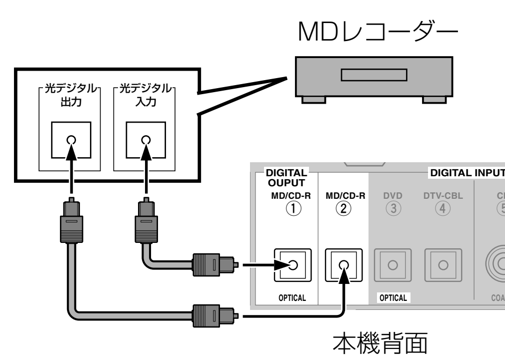
テレビの音声の接続

テレビ
本機背面
アナログ音声出力
AUDIO
DTV/CBL

※ テレビの音声を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。

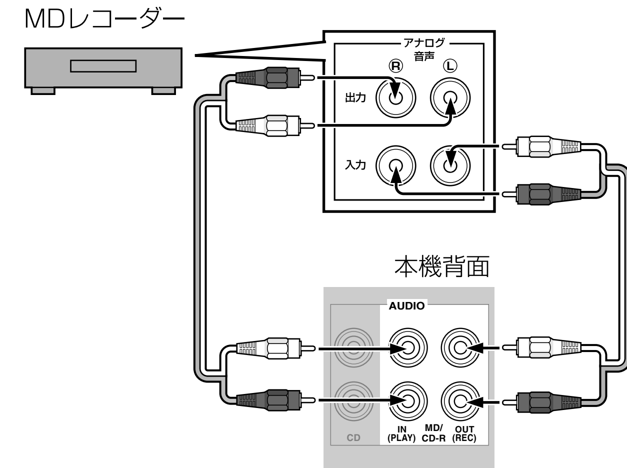
MDレコーダーの接続

デジタル音声の録音 / 再生



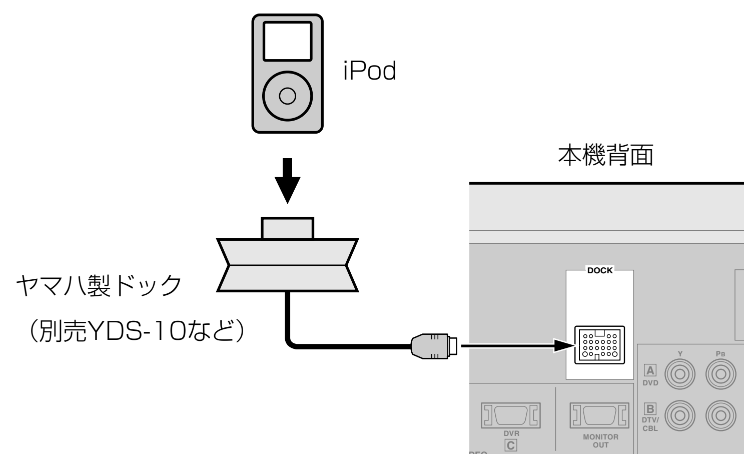
※CDレコーダーでも同様に接続できます。

アナログ音声の録音 / 再生



ヤマハ製ドックとiPodの接続

本機の DOCK 端子にヤマハ製ドック（YDS-10 など）を接続し、iPod をセットします。



※ ヤマハ製ドックは別売です。
※ ヤマハ製ドックにセットしたiPodの再生を楽しむには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選択します。

ビデオ信号の変換について

入力されたビデオ信号は、Sビデオ信号およびコンポーネントビデオ信号に変換され、Sビデオ / コンポーネントビデオ /D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。また、Sビデオ信号は、コンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ /D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。

➡ ……… セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「OFF」のときの信号の流れです。

⇨ ……… セットメニュー「DISPLAY SET」の「VIDEO CONV.」が「ON」のときのみ変換されます。
※取扱説明書の86ページをご覧ください。

※ 本機のD4入力端子とコンポーネントビデオ入力端子は同時に使用しないでください(出力端子は可)。
※ ビデオ信号を変換しても画質は向上しません。

